

就労支援に携わる方々のご参考のために
— 障害のある本人からみた、
職業についての課題
必要としている取組
効果的な取組 —

「障害・疾患のある人の自立と就業ニーズに
応える職場と地域の取組状況に関する調査」
解説資料

(障害者の自立支援と就業支援の
効果的連携のための実証的研究)

2011年3月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
障害者職業総合センター

就労支援に携わる方々のご参考のために

- 障害のある本人からみた、
職業についての課題
必要としている取組
効果的な取組 —

「障害・疾患のある人の自立と就業ニーズに
応える職場と地域の取組状況に関する調査」

解説資料

(障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究)

2011年3月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

調査研究報告書の構成

本調査研究報告書は、「No. 100」、「No. 100 の別冊資料 1」、「No. 100 の別冊資料 2」の 3 分冊で構成されており、その内容は次のとおりである。

- 1 「No. 100」は、「障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究（平成 20～22 年度）」の研究の目的、実施方法、障害のある本人に対する職業上の課題と取組に関するアンケートによる実態調査の実施結果、難病及び発達障害についてのモデル事業の実施結果、考察等を記載している。
- 2 「No. 100 の別冊資料 1」は、アンケートによる実態調査の解説資料であり、障害の主な大分類の中からデータ数等を勘案して選択した障害の例について、調査結果の一部を解説したものである。
- 3 「No. 100 の別冊資料 2」は、アンケートによる実態調査の結果について障害・疾患別（分析可能となるデータ数が得られたもの）により集計・分析を行った結果を記載している。

なお、この他の障害・疾患の集計・分析結果についても当センター研究部門のホームページにおいて掲載している。

まえがき

障害者職業総合センターは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、わが国における職業リハビリテーションの推進とサービスの質的な向上に貢献することをめざして、職業リハビリテーションに関する調査・研究、障害者の雇用に関する情報の収集・分析・提供、職業リハビリテーション施設の運営・指導、専門職員の養成・研修、障害者に対する職業リハビリテーションサービスの提供などの事業を行っており、調査研究の成果は調査研究報告書、及び、それに関連する資料シリーズ等の形で取りまとめ、関係者に提供しております。

本調査研究報告書は、当センター研究部門で行った「障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究（平成 20～22 年度）」のアンケート調査「障害・疾患のある人の自立と就業ニーズに応える職場と地域の取組状況に関する調査」結果の一部を取りまとめたものです。

本書が、就労支援に関わる各関係機関における就職支援についてお役に立てれば幸いです。

2011 年 3 月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター

研究主幹 上村俊一

目 次

I	この解説資料の趣旨	1
II	調査の内容	3
1	調査の目的	3
2	職業についての課題の設定	3
3	職場、地域、本人の取組の設定	4
4	職業についての課題と取組の関係の分析	4
III	障害・疾患別の調査結果	9
1	重度視覚障害	12
2	ろうあ	21
3	頸髄損傷	30
4	腎臓機能障害	40
5	知的障害	49
6	統合失調症	58
7	発達障害	68
8	高次脳機能障害（脳外傷による）	78
9	難病（全身性エリテマトーデス）	88
IV	参考資料	97
1	職業についての課題	97
2	職場、地域、本人の取組	98
3	課題と取組の分析についての計算例	100

I この解説資料の趣旨

I この解説資料の趣旨

この資料は、障害者職業総合センター研究部門における「障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究（平成 20～22 年度）」において行ったアンケート調査「障害・疾患のある人の自立と就業ニーズに応える職場と地域の取組状況に関する調査」の考え方と結果について、わかりやすく解説し、主に障害のある人の就労支援に携わる方々が、その支援に当たってのご参考としていただけるようまとめたものです。

この調査は、障害者個人に対して実施したもので、障害のある本人から見た、就職するに当たってまたは職業生活を続けていくに当たっての課題、必要としている取組、効果的な取組を明らかにしようとしたものです。

なお、実際の調査においては、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害、難病、慢性疾患の多くの障害・疾患を対象とし、また調査項目もきめ細かく設定したことから、本件アンケート調査において得られたデータは相当な量となっています。そこでこの資料においては、9つの障害・疾患を取り上げ、調査項目についても主なものに絞って、紹介しています。

したがって、この資料に掲載していない障害・疾患についての調査結果、また全体の調査結果の詳細については、本調査研究の調査研究報告書 No. 100 及びその別冊資料 2 をごらんください。

なお、この他の障害・疾患の集計・分析結果についても当センター研究部門のホームページにおいて掲載しています。

Ⅱ 調査の内容

II 調査の内容

1 調査の目的

障害のある人が職業生活を実現していくためには、職業についての課題があり、その解決のためには職場・関係機関・本人の取組が必要です。

このため、アンケート調査では課題解決の状況と取組の有無の状況を把握し、その両者の関係について分析し、効果的な取組を明らかにすることを試んでいます。

具体的には、あらかじめ69個の職業についての課題と134個の取組（職場・本人・関係機関の取組）を設定した上で、障害・疾患別に、各課題と取組について、取組がある場合とない場合に課題解決・未解決の状況がどのような関係になっているかを分析しています。

2 職業についての課題の設定

この調査では、障害のある人が就職し職業生活を実現していくための職業についての課題を、あらかじめ、障害がある本人の視点から次のとおり、7つの側面において69個設定しています。

なお、69個のすべてについては、「IV 参考資料」の「1 職業についての課題」（P97）に記載しています。

- 1) 自己効力感（仕事をしていく自信をもつこと）
「障害や病気があっても、やりたいことは実行できる」他6個
- 2) 就職準備（就職や就職活動を始める前の準備をすること）
「就労したいという思いを周りの人に伝えること」他4個
- 3) 就職活動
「希望の会社についての情報を集めること」他7個
- 4) 就業状況
「現在収入のある就労についている」他5個
- 5) 職場適応
「職場へ病気や障害について説明すること」他37個
- 6) 満足できる職業生活であるか
「希望と合い満足できる職業生活であること」他1個
- 7) 満足できる生活であるか
「地域で安心して生活できること」他2個

3 職場、地域、本人の取組の設定

職業についての課題を解決するに当たっては、本人の取組を支える職場の取組、及び地域の障害者を対象とした行政機関や公的な機関のさまざまな支援、取組があります。このアンケート調査では、あらかじめ、これらの取組を本人の視点から次のとおり、7つの側面において134個設定しています。

なお、134個全体については「IV 参考資料」の「2 職場、地域、本人の取組」(P98)のとおりです。

- 1) 障害者手帳または障害の判定を有すること(障害認定)
「身体障害者手帳保有」他4個
- 2) 障害者等の雇用の促進に関する法律による雇用支援制度による雇用であるか(雇用支援制度)
「雇用率制度での雇用」他1個
- 3) 支援者・機関に相談すること(支援者・機関)
「職業訓練校等の職業訓練施設*」他37個
- 4) 利用した就労支援内容(就労支援内容)
「就職や独立起業等の講座や学習会(を利用した)」他43個
- 5) 職場における支援(職場内支援)
「仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造」他34個
- 6) 就労を行う目的を持ち明確にする(就労希望理由)
「生きがいを得る」就労動機」他5個
- 7) 仕事に対処していく適切な考え方をもち(対処能力)
「チャンスがあれば、新しいことに積極的に挑戦する」性向」他3個

4 職業についての課題と取組の関係の分析

(1) 基本的な枠組み

この調査では、それぞれの「課題」についてそれぞれの「取組」の効果を数的に計測し、そのデータの比較によって客観的に「効果的な取組」を明らかにすることを試みています。つまり、69の「課題」の1つ1つについて、134の「取組」すべての効果を数的に計測し、得られたデータの比較を行うことによって、その「課題」についての「効果的な取組」を浮き彫りにすることを試みています。

しかも、障害・疾病別に、このすべての分析を行っています。つまり、障害・疾病ごとに、69(課題)×134(取組)=9,246通りの組み合わせのすべてについて分析を行うこととなります。

一見すれば、ある障害のある「課題」について、あまり関係があるとは考えられないような「取組」についてもその効果を計測していますが、これは、あくまでも同じ方法によってデータを得て、それらの比較を行うためです。

(2) 効果の計測の考え方

まず、回答者には、69の「課題」のそれぞれについて有無と解決状況を回答していただき、また、134の「取組」のそれぞれについてその有無を回答していただきます。この場合、アンケート用紙においては、69の「課題」と134の「取組」のそれぞれが独立した設問となっており、「課題」と「取組」を関連付けた設問とはなっていません。なお、アンケート用紙における回答の選択肢の書き方については必ずしも標記は統一されていませんが、課題や取組に応じたものとなっています。

では、計測方法の基本的な考え方を説明します。

障害ごとに、すべての「課題」とすべての「取組」の組み合わせ（ $69 \times 134 = 9,246$ 通り）において、下記を積算します。

①「取組」がない場合の「課題」解決の割合

②「取組」がある場合の「課題」解決の割合

次に、それぞれの組み合わせの場合において、上記の「②取組がある場合の課題解決の割合」から「①取組がない場合の課題解決の割合」を引いて、差を求めます。この差を本研究では「改善幅」と呼んでいます。このようにして得られたデータをもとに、ある障害において、ある「課題」について、それぞれの「取組」に係る「改善幅」を比較することができ、これによって、改善幅の大きな、つまり、「効果的な取組」を明らかにすることができます。この研究においては、この方法で、障害ごとに、すべての「課題」について、「有効な取組」を明らかにすることを試みています。

(3) 分析の方法

アンケート調査のデータ分析の方法は次のとおりです。

まず、職業についての課題の有無については、調査票における回答が「(課題が) 解決」、「問題なし」のものについては「解決」とし、調査票における回答が「(課題が) 未解決」のものについては「未解決」とします。

次に、取組の有無については、調査票における回答が、「(機関に) 相談した」、「(機関や支援を) 利用した」、「(職場において) 配慮、支援、整備あり」のものについては「取組あり」とし、調査票における回答が、「(機関に) 相談したことがない」、「(機関や支援を) 利用したことはない」、「(職場において) 配慮、支援、整備なし」のものは「取組なし」とします。

そして、ある障害のある「課題」とある「取組」について、それらの回答を整理すると次のようになります。

なお、実際には、回答のない場合や「不必要」という回答の場合もありますが、ここではその要素を捨象して単純化してあります。

	課題解決	課題未解決
取組あり	A	B
取組なし	C	D

計算は次のように行います。

①取組がない場合の課題解決の割合

$$\frac{\text{「課題解決」}}{\text{「課題解決」} + \text{「課題未解決」}} = \frac{C}{C+D}$$

②取組がある場合の課題解決の割合

$$\frac{\text{「課題解決」}}{\text{「課題解決」} + \text{「課題未解決」}} = \frac{A}{A+B}$$

③改善幅

「②取組がある場合の課題解決の割合」と「①取組がない場合の課題解決の割合」の差

$$\frac{A}{A+B} - \frac{C}{C+D}$$

なお、現状の課題解決の割合は次のとおりです。

$$\frac{\text{「課題解決」}}{\text{「課題解決」} + \text{「課題未解決」}} = \frac{A+C}{A+B+C+D}$$

(4) 具体的な計算例

「IV 参考資料」の「3 課題と取組についての計算例」(P100)に記載しています。

(5) 複数の取組による効果についての考え方

一つの取組だけで効果が上がっているのではなく他の取組も一緒になって効果が出ているのではないかという疑問がありえますが、これは、その通りです。データの分析結果からも、いくつかの取組といくつかの課題はセットになっていることが示されています。例えば、「職場状況の確認・相談」の取組は、「企業への同行支援」と同時に行われることが多く、「企業への必要な配慮の説明」に対して一体的な効果をもっていることが、特定の障害・疾患で認められます。取組の相乗効果もデータから認められ、「雇用率制度での雇用」と「偏見・差別防止のための職員啓発」は、それぞれを独立して行う場合よりも、併せて行う場合に、特定の障害・疾患で就業継続への効果が強くなっています。

本資料においても、その一部を紹介しています。

(6) 課題改善の考え方について

本調査においては、職業的課題への「効果的な取組」とは、ある職業的課題について「問題がある」と感じる人が少なくなる取組のことです。したがって、「課題改善」には、職業的課題における問題の解決や軽減だけでなく、職業的課題の向上の意味を含んでいます。

(7) 効果的取組の分析の前提

効果的取組は、障害のある本人からの調査の回答をもとに分析しています。つまり本人の目から見た課題、解決の状況です。これがこの調査の新しい視点であり、特徴です。しかし、一方で職場から見た場合、未解決であったり、問題がないということも考えられます。また、障害の個々の状況や仕事の内容、職場環境等によって効果的な取組は多様と考えられます。効果的取組をご覧いただく際にご留意ください。

Ⅲ 障害・疾患別の調査結果

Ⅲ 障害・疾患別の調査結果

以下に、今回のアンケート調査の対象とした障害・疾患の中から9つをとりあげ、アンケート調査の集計結果及び分析結果の一部を記載しています。

障害のある人たちは、職業についてのどのようなことが課題になっていて、どのような援助がなされているか、そして、分析の結果それらの取組が課題解決にどの程度効果的かであるかについて情報を提供しています。

障害・疾患別の記載内容は、次のような共通の構成となっています。

(1) 基礎データ

①回答者総数（男女別）、平均年齢

②居住地（都市圏であるか、都市圏以外であるかの別）

（注）都市圏とは、札幌市、仙台市、東京23区、横浜市、川崎市、千葉市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市、新潟市、浜松市、岡山市、熊本市、鹿児島市及びこれらの通勤圏

③障害手帳所持及び障害程度

④就労状況

⑤就労時間

⑥就労形態

(2) 職業についての課題

職業についての課題を就職前の課題と職場での（就職後の）課題に分けて記載しており、就職前の課題はさらに就職準備の課題と就職活動の課題に分けて掲載しています。

(3) 取組の状況

地域関係機関の支援の利用状況及び職場での配慮、支援、環境整備の状況を記載しています。

(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

得られたデータは相当な量となっており、すべての分析結果を記載することはできないため、ここでは就職準備、就職活動、職場適応に関する課題を取り上げ、それに対する各取組について、取組率（「取組あり」の回答者数の「取組あり」と「取組なし」の回答者数の合計に対する割合）と改善幅のデータを提供しています。

イ 効果的な取組により変動する職業についての課題の状況についてのグラフ表現

職業についての課題の解決状況が効果的な取組の取組率によって変動するという関係について、次のようなグラフによって、総合的に表現しています。

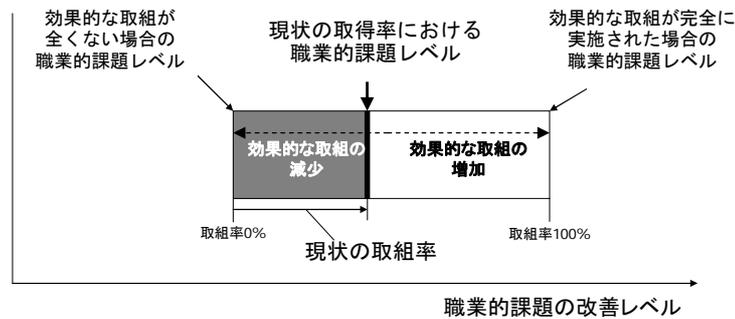


図 効果的な取組の取組状況によって変化する職業についての課題の改善レベルについてのグラフ

このグラフ表現によって、次のような内容を表しています。

①効果的な取組がある場合とない場合の課題解決の状況

灰色と白を合わせたグラフの左端が効果的な取組が全くない場合（取組率 0%）の課題解決の状況で、グラフの右端が効果的な取組が完全に実施された場合（取組率 100%）の課題解決の状況を表しています。グラフ全体の左右の幅によって、効果的な取組の有無による職業についての課題の解決状況の変動幅が表現されています。

②効果的な取組についての現状の取組状況

灰色と白を合わせたグラフ全体の幅に対する灰色部分の割合が、現状における効果的な取組の取組率を示しています。

③現状の課題状況

現状の課題解決の状況は、効果的な取組が全くない状況（取組率 0%）と完全に実施された状況（取組率 100%）の中間段階であり、効果的な取組の現在の実施状況と関係しています。具体的には、現状での課題解決の状況は、灰色部分と白部分の境界の値で表されています。

ロ 効果的な取組の具体的内容

具体的な効果的な取組については、なるべく多くの職業的課題に影響しているものを選んで記載しています。また他の取組とあわせて効果がでているものがあると考えられるため、取組の次の（ ）内に職業的課題への効果が同様にあり、かつ、当該取組と統計的に有意な相関のある取組を記載しています。

(5) 活躍している就職事例

「現在収入のある仕事に就いている」と回答した方であって、「仕事内容、作業内容」（自由記述）の回答があったもののうち、記述内容が具体的な内容となっているものの一部を中心に要約して記載しています。勤務先の企業等の固有の名称、地名などは省いています。

(6) 本人等の声

アンケート調査では、課題及び取組の選択式の回答欄の下に自由記述欄を設けてあります。ご家族や保護者の皆さんの声も含め、この欄に記載があったものの一部を要約して掲載しています。職業について困っていること、就職前の取組、就職後の取組について記載しています。

1 重度視覚障害

アンケート調査票の障害・疾患についての問において、「全盲」、「盲ろう」を選択した方、及び視覚障害に係る当事者団体を通じて回答を依頼したものであって身体障害者手帳1、2級の方の回答を集計しています。合計109人の方の回答を集計しました。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

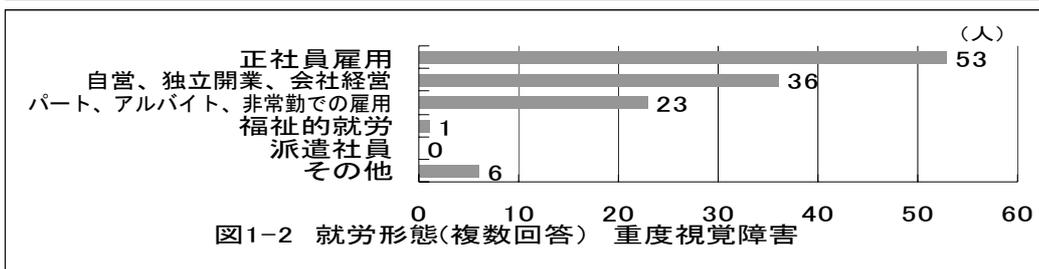
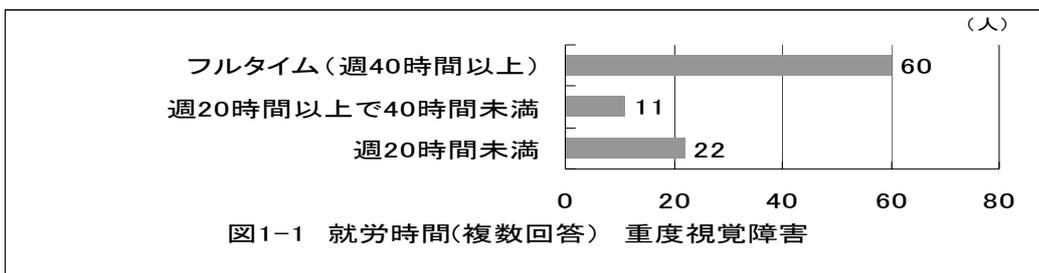
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性75人(70.1%)、女性32人(29.9%)で男性が女性の2.3倍です。
- ②平均年齢は55.9歳(標準偏差10.8歳)。
- ③居住地は都市圏(具体的な都市名はP9に記載)40人(38.1%)、それ以外65人(61.9%)で都市圏以外が1.6倍です。
- ④障害者手帳は有が105人(身体障害者手帳：105人[1級68人,2級33人,4級1人]、療育手帳等：2人[中2人]、精神障害者保健福祉手帳：4人[2級2人,3級2人])であり、全ての方が障害者手帳を所持しており、重度がほとんどです。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」68人(72.3%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」18人(19.1%)であり、合わせると86人(91.5%)が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間(複数回答)は「フルタイム(週40時間以上)」60人(就労経験者の69.8%)、「週20時間以上で40時間未満」11人(12.8%)、「週20時間未満」22人(25.6%)とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態(複数回答)は多い順に、「正社員雇用」53人(61.6%)、「自営、独立開業、会社経営」36人(41.9%)、「パート、アルバイト、非常勤」23人、「福祉的就労」1人、「派遣社員」0人、「その他」6人となっています。



(2) 職業についての課題

イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

(イ) 就職準備の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると8割（各課題についての回答者数の割合、以下同じ）を超えています。また、「課題が未解決」とする回答が「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」13人（18.6%）、「自分が能力を発揮できる仕事について調べること」12人（16.9%）等となっています。

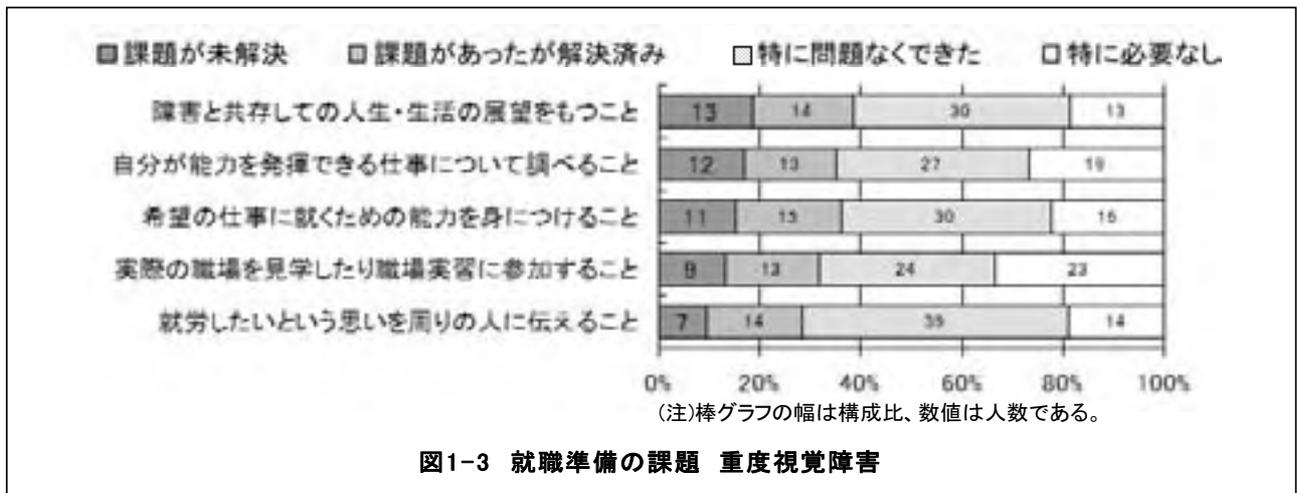


図1-3 就職準備の課題 重度視覚障害

(ロ) 就職活動の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると8割（各課題についての回答者数の割合、以下同じ）を超えています。また、「課題が未解決」とする回答が「希望の会社についての情報を集めること」13人（20.0%）、「独立起業や自営の始め方の情報を集めること」11人（16.4%）等となっています。

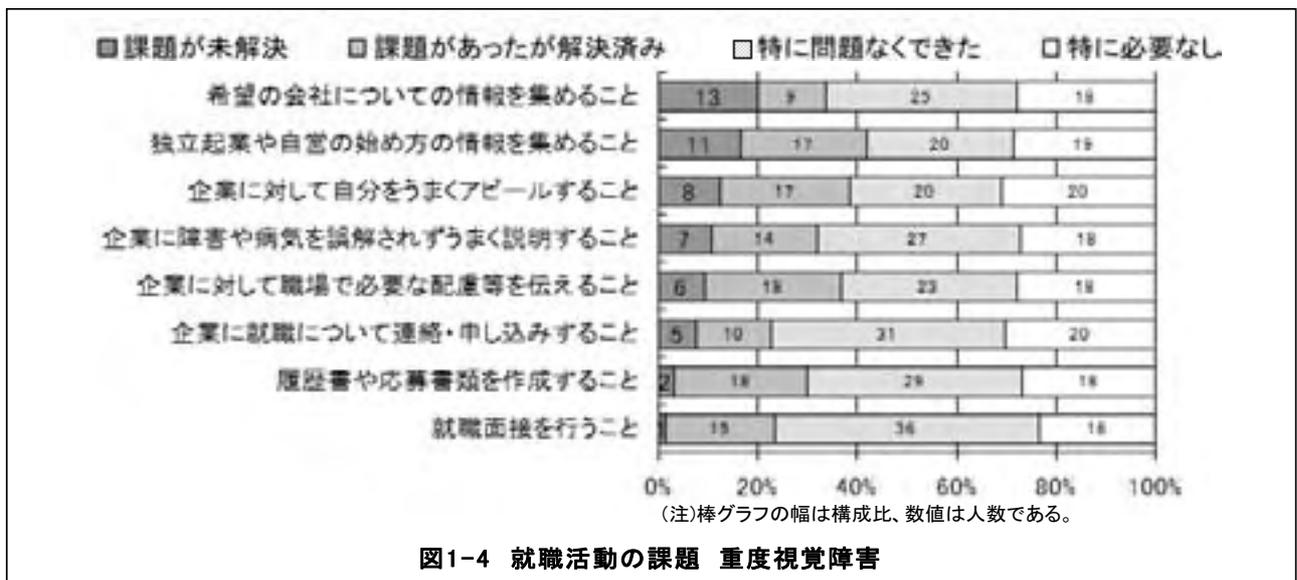


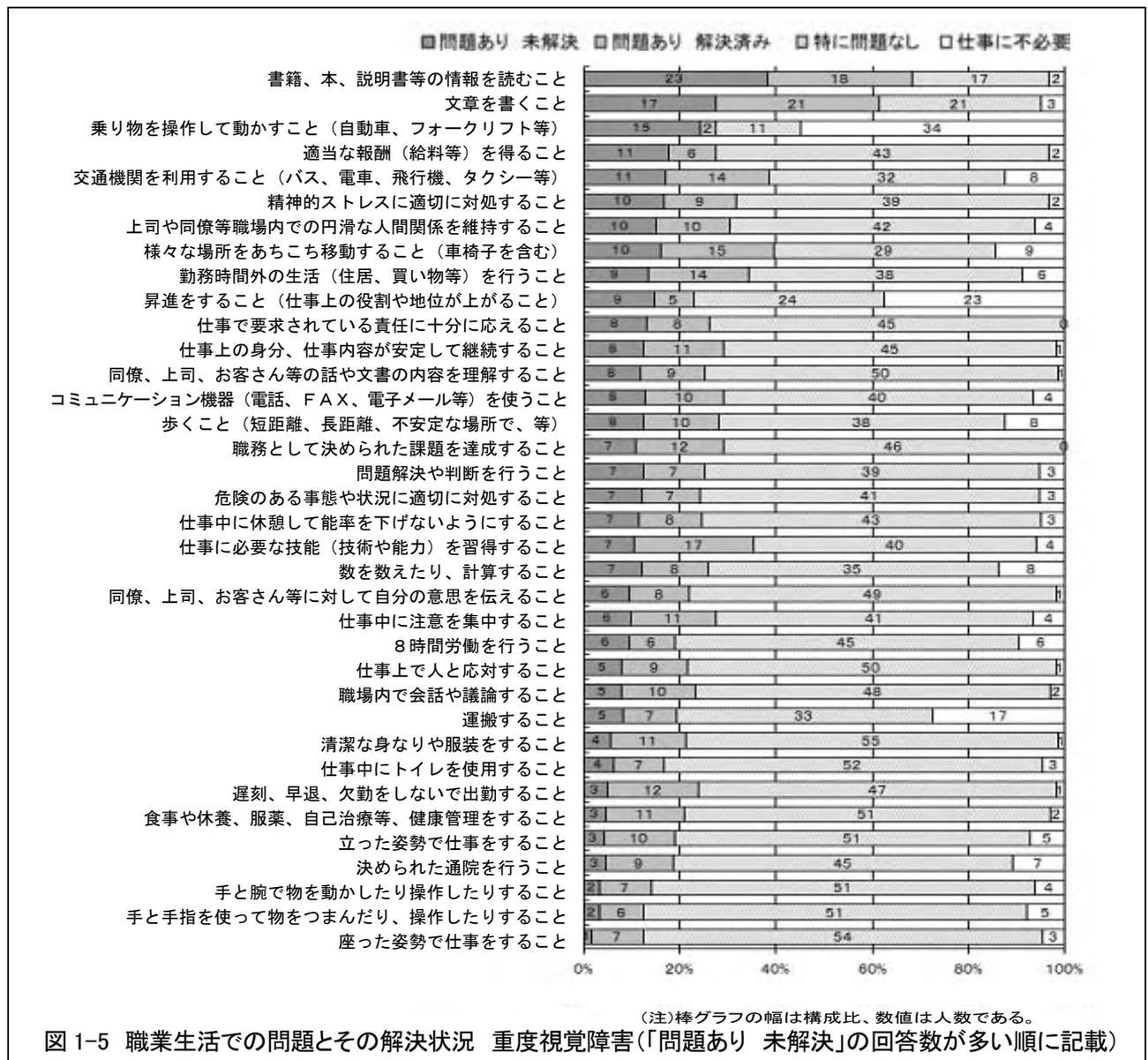
図1-4 就職活動の課題 重度視覚障害

□ 職場での課題

職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「書類、本、説明書等の情報を読むこと」23人(38.3%)、「文章を書くこと」17人(27.9%)、「乗り物を操作して動かすこと(自動車、フォークリフトなど)」15人(24.2%)となっています。一方、これらの「書類、本、説明書等の情報を読むこと」及び「文章を書くこと」は「問題あり 解決済み」の回答も多く、それぞれ18人(30.0%)、21人(33.9%)となっているとともに、「乗り物を操作して動かすこと(自動車、フォークリフトなど)」については「仕事に不必要」とする回答も34人(54.8%)と特に多くなっています。

また、「特に問題なし」を選択した項目は、「清潔な身なりや服装をすること」55人(77.5%)など、全36項目中30項目で5割を超えています。



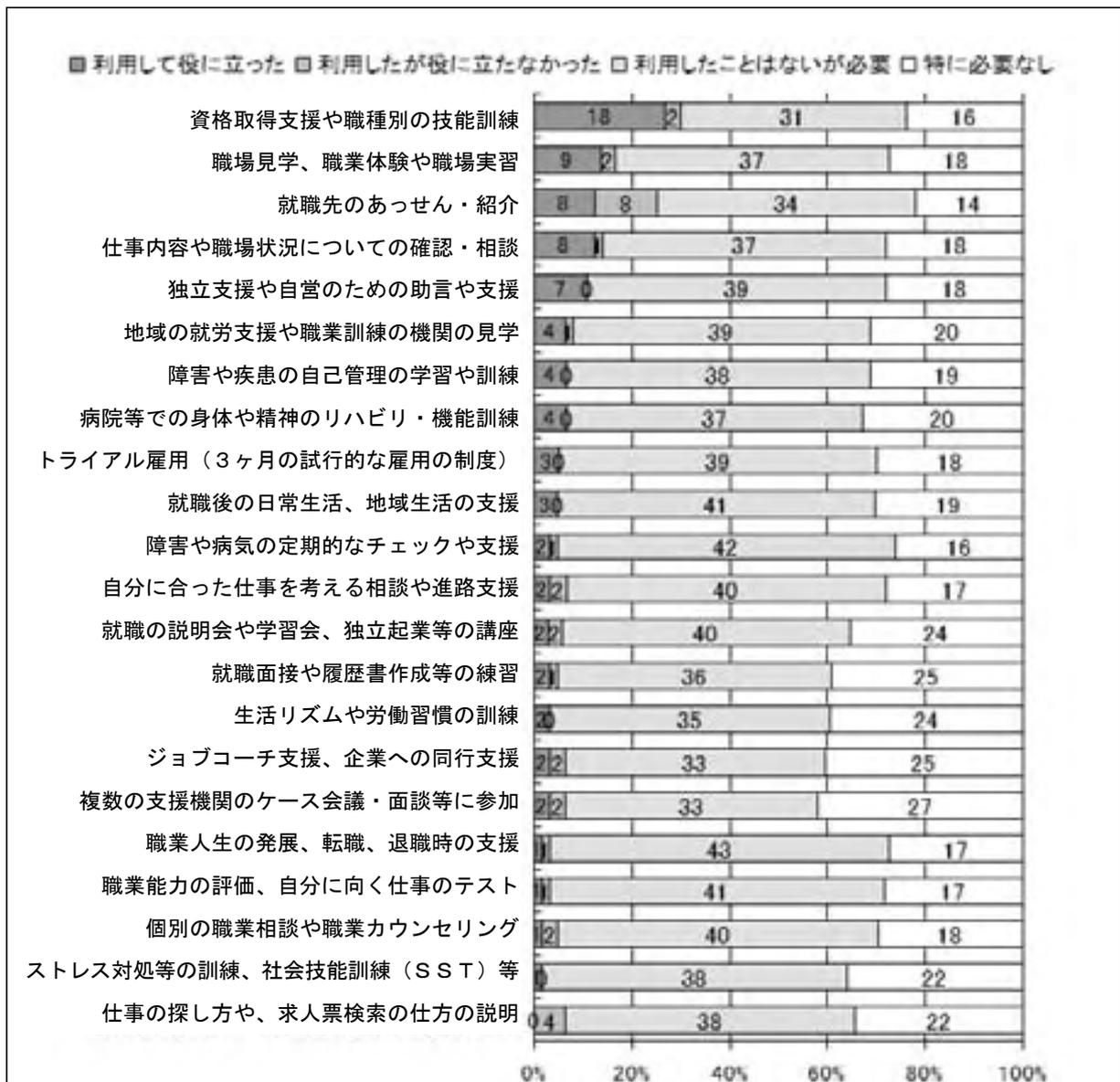
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が最も多かったものは、「資格取得支援や職種別の技能訓練」17人（この取組についての回答者数の割合（以下同じ）26.9%）です。続いて、「職場見学、職業体験や職場実習」9人（13.6%）、「就職先のあっせん・紹介」8人（12.5%）、「仕事内容や職場状況についての確認・相談」8人（12.5%）などとなっています。

なお、多くの項目で「利用したことはないが必要」との回答が5～7割、「特に必要なし」との回答が3～4割を占めています。



（注）棒グラフの幅は構成比、数値は人数である。

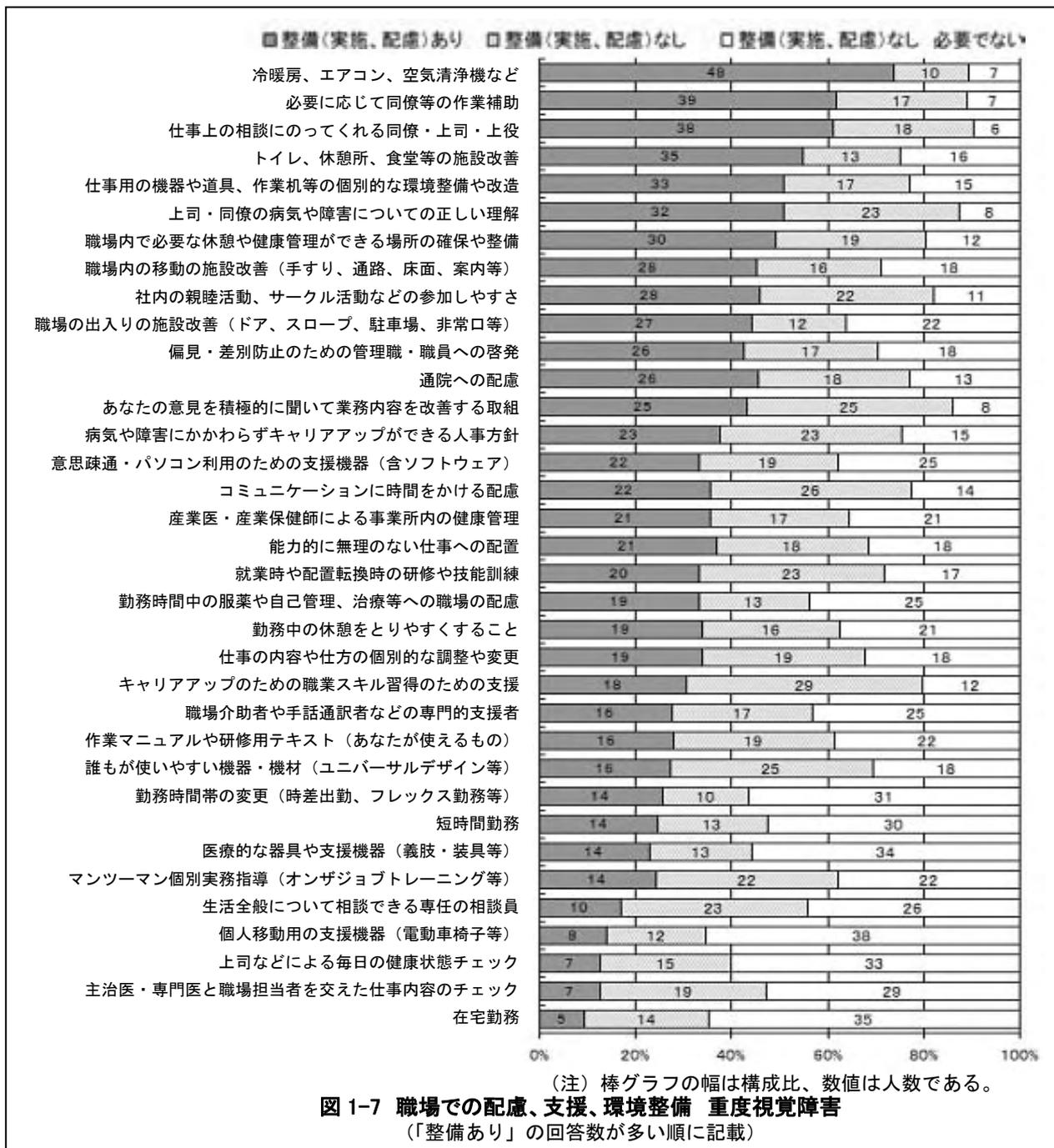
図 1-6 自立や就労支援のための支援の利用状況 重度資格障害
（「利用して役に立った」の回答数が多い順に記載）

□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答が多かったものを見ると、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」48人(73.8%)、「必要に応じた同僚等の作業補助」39人(61.9%)、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」38人(61.3%)となっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」29人(49.2%)、「コミュニケーションに時間をかける配慮」26人(41.9%)、「あなたの意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」25人(43.1%)となっています。



(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

重度視覚障害のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「資格取得支援や職種別の技能訓練」や「家族や親戚、知人、友人への就労相談」、就職後には「本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」や「仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造」等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
「資格取得支援や職種別の技能訓練」(現状の取組率:27.5%)	<p>希望の仕事に就くための能力を身につけること</p> <p>0 50 100</p>
「家族や親戚、知人、友人への就労相談」(現状の取組率:42.9%)	<p>企業に対して自分をうまくアピールすること</p> <p>0 50 100</p>

□ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」(現状の取組率:43.3%) (一体的な取組:「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(50.8%)」)</p>	
<p>「仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造」(現状の取組率:50.7%)</p>	
<p>「医療的な器具や支援機器(義装具など)」(現状の取組率:23.8%) (一体的な取組:「コミュニケーションに時間をかける配慮(35.9%)」)</p>	
<p>「職場内の移動の施設改善(手すり、通路、床面、案内など)」(現状の取組率:45.3%) (一体的な取組:「トイレ、休憩所、食堂等の施設改善(54.5%)」)</p>	
<p>「誰もが使いやすい機器・機材(ユニバーサルデザイン等)」(現状の取組率:27.9%) (一体的な取組:「マンツーマン個別実務指導(オンザジョブトレーニングなど)(25.0%)」)</p>	
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:50.8%)</p>	
<p>「仕事の内容や仕方の個別的な調整や変更」(現状の取組率:34.5%)</p>	

(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・あんまはり施術業（男 37 歳）・鍼灸マッサージ治療（男 53 歳）・旅館でのマッサージ師（男 50 歳）
- ・病院勤務 マッサージ師（男 50 歳）・あんま・マッサージ・指圧等（男）
- ・理学療法士の助手、鍼灸マッサージ業（女 56 歳）・病院勤務（鍼灸マッサージ）（女 50 歳）
- ・老人福祉施設で、リハビリの指導をしている。（男 56 歳）
- ・理学療法士（男 69 歳）書類作成などの補助 ・理学療法士業務（老人保健施設）（男 50 歳）
- ・理学療法士として、個人病院経営の通所リハビリテーションに勤務（男 57 歳）
- ・病院のリハビリ（訓練士）（男 55 歳）・教員（男 65 歳）
- ・20 代は一般事務、その後資格取得後電話交換、その後資格取得後病院マッサージ、リハビリテーション（女 59 歳）・ケアマネ他、法人の管理業務兼現場（男 47 歳）
- ・点字図書館業務（男 57 歳）
- ・講演会講師 ・点字出版作業（広報紙の点字作成等）・視覚障害者団体での事務作業・講演会は視覚障害者や盲導犬について（女 35 歳）
- ・視覚障害者の為の情報提供施設勤務（男 49 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・マッサージ、ハリ（男 53 歳）
- ・市の高齢者福祉事業として、マッサージ師の扶助で マッサージ師（女 52 歳）
- ・病院勤務（鍼灸マッサージ）（女 50 歳）・特別養護老人ホームで理学療法士（男 68 歳）
- ・デイサービスの利用者のマッサージ、リハビリ（女 60 歳）
- ・録音図書、テープの作成、点字印刷発送など（男 58 歳）
- ・盲学校点字指導講師（元盲学校教員）（男 76 歳）・高齢者福祉、障害者福祉に関わる事務（男 48 歳）

【自営、独立開業、会社経営】

- ・マッサージの仕事。自営。（女 69 歳）・鍼灸マッサージの仕事。自営（男 32 歳）
- ・鍼灸マッサージ師（男 32 歳）・マッサージ業（男 67 歳）
- ・現在、はりマッサージの治療院を独立開業して15年をこえる。（男 38 歳）
- ・鍼・灸・マッサージ（男 61 歳）・病院のリハビリ室勤務。定年後はマッサージを開業。（男 60 歳）
- ・マッサージ、鍼治療院（男 62 歳）・はり、きゅう、あんま、マッサージ（男 50 歳）
- ・自営業でアハキ業（男 60 歳）
- ・鍼灸治療院自営（男 64 歳）・あんまはり施術業（男 37 歳）・鍼灸マッサージ（女 62 歳）・あんま・マッサージ・指圧等（男）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・就職を求めて訪ねてみたが、環境を改善する経済力がないと多くの企業で言われた。
- ・公的な障害者面接会などに行っても、受付の時点で、「視覚障害者は無理」と門前払いされた。
- ・障害者は仕事ができない、と見られること。視覚障害者は、はり、きゅう、マッサージ以外の仕事ができない、そして必要ない、と思われていること。
- ・視覚障害のため職種に制限あり。
- ・視覚障害者に雇用の幅を（パソコン使える）広げてほしい。

ロ 就職前の取組

- ・私は生まれつき目が不自由で、高校の課程から盲学校に入学し、鍼（ハリ）・灸・あんま、マッサージ、指圧師の資格を取得した。
- ・人生を生きぬくためには、障害の程度に合った技能を習得する事が必要と思う。ぼくも視覚障害者（19才の時から）であるが、両親が盲学校～専門の鍼・マッサージの学校へ通わせてくれたおかげで、現在がある。現在62才になったがおかげ様で、妻、子供、孫子も得ることができたのも、若い時、技能を習得し開業したことであると思う。
- ・公的な支援を積極的に受け、勇気を持ってチャレンジしていけば、自分の希望する仕事につけると思う。国や機関で企業や事業所などに対し、障害者を理解する為の研修をしてほしい。
- ・盲学校在学中に仕事の選択肢や情報をもっとほしかった。
- ・ハローワークで視覚障害の求人を探してほしい。

ハ 就職後の取組

- ・仕事内容や環境の改善のための話し合い、PC音声ソフト、声がけ（名前）、書類作成などの補助、個人的に文字を読んでもらうことが必要(支援を受けている)。
- ・パソコン等、勤務先で努力してもらい、ソフトなど自分でも買いそろえた。
- ・様々な場所を移動することや交通機関利用は問題があったが、ヘルパー利用で解決しつつある。
- ・文書処理や測定検査の読み取りや記入をする職員の配置。事務系以外の業務は職場介助員制度があるものの、手当てが少ないため常時配置できないのが悩み。
- ・当事者支援でなく、受け入れ側が障害者について理解することが必要(理解を得ている)。

2 ろうあ

アンケート調査票の障害・疾患についての問において、「ろうあ」を選択した方及び障害の具体的状況の記述欄に「聾」と記載があった方からの回答の合計 153 人の方の回答を集計しました。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

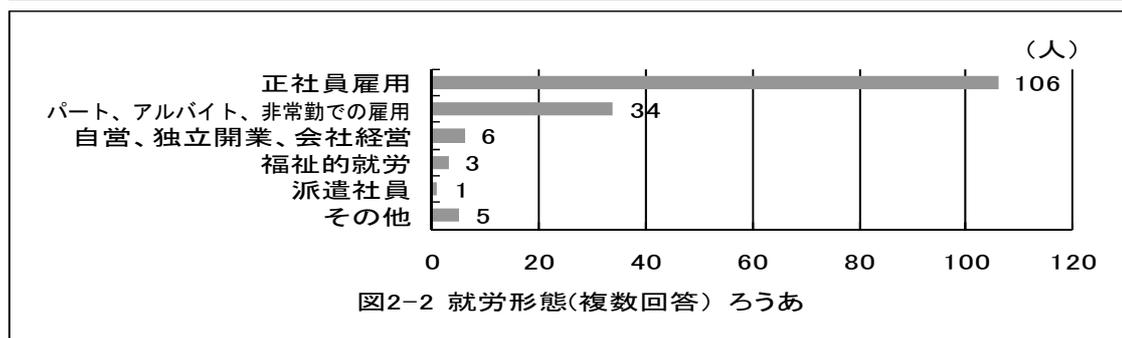
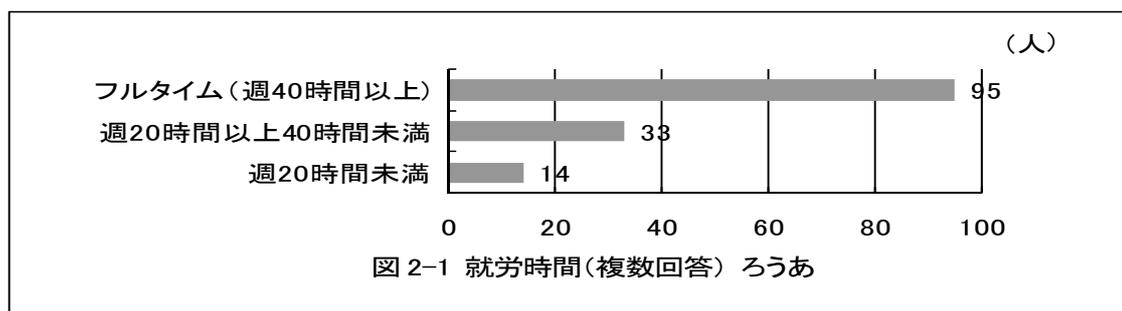
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性 103 人 (68.2%)、女性 48 人 (31.8%) で男性が女性の 2.1 倍です。
- ②平均年齢は 46.9 歳 (標準偏差 11.1 歳)。
- ③居住地は 都市圏 (具体的な都市名は P9 に記載) 36 人 (24.2%)、それ以外 113 人 (75.8%) で 都市圏以外が 2 倍以上です。
- ④ 障害者手帳は有が 151 人 (身体障害者手帳： 151 人 [1 級 47 人, 2 級 100 人, 3 級 1 人, 4 級 2 人, 5 級 1 人, 6 級 1 人]、療育手帳等： 1 人 [級不明]、精神障害者保健福祉手帳： 1 人 [2 級 1 人]) であり、ほとんどの方が身体障害者手帳を所持しており、重度がほとんどです。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」97 人 (82.9%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」17 人 (14.5%) であり、合わせると 97.4% が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間 (複数回答) は「フルタイム (週 40 時間以上)」95 人 (83.3%)、「週 20 時間以上 40 時間未満」33 人 (28.9%)、「週 20 時間未満」14 人 (12.3%) とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態 (複数回答) は多い順に、「正社員雇用」106 人 (93.0%)、「パート、アルバイト、非常勤での雇用」34 人 (29.8%)「自営、独立開業、会社経営」6 人、「福祉的就労 (就労移行/継続、作業所、デイケア等)」3 人、「派遣社員」1 人、「その他」5 人 となっています。



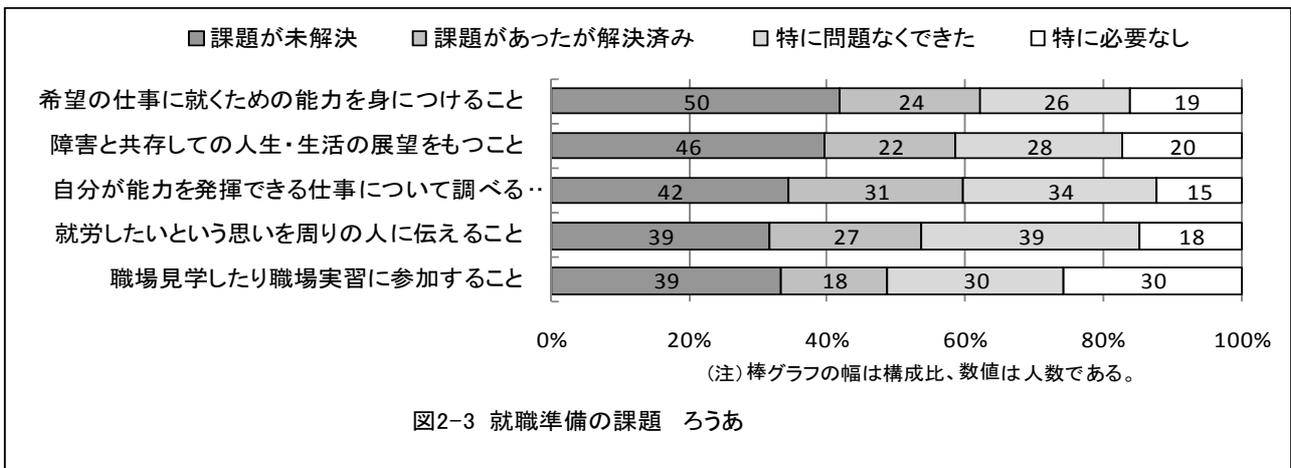
(2) 職業についての課題

イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

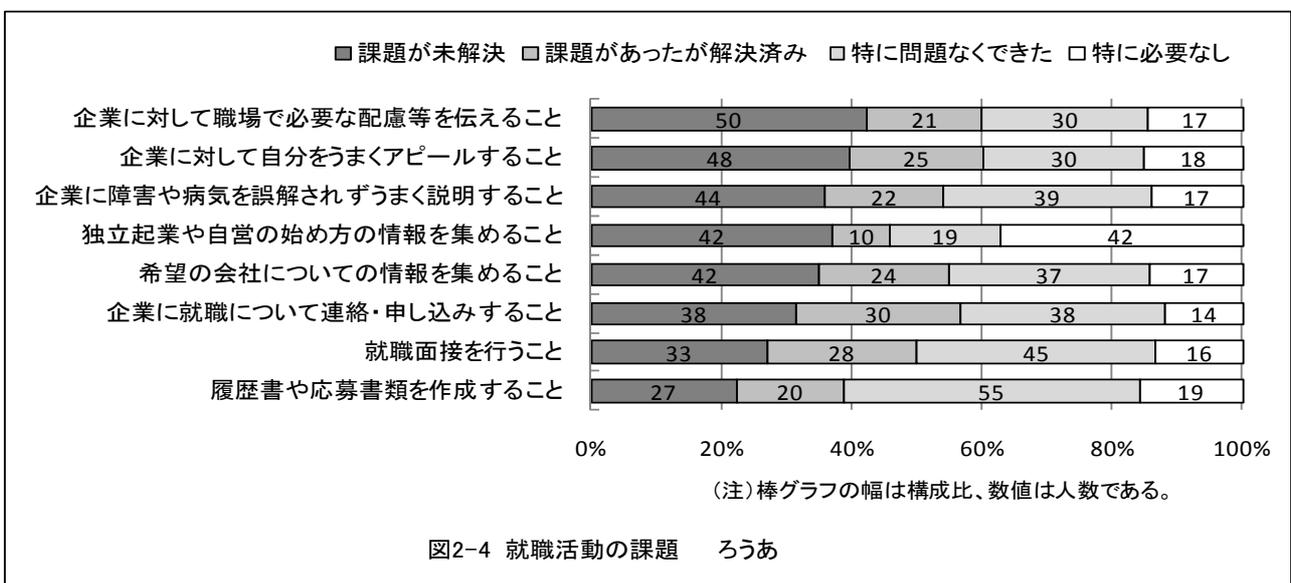
(イ) 就職準備の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると6~7割（各課題についての回答者数の割合(以下同じ)）を占めていますが、「課題が未解決」とする回答が「希望の仕事に就くための能力を身につけること」50人（42.0%）、「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」46人（39.7%）であり、他の課題よりやや多くなっています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると6~7割を占めていますが、「課題が未解決」の回答が多かったものは、「企業に対して職場で必要な配慮等を伝えること」50人（42.4%）、「企業に対して自分をうまくアピールすること」48人（39.7%）であり、他の課題よりやや多くなっています。



□ 職場での課題

職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「職場内で、会話や議論をすること」63人(46.7%)、「昇進をすること」54人(43.2%)、「同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること」52人(39.4%)となっています。

また、「問題あり 解決済み」の回答が少なかったものは、「昇進をすること」9人となっています。

一方、「特に問題なし」とする回答者も多くを占める項目もあります。「特に問題なし」の回答数が多い項目は「歩くこと(短距離、長距離、不安定な場所で、など)」100人(78.9%)、「手と腕で物を動かしたり操作したりすること」100人(78.1%)など体を使ったり移動したりすることの項目が該当します。

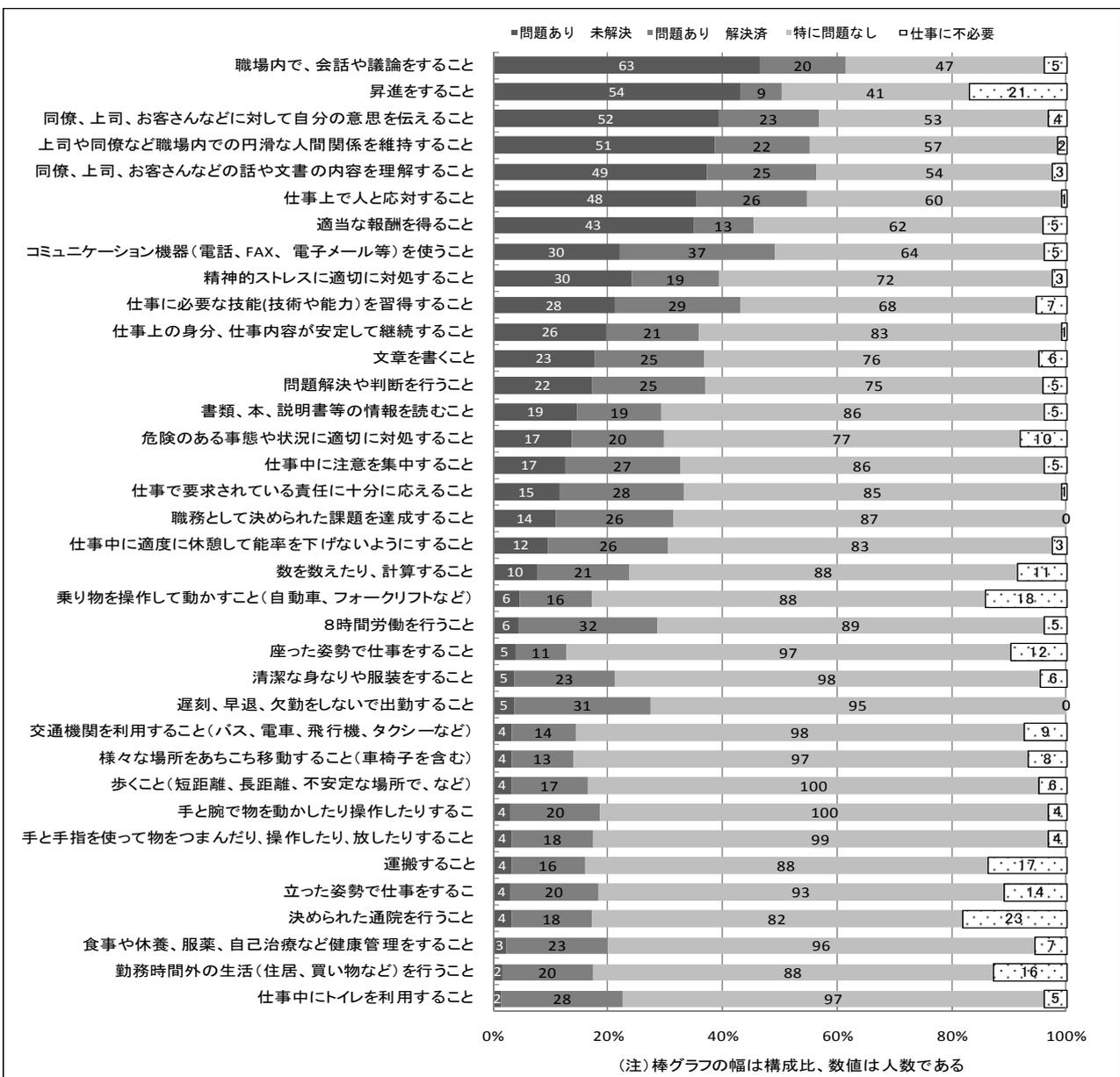


図2-5 職業生活での問題とその解決状況(「問題あり 未解決」の回答数が多い順に記載) ろうあ

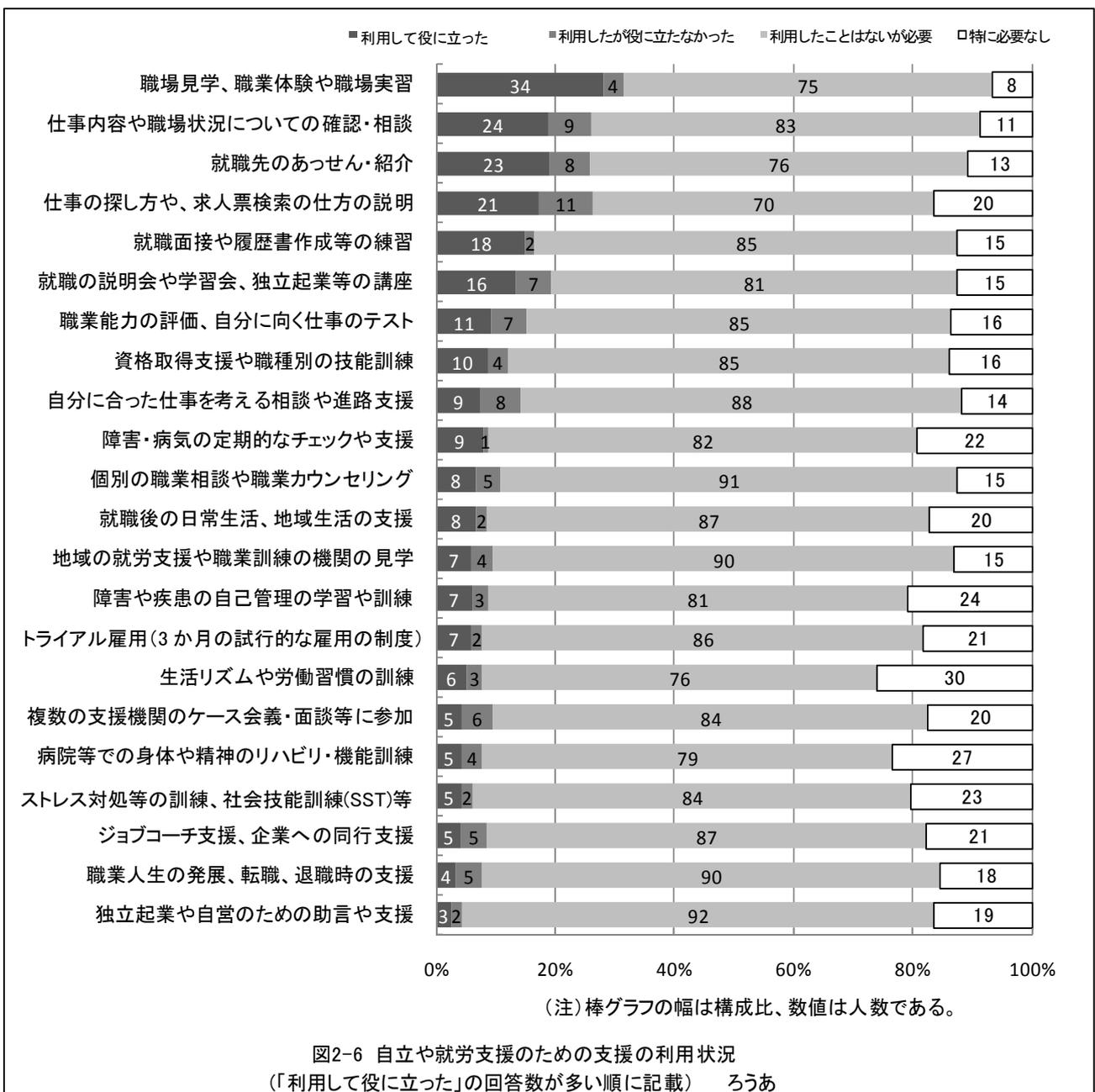
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が最も多かったものは、「職場見学、職業体験や職場実習」34人（この取組についての回答者数の（以下同じ）28.1%）です。続いて「仕事内容や職場状況についての確認・相談」24人（18.9%）、「就職先のあっせん・紹介」23人（19.2%）、「仕事の探し方や、求人票検索の仕方の説明」21人（17.5%）となっています。

なお、多くの項目で「利用したことはないが必要」との回答が6～7割、「特に必要なし」との回答が1～2割を占めています。

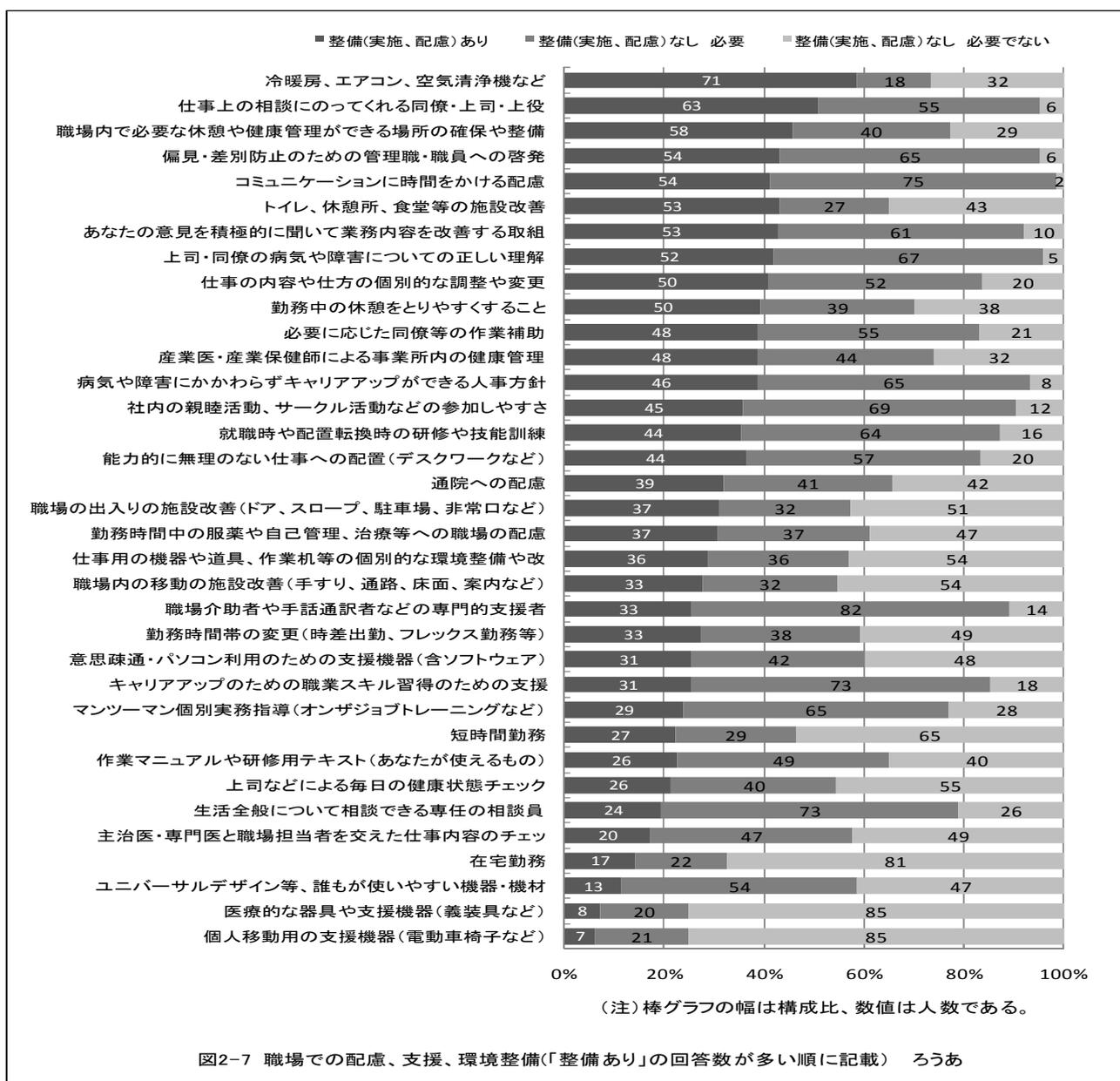


□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし 必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」71人（58.7%）、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」63人（50.8%）、「職場内で必要な休憩や健康管理ができる場所の確保や整備」58人（45.7%）となっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「職場介助者や手話通訳者などの専門的支援者」82人（63.6%）、「コミュニケーションに時間をかける配慮」75人（57.3%）、「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」73人（59.8%）、「生活全般について相談できる専任の相談員」73人（59.3%）となっています。



(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

ろうあの人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「職場見学、職業体験や職場実習」や「就職先のあっせん・紹介」、就職後には「本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」や「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「職場見学、職業体験や職場実習」(現状の取組率:18.8%) (一体的な取組:「就職面接や履歴書作成等の練習」(11.1%))</p>	<p>実際の職場の見学や職場実習・体験をすること 障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと 企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること 本人が能力を発揮できる仕事について語ること 企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること 希望の会社についての情報を集めること 就労したいという思いを周りの人に伝えること 企業に就職について連絡・申し込みすること 履歴書や応募書類を作成すること</p>
<p>「就職先のあっせん・紹介」(現状の取組率:18.5%)</p>	<p>企業に対して自分をうまくアピールすること 企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること 就職面接を受けること 企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること 企業に就職について連絡・申し込みすること 履歴書や応募書類を作成すること</p>
<p>「就職面接や履歴書作成等の練習」(現状の取組率:11.1%) (一体的な取組:「就職の説明会や学習会、起業等の講座」(11.0%))</p>	<p>障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと 希望の会社についての情報を集めること 企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること 企業に就職について連絡・申し込みすること 就職面接を受けること 履歴書や応募書類を作成すること</p>

□ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」(現状の取組率:35.1%)</p>	<p>職場内で、会話や議論をすること 異議をすること 仕事上で人と対すること 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること 同僚、上司、お客さんなどの話や文書の内容を理解すること 同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること 適切な判断を得ること コミュニケーション機器(電話、FAX、電子メール等)を使うこと 精神的ストレスに適切に対処すること 仕事に必要な技能を習得すること 仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること 問題解決や判断を行うこと 危険のある事態や状況に適切に対処すること 文章を書くこと 書籍、本、説明書等を読むこと 仕事中に注意を集中すること 仕事で要求されている責任に十分に応えること 職務として決められた課題を達成すること 仕事中に過度に休憩して効率を下げないようにすること 数を数えたり、計算すること</p>
<p>「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」(現状の取組率:30.5%) (一体系的な取組:「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(33.8%)」)</p>	<p>職場内で、会話や議論をすること 必要な配慮や支援等についての職場への説明 同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること 病気や障害についての職場への説明 精神的ストレスに適切に対処すること 仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること 危険のある事態や状況に適切に対処すること</p>
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:33.8%)</p>	<p>職場内で、会話や議論をすること 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること 仕事上で人と対すること 同僚、上司、お客さんなどの話や文書の内容を理解すること 同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること コミュニケーション機器(電話、FAX、電子メール等)を使うこと 精神的ストレスに適切に対処すること 危険のある事態や状況に適切に対処すること</p>
<p>「生活全般について相談できる専任の相談員」(現状の取組率:14.5%)</p>	<p>同僚、上司、お客さんなどの話や文書の内容を理解すること 同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること 仕事上で人と対すること 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること コミュニケーション機器(電話、FAX、電子メール等)を使うこと 仕事に必要な技能を習得すること</p>

(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・分析試験職（男 54 歳）・土木・建築技術者としての業務（元請） *後方支援（男 40 歳）
- ・3回職場を変えたが同じ職種（医療技術職（歯科技士））（女 29 歳）・機械設計（半導体装置の開発）（男 56 歳）・建設設計、監理（男 48 歳）
- ・主にデスクワークでパソコン入力、書類の整理、発送など、聴障者でも問題なくできる仕事であれば手伝いもしている。（男 49 歳）
- ・福祉団体職員（男 38 歳）・公務員（男 58 歳）・土木設計（男 55 歳）・研究補助（男 59 歳）
- ・水洩れチェック作業（男 29 歳）
- ・パソコン使用による求人広告業務（男 52 歳）・パソコン関係の仕事。（男 34 歳）
- ・一般事務（女 38 歳、女 36 歳、女 41 歳）・一般事務とタイプ（和文・英文）（女 56 歳）
- ・事務系。パソコン、インターネット等。（男 44 歳）・オペレータ（金融関係）（女 50 歳）
- ・聴覚障害者情報提供施設の管理団体の事務員（女 27 歳）・ATM 等端末の製造販売保守等の企業（女 33 歳）
- ・特別支援学校の事務職員（男 31 歳）・印章オペレータ（女 53 歳）・パソコン入力作業（男 39 歳）
- ・データ入力中心デスクワーク。（男 57 歳）
- ・自動車製造業（組立）（女 44 歳）・製造業、電気関係（男 33 歳）
- ・自動車部品製造、梱包してケースに入れる。（男 61 歳）
- ・製菓会社で包装（女 29 歳）・包装作業、LPD 検査作業（男 23 歳）
- ・リサイクル（男 62 歳）・印刷（男 47 歳）・シミ・黄変抜き（男 40 歳）・塗装（男 47 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・高校非常勤の講師、週に14時間の授業担当。（女 32 歳）
- ・以前…情報事務（一般企業で正社員）現在…臨時職員（県立の福祉施設）事務・難聴児支援補助（女 30 歳）・事務員（女 34 歳）・一般事務（女 38 歳）・パソコンを使う仕事、単調な仕事、組立（女 40 歳）
- ・スーパーの青果班で品物加工、店頭に出す。（女 54 歳）
- ・制服：ボタン等をつける作業（女 51 歳）

【自営、独立開業、会社経営】

- ・理容業（男 64 歳）・理容業自営（女 60 歳）

【その他】

- ・契約社員 経理（男 30 歳）・団体職員（事務）（男 43 歳）・準社員 清掃（男 47 歳）・嘱託社員 製造業の試験業務（女 41 歳）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・面接までこぎつけるのが大変（TELができない、応対ができない等のため断られる）。
- ・面接等に手話通訳をつけてもらえないので伝わったかどうか不安。
- ・会議などに手話通訳者を配置できるように交渉したが大変。
- ・会議、打ち合わせ、ミーティング、朝礼時などのコミュニケーション。筆談だけでは意思疎通が完全でない面がある。*手話通訳は、研修、会議日程が前もって分かれば、派遣できるが、緊急的なものは時間的に制約がある。
- ・昼食の時会話がまったくわからない。楽しい昼食なのに、自分には楽しめない。何の話？と何回も言うのがつかれたのでせめて1人で昼食したい。
- ・中途失聴者を知らない方が多い。要約筆記者が必要であることが理解されないと社会参加が難しい。
- ・障害者雇用者は、班長、係長、管理職などへの昇進がない。つまり報酬が上らない。

ロ 就職前の取組

- ・健康な時にしていた仕事ができないので、障害の状況に合う仕事を探す時にスキルがないので困った。
- ・障害や病気をいかにして周囲の人たちに理解してもらえるか、アピールができるかどうかで、分れ道になることが多いように思う。そのための幼少時からのより専門的な教育・訓練・福祉・労働・生活など支援機関の援助の充実が必要と思う。

ハ 就職後の取組

- ・朝礼、一時的集会の時、聞こえないなのでメモの作成を上司、班長へ要望した。たまにメモを読みながら話しかけたが、結局十分ではなかった。
- ・同僚も生徒も積極的にホワイトボードを活用してくれた。
- ・手話通訳（職場でのコミュニケーション、会議、研修など）、FAX・電子メール、回覧板の活用（職場内だけではなく外部の人に対して伝えること）、要約筆記、ゆっくり会話、会議の内容の周知、DVDを活用した作業内容の説明等が必要（支援を受けている）。
- ・手話通訳が可能なジョブコーチを望む。

3 頸髄損傷

アンケート調査票の障害・疾患についての間に「頸髄損傷」を選択回答した 146 人の方の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

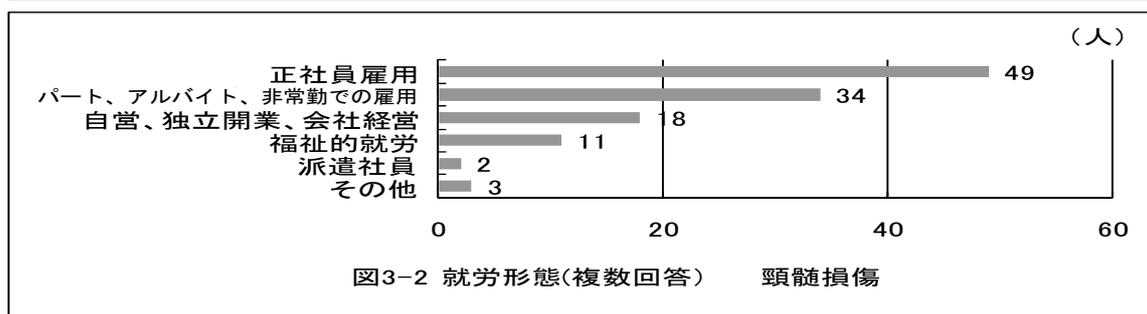
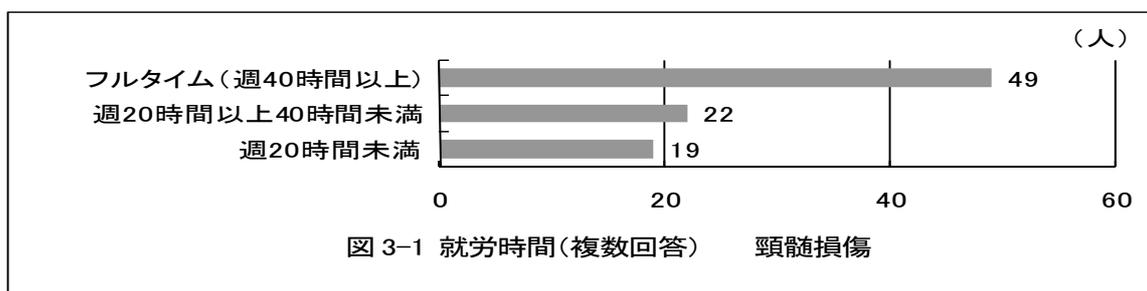
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性 115 人 (82.7%)、女性 24 人 (17.3%) で男性が 8 割を超えています。
- ②平均年齢は 51.3 歳 (標準偏差 12.1 歳)。
- ③居住地は 都市圏 (具体的な都市名は P9 に記載) 67 人 (48.6%)、それ以外 71 人 (51.4%) で都市圏以外がやや多くなっています。
- ④障害者手帳は有が 126 人 (身体障害者手帳：124 人 [1 級 112 人, 2 級 4 人, 3 級 2 人, 4 級 1 人, 5 級 1 人, 6 級 3 人]、療育手帳等：2 人 [中度 1 人]、精神障害者保健福祉手帳：3 人 [1 級 1 人, 2 級 1 人, 3 級 1 人]) であり、全 146 人のうち 85.8% が手帳を所持しています。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」53 人 (42.4%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」38 人 (29.6%) であり、合わせると 72.3% が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間 (複数回答) は「フルタイム (週 40 時間以上)」49 人 (就労経験者 91 人の (53.8%)、「週 20 時間以上 40 時間未満」22 人 (24.2%)、「週 20 時間未満」19 人 (20.9%) とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態 (複数回答) は多い順に、「正社員雇用」49 人 (53.8%)、「パート、アルバイト、非常勤での雇用」34 人 (37.4%) 「自営、独立開業、会社経営」18 人、「福祉的就労 (就労移行/継続、作業所、デイケア等)」11 人、「派遣社員」2 人、「その他」3 人 となっています。



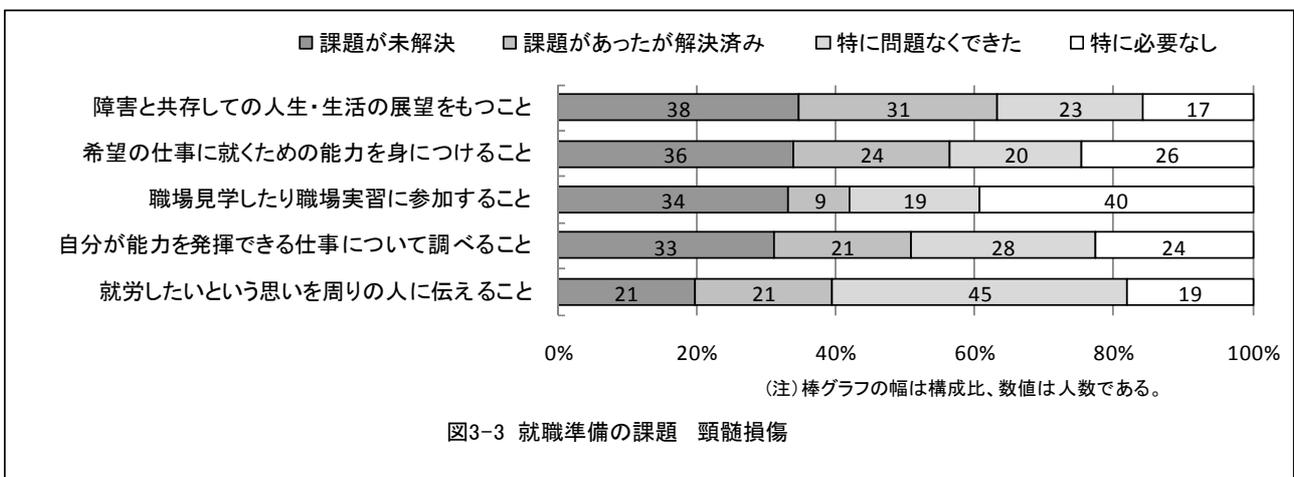
(2) 職業についての課題

イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

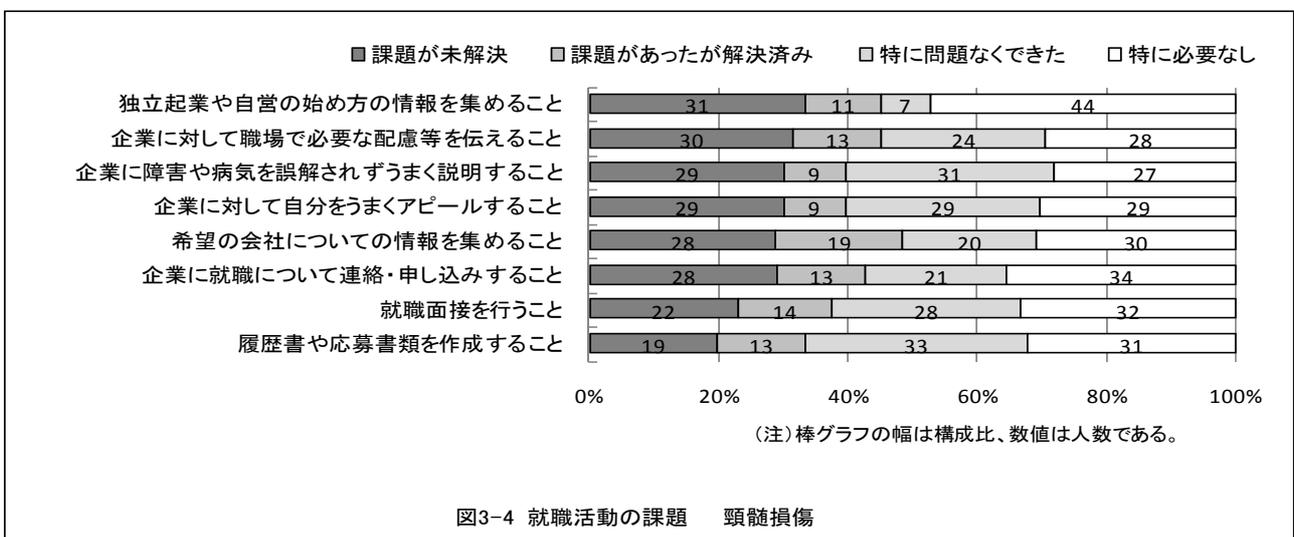
(イ) 就職準備の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると「就労したいという思いを周りの人に伝えること」が8割、その他の4項目が6~7割（各課題についての回答者数の割合(以下同じ)）を占めています。しかし、「課題が未解決」とする回答が「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」38人(34.9%)、「希望の仕事に就くための能力を身につけること」36人(34.0%)等となっています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると、「履歴書や応募書類を作成すること」及び「就職面接を行うこと」を除き約8割を占めていますが、「課題が未解決」の回答は、「独立起業や自営の始め方の情報を集めること」31人(33.3%)、「企業に対して職場で必要な配慮等を伝えること」30人(31.6%)などとなっています。

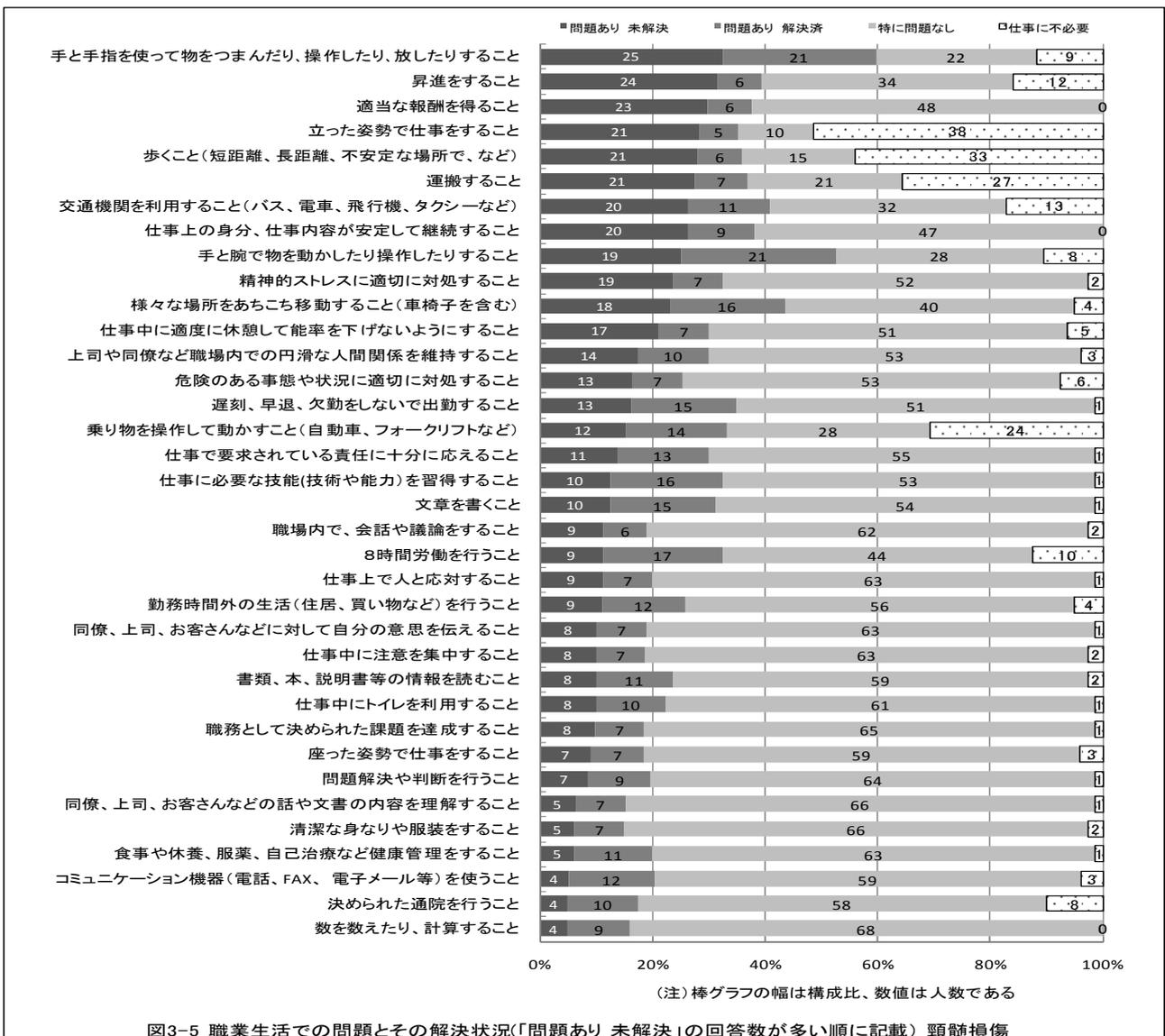


□ 職場での課題

職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「手と手指を使って物をつまんだり、操作したり、放したりすること」25人(32.5%)、「昇進をすること」24人(31.6%)、「適当な報酬を得ること」23人(29.9%)などとなっています。また、これらについては「問題あり 解決済み」の回答は「手と手指を使って物をつまんだり、操作したり、放したりすること」21人(27.3%)あるが、「昇進をすること」及び「適当な報酬を得ること」はいずれも6人となっています。

一方、「特に問題なし」とする回答者も相当数程度ある項目もあります。「特に問題なし」を選択した人数が多い項目は「数を数えたり、計算すること」68人(84.0%)、「同僚、上司、お客さんなどの話や文書の内容を理解すること」66人(83.5%)、「清潔な身なりや服装をすること」66人(82.5%)、「職務として決められた課題を達成すること」65人(80.2%)などとなっています。



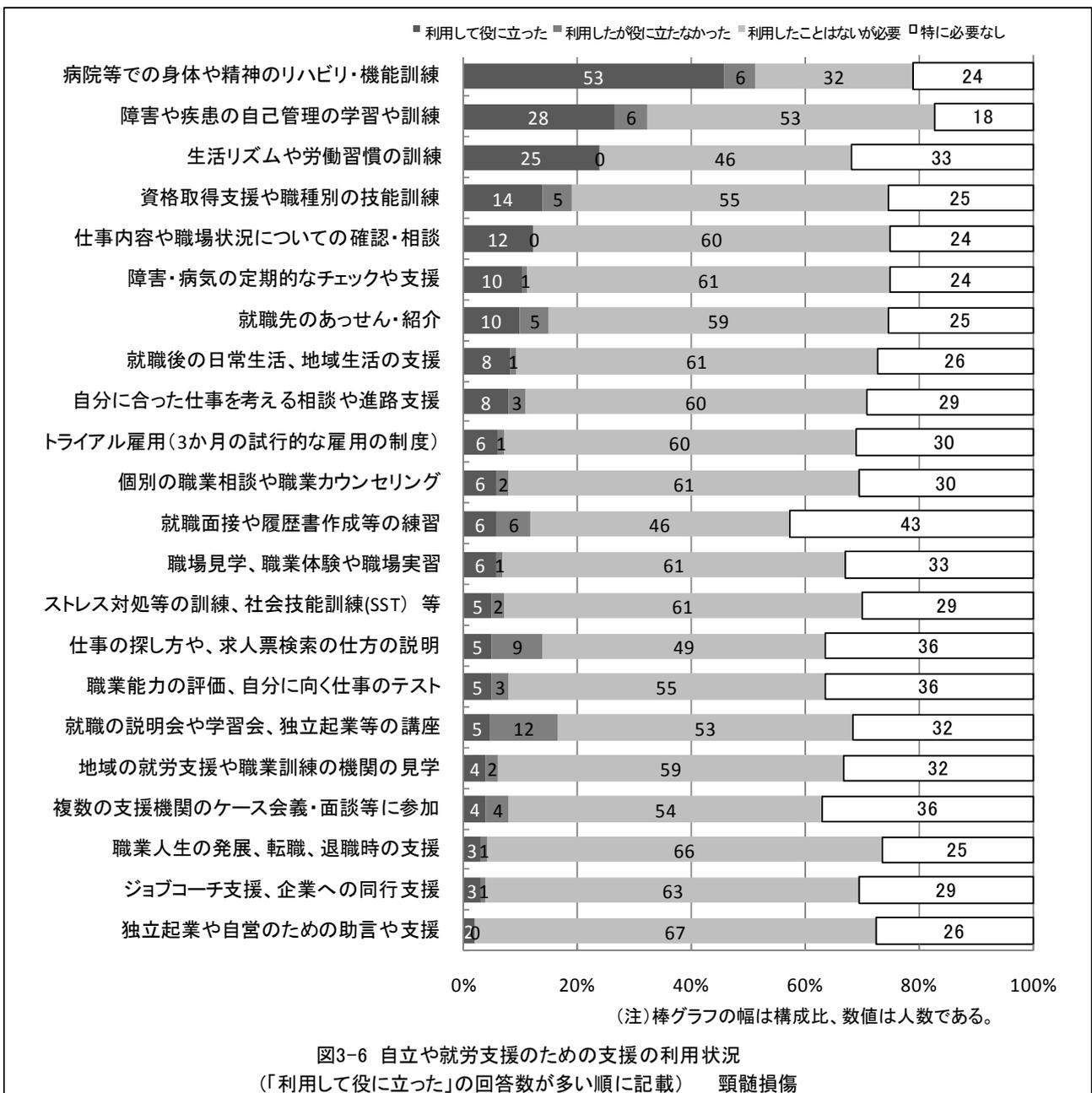
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が多かったものは、「病院等での身体や精神のリハビリ・機能訓練」53人(46.1%)、続いて「障害や疾患の自己管理の学習や訓練」28人(26.7%)、「生活リズムや労働習慣の訓練」25人(24.0%) などとなっています。その他の支援は1割程度以下のものが多くなっています。

なお、多くの項目で「利用したことはないが必要」との回答が5～6割、「特に必要なし」との回答が2～3割を占めています。



□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「職場の出入りの施設改善（ドア、スロープ、駐車場、非常口等）」52人（65.0%）、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」51人（63.8%）、「トイレ、休憩所、食堂等の施設改善」44人（56.4%）などとなっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」32人（42.1%）、「能力的に無理のない仕事への配置（デスクワークなど）」30人（39.0%）、「あなたの意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」28人（37.8%）などとなっています。

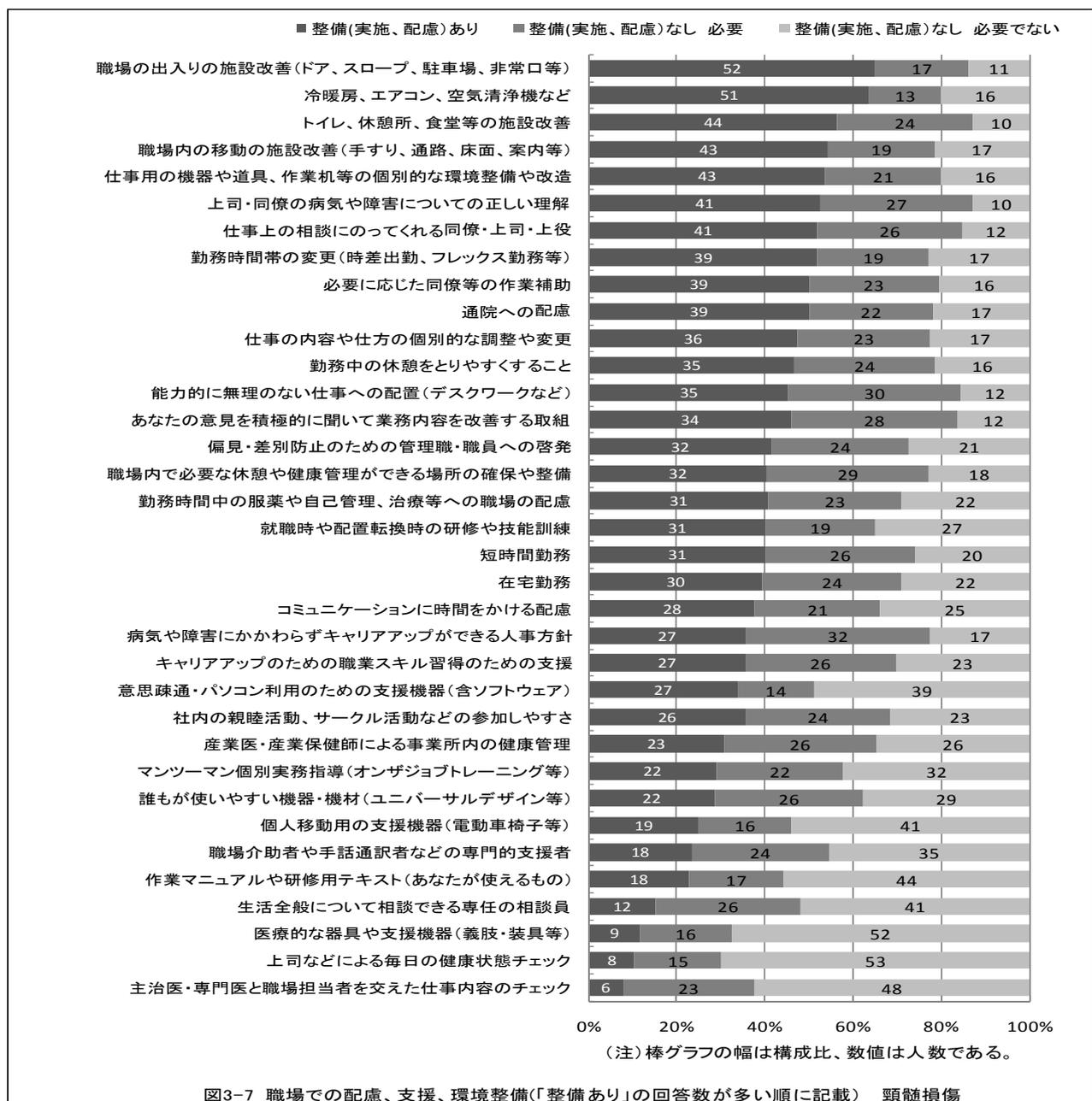


図3-7 職場での配慮、支援、環境整備(「整備あり」の回答数が多い順に記載) 頸髄損傷

(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

頸髄損傷のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「資格取得支援や職種別の技能訓練」や「就職の説明会や学習会、起業等の講座」、就職後には「本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」や「仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

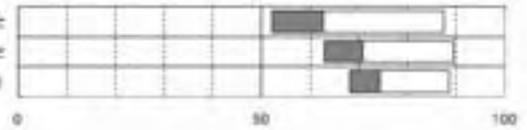
効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「資格取得支援や職種別の技能訓練」 （現状の取組率:14.9%） （一体的な取組：「家族や親戚、知人、友人への就労相談(36.1%)」「就職先のあっせん・紹介(10.9%)」「同じ障害・疾患のある人や団体※への就労相談(45.1%)」</p>	
<p>「就職の説明会や学習会、起業等の講座」 （現状の取組率:17.3%）</p>	

(ハ) 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」(現状の取組率:46.1%)</p> <p>(一体的な取組:「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(52.5%)」「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針(35.9%)」「社内の親睦活動、サークル活動などの参加しやすさ(36.0%)」「能力的に無理のない仕事への配置(45.6%)」「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役(53.2%)」)</p>	
<p>「仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造」(現状の取組率:53.7%)</p>	
<p>「勤務時間中の服薬や自己管理、治療等への職場の配慮」(現状の取組率:41.0%)</p>	
<p>「在宅勤務」(現状の取組率:39.7%)</p>	
<p>「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」(現状の取組率:35.9%)</p> <p>(一体的な取組:「作業マニュアルや研修用テキスト(本人が使えるもの)(23.5%)」)</p>	
<p>「能力的に無理のない仕事への配置」(現状の取組率:45.6%)</p> <p>(一体的な取組:「トイレ、休憩所、食堂等の施設改善(56.3%)」)</p>	

「マンツーマン個別実務指導（オンザジョブトレーニングなど）」（現状の取組率:29.9%）

手と手指を使って物をつまんだり、操作したり、放したりすること
手と腕で物を動かしたり操作したりすること
様々な場所を立ちこち移動すること（車椅子を使う）



(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・高齢者福祉施設の介護員（女 19 歳）
- ・看護師として臨床で常勤で仕事をしていた。今は、電話相談などを行っている。（女 54 歳）
- ・デジタル回線設計、プログラミング(Windows、Linux(unix)、Ms-DOSなど)全般、ソフトウェアアプリケーションの開発 部品開発支援、評価用ソフトウェアの開発。（男 42 歳）
- ・事務所（NPO法人）代表（男 44 歳）
- ・SEとしてソフト開発（男 59 歳） ・ SE（男 41 歳）
- ・実費集計、生産性管理（男 45 歳） ・ 営業、指導&PC（男 67 歳）
- ・事務職（PCを使用したデスクワーク）（男 40 歳） ・ 在宅PCワーク(不動産関係)（男 38 歳）
- ・パソコンを使った事務（男 34 歳） ・ デスクワーク（男 59 歳）
- ・地方公務員（事務）（男 36 歳） ・ 公務員事務職（男 53 歳）
- ・月・水・金曜日だけ仕事をしています 7時間45分デスクワークと適度に体を動かす仕事です 自分にピッタリです他の日にはリハビリができます（男 60 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・不動産業自営、NPO法人理事、非常勤教員、市嘱託、社福運営など（男 45 歳）
- ・PCをつかった作業、プログラマー（男 36 歳） ・ 事務、パソコンによる作業（男 37 歳）
- ・通所授産施設でのパート雇用、営業・事務作業（男 36 歳）

【派遣社員】

- ・HP作成、在宅勤務（男 44 歳）

【自営、独立開業、会社経営】

- ・店舗の見きりと商品補充と発注作業（男 55 歳）
- ・デジタルプリントサービス、デザイン（男 50 歳）
- ・パソコンによる受発注作業（男 58 歳）
- ・不動産業自営、NPO法人理事、非常勤教員、市嘱託、社福運営など（男 45 歳）
- ・自営の為 昼から事務所で電話番をしたり、お客様と話したりしています（男 63 歳）
- ・所有アパートの管理（男 62 歳）

【その他】

- ・在宅就業支援団体でパソコンを使用した作業(男 42 歳)

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・車椅子利用・床ずれ、四肢完全運動まひ
- ・1人で物事ができないため、家族が側にいないといけないのでとてもむずかしい。
- ・自律神経が失調しているので気温や気候の変化で体調を崩しやすく、常薬服用や、十分な休息、体調コントロールを徹底しないと長期就労は難しい。職場の理解も重要。
- ・12年程前、電動車椅子移動生活となり、現在、外でのトイレが一番の心配。
- ・電動車いすのためエレベーターの無い建物での会議出席ができない。
- ・トイレ、段差、エレベーターなどの整備、施設のバリアフリー化、利用可能な場所へのコピー機、FAXの設置を望む。

ロ 就職前の取組

- ・国には障害者をスキルアップさせる支援体制を求める。企業には能力がある者にはそれなりの業務や責任のあるポストにつけるなどの障害者雇用の理解を求める。軽んじた仕事を与えられ、雇用が不安定な障害者は多いと思う。
- ・リハビリでC7（第7頸髄）レベルまで改善し、点字講座受講し、パソコン点訳にやりがいを感じている。
- ・ピアカウンセリング、障害介護支援員（全身性障害者）＝ケアマネージャーの資格をもっている。サポートセンターで相談員として働いていた。
- ・障害者向け就職専門誌も役に立った。

ハ 就職後の取組

- ・駐車場の確保、車いすでの移動に必要なスペース、車椅子で利用できるトイレ、休憩できるベッド(医務室)、就労時間内の通院、移動しやすい仕事場のレイアウト、平日毎朝のヘルパーによる身支度、朝食など生活支援が必要(支援を受けている)。
- ・電動車いす利用。ラッシュ時をさけ時間を1時間おくらせての勤務、1時間早目に終える。
- ・障害による体調不良で休みやすくしてある。
- ・排泄の問題、生理休暇が取れること、昼休みに横になれる場所の確保、通勤可能な家探しが必要(支援を受けている)。
- ・自宅から職場への通勤が困難であったため、また就職するまで一人暮らしをした事がなかったので、車椅子専用の社員寮のある会社に就職、現在はアパート暮らしの為、ヘルパー支援を受けている。
- ・自分の体調に合わせて仕事ができるようにしてくれる。自身も期日迄には仕事書類などが遅れることのないようにしっかりとやる。

4 腎臓機能障害

アンケート調査票の障害・疾患についての問で、腎臓機能障害の「血液透析適用」、「腹膜透析適用」及び「腎臓機能障害3、4級」を選択回答した方、疾患名自由記述に「透析」、「腎疾患」と記述した方、及び当事者団体会員の方、合計208人の方の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

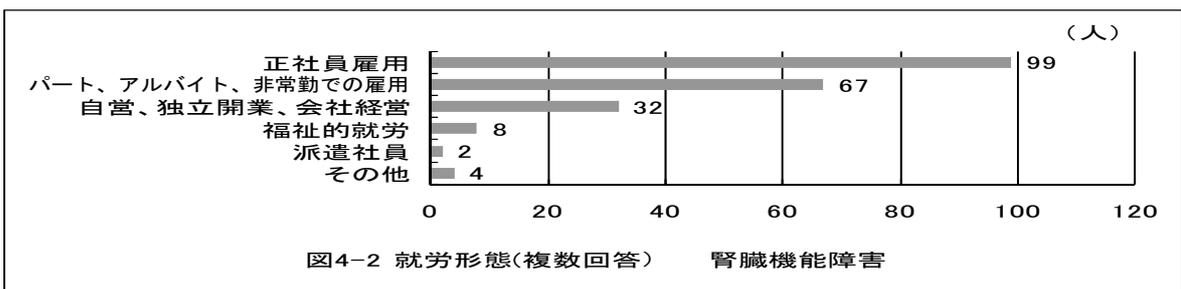
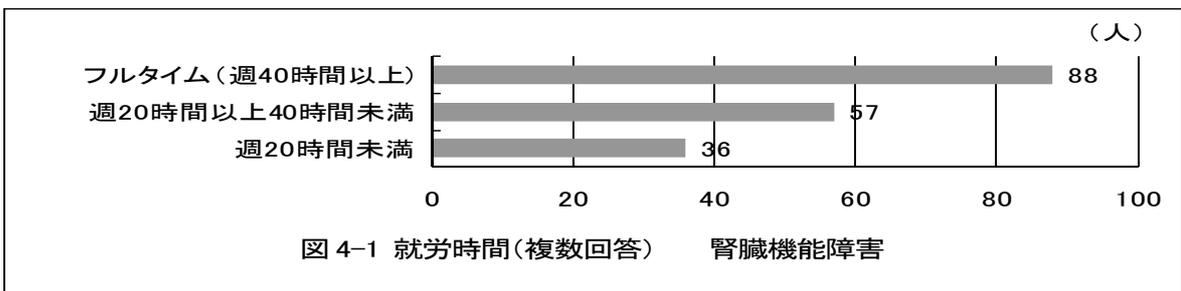
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性144人(70.9%)、女性59人(29.1%)で男性が女性の2.4倍です。
- ②平均年齢は51.7歳(標準偏差9.6歳)。
- ③居住地は都市圏(具体的な都市名はP9に記載)56人(28.1%)、都市圏以外143人(71.9%)で都市圏以外が2.6倍です。
- ④障害者手帳は有が203人(身体障害者手帳:201人[1級188人,2級3人,3級3人,4級3人,6級1人]、療育手帳等:2人(重度1人、中度1人)、精神障害者保健福祉手帳:3人[2級3人,3級2人])であり、ほとんどの方が身体障害者手帳を所持している。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」113人(59.8%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」59人(31.2%)であり、合わせると91.0%が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間(複数回答)は「フルタイム(週40時間以上)」88人(51.2%)、「週20時間以上40時間未満」57人(33.1%)、「週20時間未満」36人(20.9%)とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態(複数回答)は多い順に、「正社員雇用」99人(57.6%)、「パート、アルバイト、非常勤での雇用」67人(39.0%)「自営、独立開業、会社経営」32人(18.8%)、「福祉的就労(就労移行/継続、作業所、テイクア等)」8人、「派遣社員」2人、「その他」4人となっています。



(2) 職業についての課題

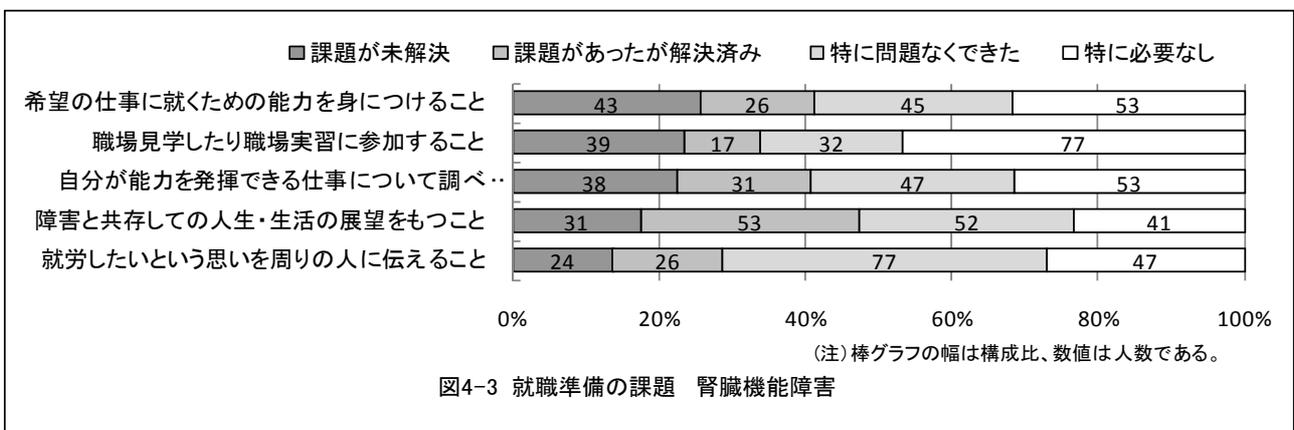
イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

(イ) 就職準備の課題

「課題が未解決」とする回答は「希望の仕事に就くための能力を身につけること」43人(25.7%)、「職場見学したり職場実習に参加すること」39人(23.6%)、「自分が能力を発揮できる仕事について調べること」38人(22.5%)であり、他の課題よりやや多くなっています。

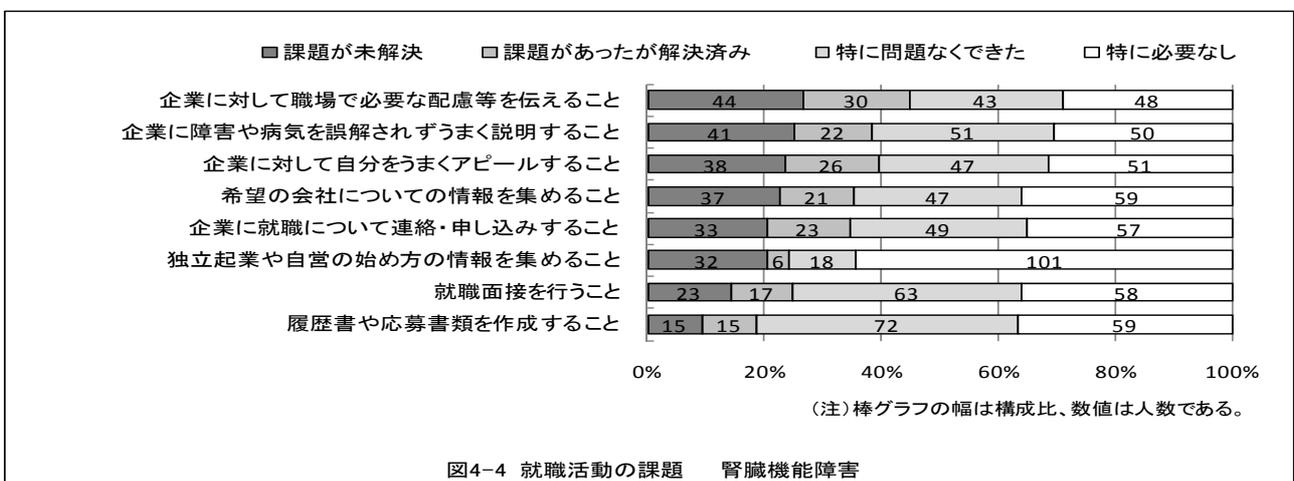
「職場見学したり職場実習に参加すること」は「特に必要なし」が77人(46.7%)と多く、「就労したいという思いを周りの人に伝えること」は「特に問題なし」が77人(44.3%)と多くなっています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題が未解決」の回答は、「企業に対して職場で必要な配慮等を伝えること」44人(26.7%)、「企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること」41人(25.0%)、「企業に対して自分をうまくアピールすること」38人(23.5%)であり、他の課題よりやや多くなっています。

一方、「特に問題なくできた」の回答は、「履歴書や応募書類を作成すること」72人(44.7%)、「就職面接を行うこと」63人(39.1%)と多くなっています。



□ 職場での課題

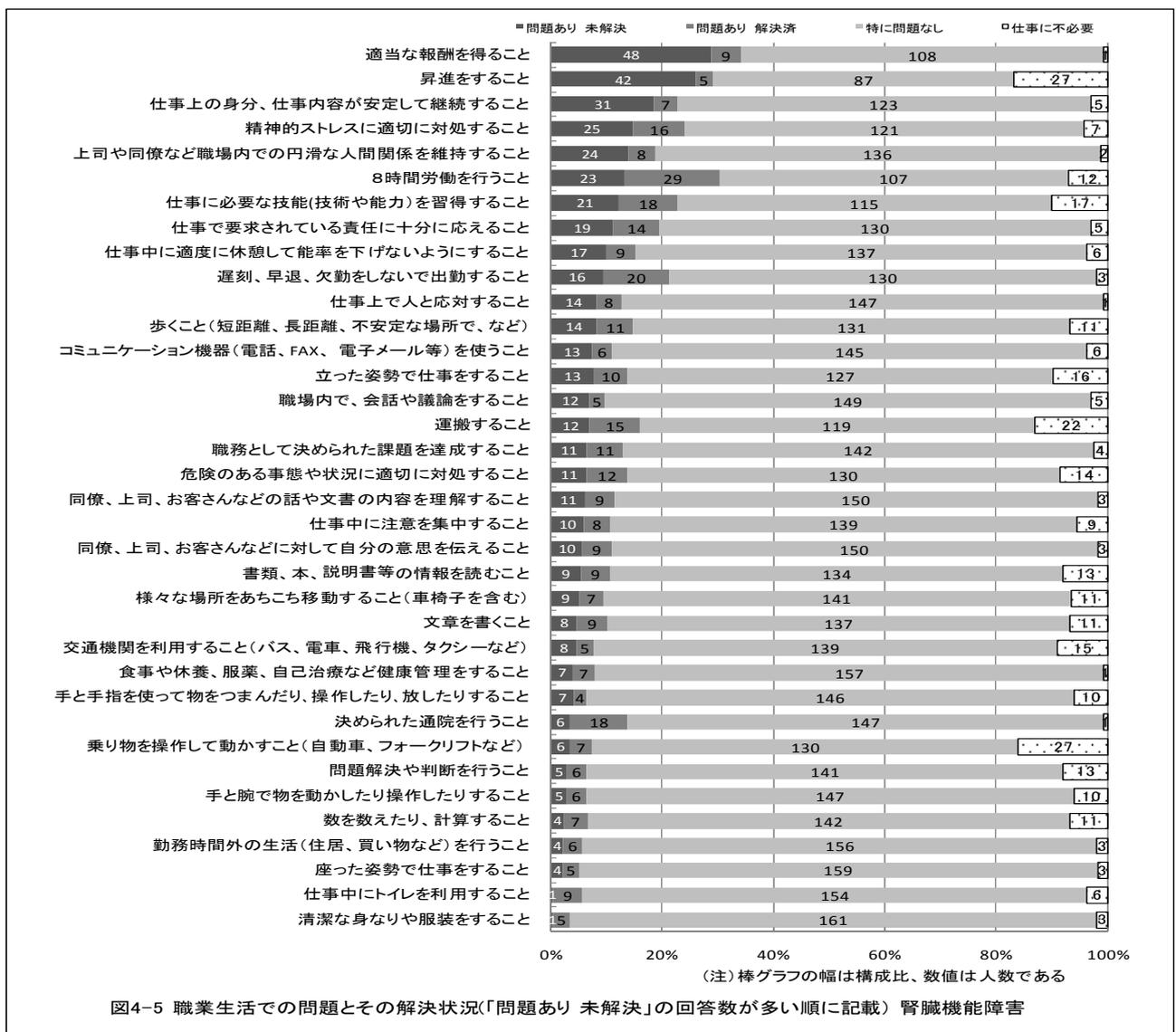
職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「特に問題なし」とする回答は、「昇進をすること」を除いてすべての項目について6割を超えており、8割以上の項目が23項目あります。

「問題あり 未解決」の回答数が多かったものをみると、「適当な報酬を得ること」48人(28.9%)、「昇進をすること」42人(26.1%)、「仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること」31人(18.7%)などとなっています。

これらの項目は「問題あり 解決済み」の回答がそれぞれ9人(5.4%)、5人(3.1%)、7人(4.2%)と少なかったものの、「昇進をすること」は「仕事に不必要」とする回答も27人(16.8%)あります。

また、「問題あり 解決済み」の回答が多かったものは「8時間労働をすること」29人(17.0%)、「仕事に必要な技能(技術や能力)を習得すること」18人(10.5%)、「決められた通院を行うこと」18人(10.5%)となっています。



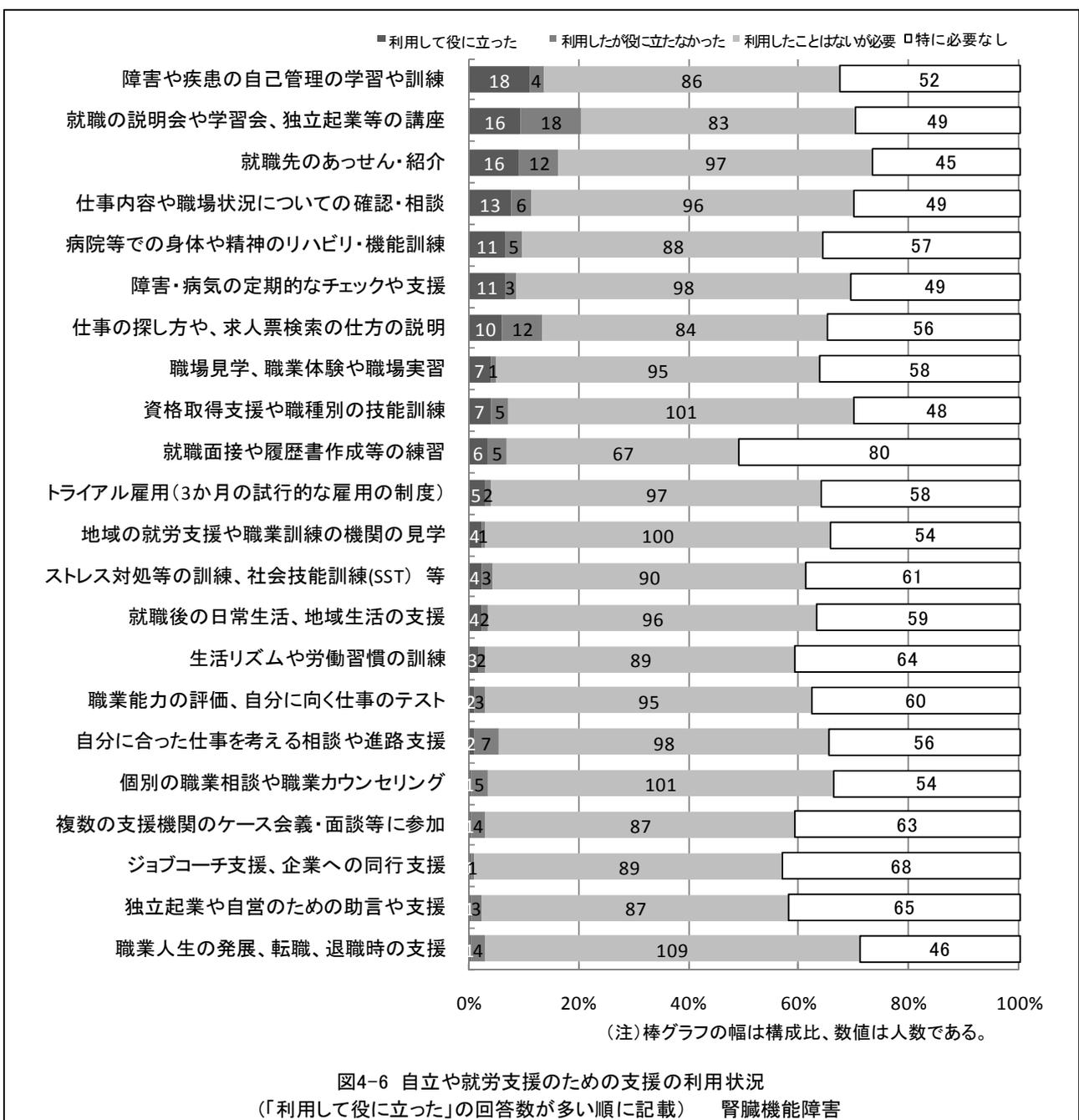
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、多くの項目で「利用したことはないが必要」との回答が5～6割、「特に必要なし」との回答が1～2割を占めています。

「利用して役に立った」の回答が多かったものは、「障害や疾患の自己管理の学習や訓練」18人（11.3%）「就職の説明会や学習会、独立起業等の講座」16人（9.6%）、「就職先のあっせん・紹介」16人（9.4%）などとなっています。

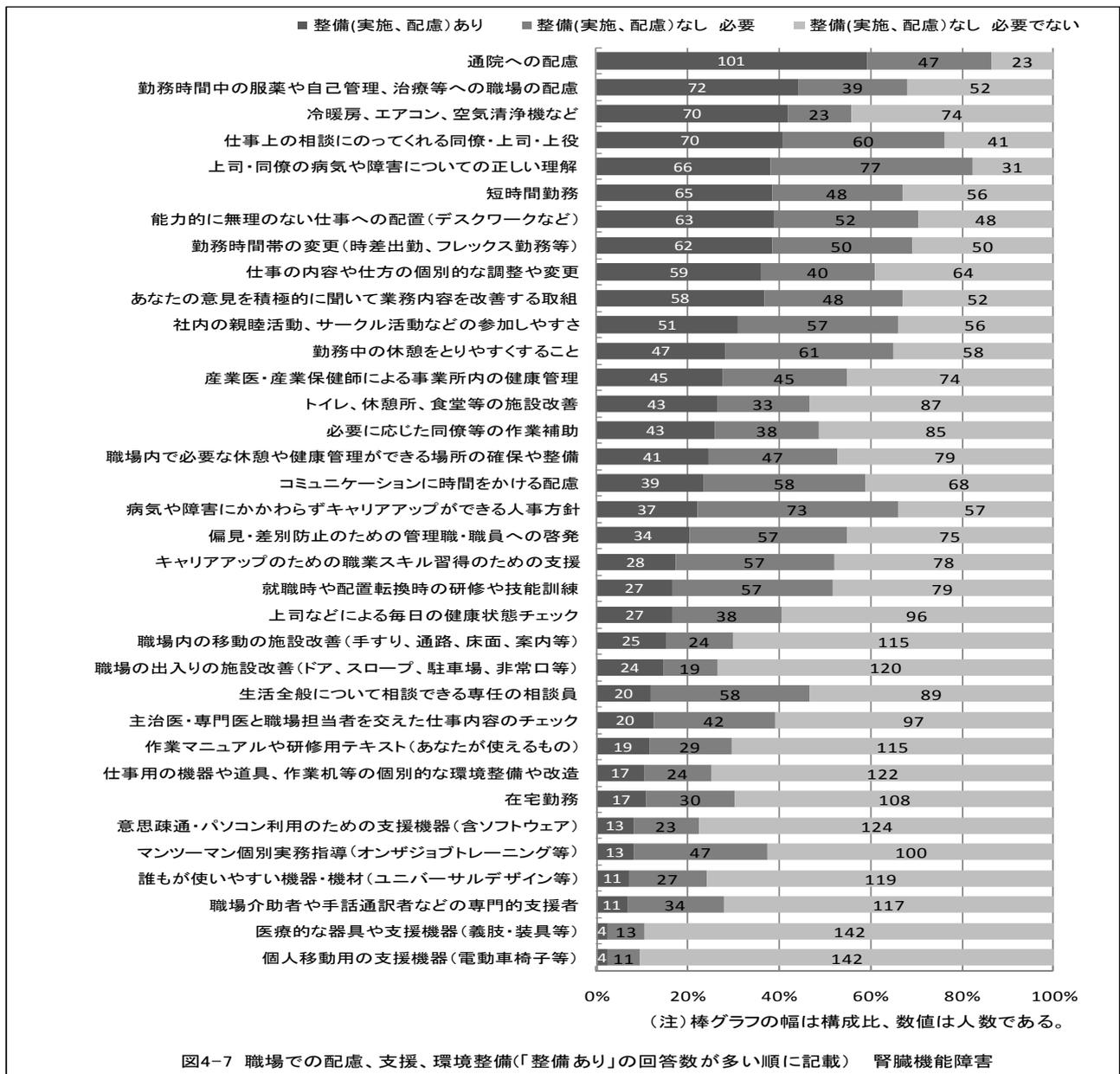


□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「通院への配慮」101人（59.1%）、「勤務時間中の服薬や自己管理、治療等への職場の配慮」72人（44.2%）、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」70人（41.9%）、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」70人（40.9%）となっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」77人（44.3%）、「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」73人（43.7%）、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」60人（35.1%）、「勤務中の休憩をとりやすくすること」61人（36.7%）となっています。



(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

腎臓機能障害のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「就職先のあっせん・紹介」や「主治医、専門医等への就労相談」、就職後には「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」や「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
「就職先のあっせん・紹介」（現状の取組率:9.9%）	<p>企業に障害や病気を理解されずうまく説明すること 企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること 希望の会社についての情報を集めること 企業に就職について連絡・申し込みすること 障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと</p>
「主治医、専門医等への就労相談」（現状の取組率:18.6%）	<p>希望の仕事に就くための能力を身につけること 本人が能力を発揮できる仕事について調べること 就労したいという思いを周りの人に伝えること</p>
「ハローワークの一般求職窓口への就労相談」（現状の取組率:9.2%）	<p>企業に対して自分をうまくアピールすること</p>
「ハローワークの専門援助窓口への就労相談」（現状の取組率:18.3%）	<p>履歴書や応募書類を作成すること</p>
「家族や親戚、知人、友人への就労相談」（現状の取組率:35.3%）	<p>独立起業や自営の始め方の情報を集めること</p>

□ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:38.7%)</p>	
<p>「通院への配慮」(現状の取組率:59.3%)</p>	
<p>「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」(現状の取組率:41.5%) (一体的な取組:「勤務時間帯の変更(時差出勤、フレックス勤務等)(39.1%)」「冷暖房、エアコン、空気清浄機など(42.3%)」「能力的に無理のない仕事への配置(39.0%)」)</p>	
<p>「勤務時間中の服薬や自己管理、治療等への職場の配慮」(現状の取組率:44.2%)</p>	
<p>「雇用率制度での雇用」(現状の取組率:23.6%)</p>	
<p>「上司などによる毎日の健康状態チェック」(現状の取組率:17.2%)</p>	
<p>「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」(現状の取組率:22.9%)</p>	
<p>「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」(現状の取組率:17.8%)</p>	

(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方は P11 をごらんください。

【正社員雇用】

- ・原子力施設の放射線管理業務（男 36 歳）・薬剤師業務（調剤・投薬）（女）・看護師（女 53 歳）
- ・透析の施設（臨床工学技士）（男 55 歳）・高齢者福祉施設の介護員（女 19 歳）
- ・栄養士、事務職、販売（アパレル）、司会業、飲食業（女 38 歳）
- ・食品の有害物質検査、細菌検査等の検査業務及び排水処理場の管理（男 47 歳）
- ・工場勤務主に製品の試作であった、後は伝票整理（男 52 歳）
- ・専門職、事務等、作業所（男 45 歳）・CAD、PC 操作（男 55 歳）
- ・団体役員（男 51 歳）・営業事務（男 45 歳）・事務（男 40 歳）
- ・透析を受けているクリニックでの事務職として勤務現在、勤続 20 年になる（男 55 歳）
- ・一般事務（スタッフへ仕事の状況確認のコール業務）（男 38 歳）
- ・物品購入した書類を受取確認して、会計処理する（男 56 歳）
- ・パートでスーパーのレジ、現在はパソコン入力などの仕事（女 41 歳）
- ・塗装工事業営業、事務（男 38 歳）・NPO 法人の事務（男 51 歳）・医療事務（男 44 歳）
- ・患者会事務局勤務（男 59 歳）・事務所（会計事務所）（男 49 歳）
- ・内業での事務、各現場での内業の手伝い等（男 56 歳）・事務（経理）（女 58 歳）・事務職（男 45 歳）
- ・地方公務員（男 63 歳）・公務員（県職員）（男 47 歳）
- ・事務、倉庫管理、発注、仕分（男 47 歳）・営業（男 58 歳）
- ・製造業での間接作業（管理等）（男 46 歳）・自動車修理工、車体整備士（男 57 歳）
- ・パワーショベルなどの運送業、配車係、役員等パワーショベル、オペレータなど（男 62 歳）
- ・建設業関係、営業（男 55 歳）・ダンボールに製品梱包、及び検査等一日立ち仕事（男 49 歳）
- ・印刷オペレータ（男 37 歳）・デジタルカメラ、パソコンのラインでの作業（男 44 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・薬剤師業務（調剤・投薬）（女）・学習塾経営（男 49 歳）・身体や、知能に障害を持った人の介護、支援を行う施設（男 63 歳）・団体発行の PR 読の編集業務、取材等もあり（男 54 歳）
- ・パソコンを使った出荷の事務作業（男 50 歳）・パソコン入力、事務（女 歳）
- ・事務（男 38 歳）・企画、事務（女 46 歳）・事務職（男 60 歳）・事務（男 46 歳）
- ・医療事務（カルテの管理等事務系）（男 44 歳）・NPO のアルバイト（男 54 歳）
- ・飲食店での接客（女 41 歳）・スーパーでの製品の運び（男 61 歳）・病院夜間当直（男 60 歳）

【自営、独立開業、会社経営】

- ・学習塾経営（男 49 歳）・音楽教室を開いて自宅で生徒をとって教えている（女 47 歳）

- ・文筆業及び取材レポート、公演会の講師（男 50 歳）
- ・運転手（男 58 歳）・畳製造業（男 61 歳）・小売業（男 57 歳）・旅館を経営、事務が中心（男 59 歳）
- ・廃品回収（トラックで廃家電や古紙回収など）（男 43 歳）・不動産業（売買、賃貸仲介）（男 51 歳）
- ・漁船漁業（タコカゴ漁）、磯漁業（男 50 歳）・農業（男 61 歳）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・就労希望はあるが、4～5時間の腹膜透析のため、フルタイムは困難。
- ・透析治療が週3日あるため、就労時間は2日位しかとれない。

（同様の、人工透析のため勤務時間や勤務日数の制約から就職や復職が困難との声多数）

ロ 就職前の取組

- ・ハローワークで相談、障害者就職面接会へ参加。障害者用の求人載せている労働局のHPあり。ハローワークに行かなくても、求人状況を見ることができる。（このような取組をした）
- ・3年間透析を受けながら、体の調子に合わせて、職業を4回転職して働き続けている。3回は自分で、4回目は友人の紹介。
- ・離職者訓練でPCの研修を受けた。フォークリフト運転の資格をとった。現在簿記を勉強中。
- ・障害・疾患を持っている人が、十分な収入を得ようと思えば、仕事をしていこうとするなら、何かしらの資格などを持っている方がよいと思う。
- ・ある一部分だけでも社会参加できる仕事につくということは、自分が否定されていないと思える部分だと思う。それによって、強くなれる気がする。どのような障害があっても、その人から引き出せるものは必ずあると思うので、就労支援についている方はこれを深く理解し、対象の方への理解を深めてほしい。同じ事を雇用者の方にも理解してほしい。また私たちは、何をどうすれば私にもできます、こういう方法で行えばノルマをこなせますなど、自分ができるやり方をもっとアピールしなければと思う。

ハ 就職後の取組

- ・理解のある医師に出会い、自己健康管理し、透析に通院しながら健康人と変わらない勤務をしている。
- ・会社の専門医による定期的な話し合いで、上司に言えないようなことについて、医者立場から上司に助言してくれる。
- ・透析治療を受けているが、導入した時、当時の担当医師から、透析をしていても、透析をすればほぼ普通の方と同じ生活ができるからと言われ、その後25年近く、アルバイト、パートで働いてきた。気持ちで負けないで頑張れると思う。
- ・療養（治療）のための時間が長く、なかなか踏みきれない。しかし、自己管理でなんとか仕事はできるし、仕事さえできれば十分に仕事ができ、その方が治療上もうまくいき、体調もよくなる。

5 知的障害

アンケート調査票の障害・疾患についての中で、「知的障害」を選択した方 430 人の方の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

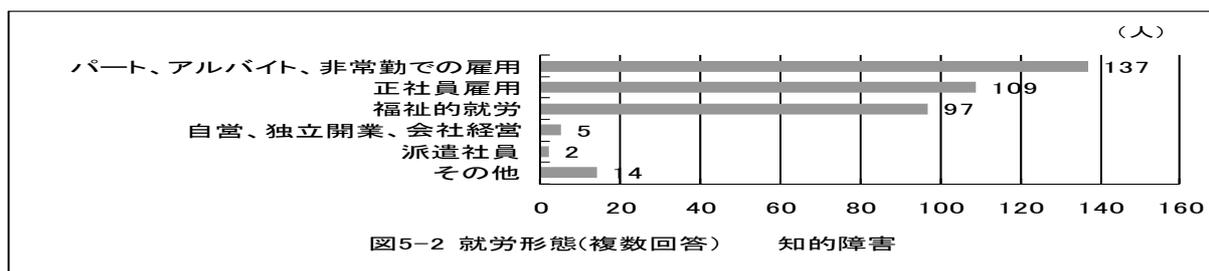
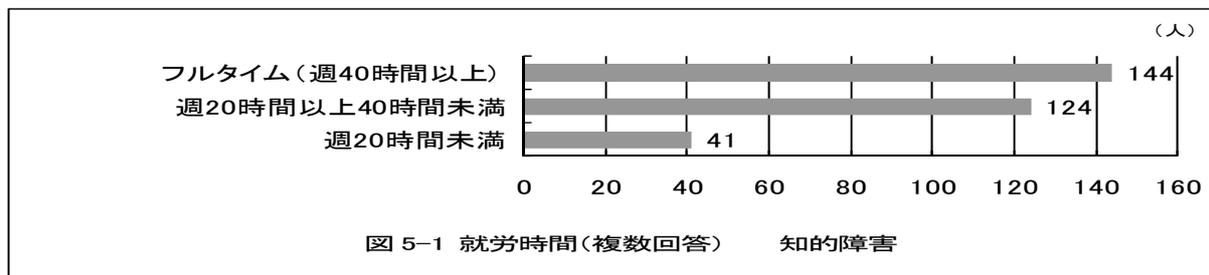
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性 267 人 (63.0%)、女性 157 人 (37.0%) で男性が女性の 1.7 倍です。
- ②平均年齢は 32.9 歳 (標準偏差 11.2 歳)。
- ③居住地は 都市圏 (具体的な都市名は P9 に記載) 165 人 (40.7%)、都市圏以外 240 人 (59.3%) で都市圏以外が 1.5 倍です。
- ④障害者手帳有： 423 人 (身体障害者手帳： 77 人[1 級 18 人, 2 級 22 人, 3 級 14 人, 4 級 6 人, 5 級 10 人, 6 級 5 人]、療育手帳等： 391 人[重 98 人, 中 132 人, 軽 144 人]、精神障害者保健福祉手帳： 26 人[1 級 7 人, 2 級 16 人, 3 級 3 人]) であり、全体 430 人のうち障害者手帳有と回答した方は 97.0%、そのうち療育手帳等有と回答した方は 92.0%です。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」248 人 (65.6%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」61 人 (16.1%) であり、合わせると 81.7%が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間(複数回答)は「フルタイム(週 40 時間以上)」144 人(就労経験者の 46.6%)、「週 20 時間以上で 40 時間未満」124 人 (40.1%)、「週 20 時間未満」41 人 (13.3%)とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態(複数回答)は多い順に、「パート、アルバイト、非常勤での雇用」137 人 (37.6%)、「正社員雇用」109 人 (29.9%)、「福祉的就労」97 人 (26.1%)、「自営、独立開業、会社経営」5 人、「派遣社員」2 人、「その他」14 人 となっています。



(2) 職業についての課題

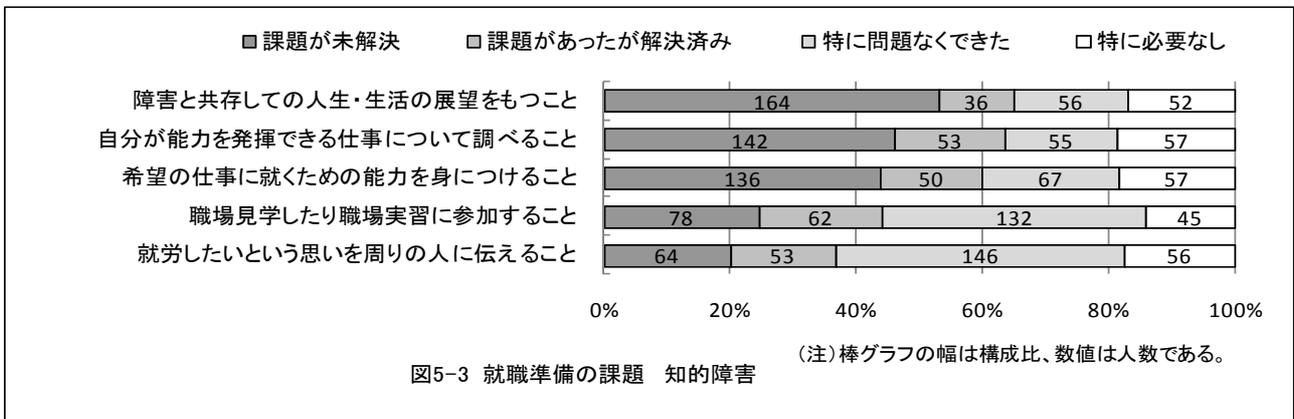
イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

(イ) 就職準備の課題

「課題が未解決」とする回答は多い順に、「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」164人(53.2%)、「自分が能力を発揮できる仕事について調べること」142人(46.3%)、「希望の仕事に就くための能力を身につけること」136人(43.9%)などとなっています。

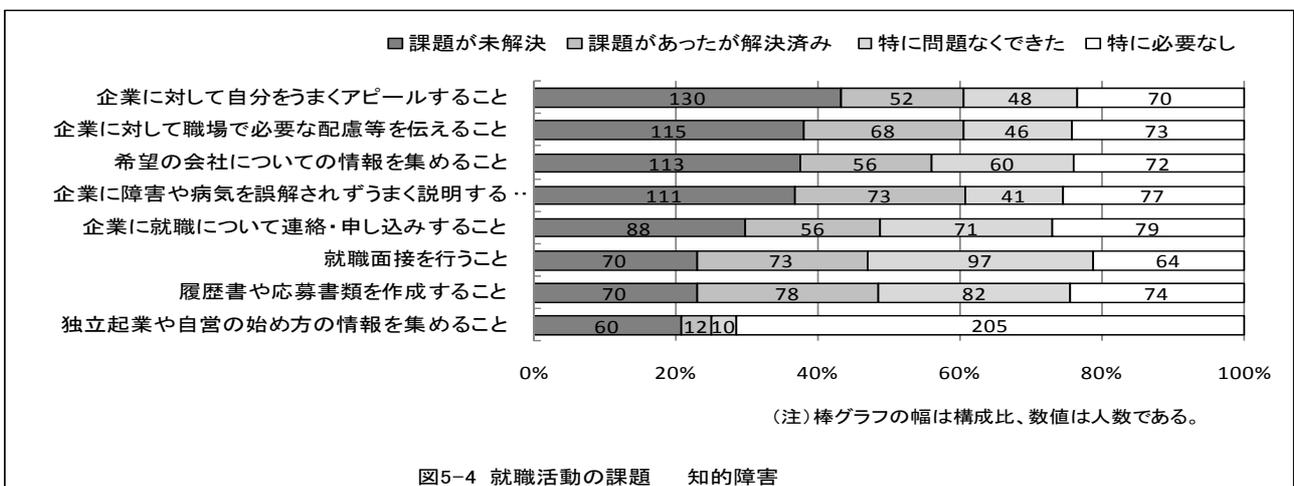
一方、「職場見学したり職場実習に参加すること」、「就労したいという思いを周りの人に伝えること」は、「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」を合わせると、それぞれ229人(75.4%)、255人(79.9%)となっています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題が未解決」の回答が多かったものは、「企業に対して自分をうまくアピールすること」130人(43.3%)、「企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること」115人(38.1%)などとなっています。

一方、「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると「就職面接を行うこと」、「履歴書や応募書類を作成すること就職面接を行うこと」は7割を超えています。

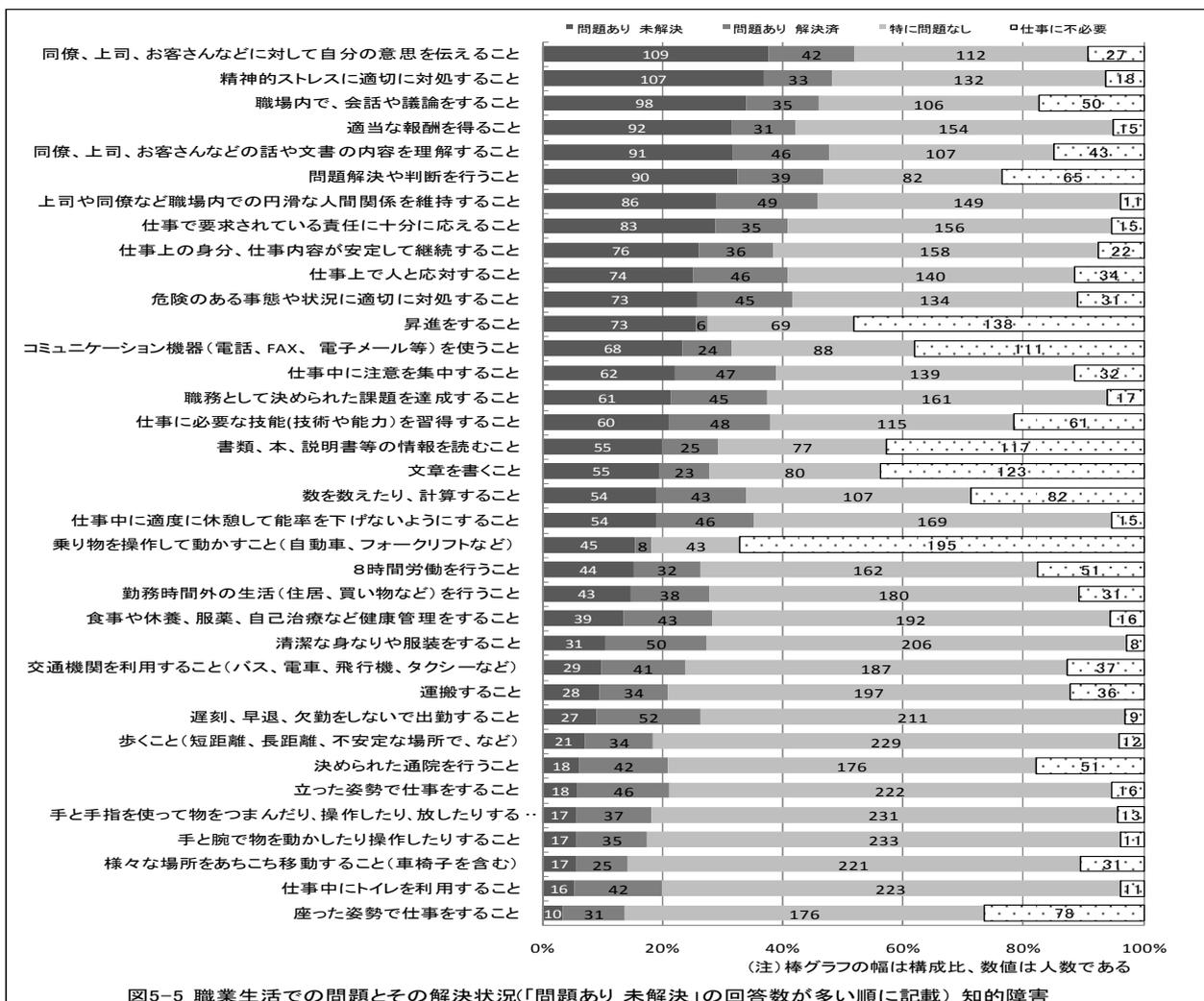


□ 職場での課題

職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること」109人(37.6%)、「精神的ストレスに適切に対処すること」107人(36.9%)、「職場内で、会話や議論をすること」98人(33.9%)などとなっています。また、「問題あり 解決済み」の回答が少なかったものは、「昇進をすること」6人、「乗り物を操作して動かすこと(自動車、フォークリフトなど)」8人となっていますが、これらについては「仕事に不必要」の回答も多くなっています。

一方、「問題あり 解決済み」の回答が多かったものは、「遅刻、早退、欠勤をしないで出勤すること」52人(17.4%)、「清潔な身なりや服装をすること」50人(17.0%)、「上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること」49人(16.6%)などとなっています。これらの課題については、「特に問題なし」とする回答者も相当数程度ある項目もあります。「手と腕で物を動かしたり操作したりすること」233人(78.7%)、「手と手指を使って物をつまんだり、操作したり、放したりすること」231人(77.5%)、「歩くこと(短距離、長距離、不安定な場所で、など)」229人(77.4%)などとなっています。

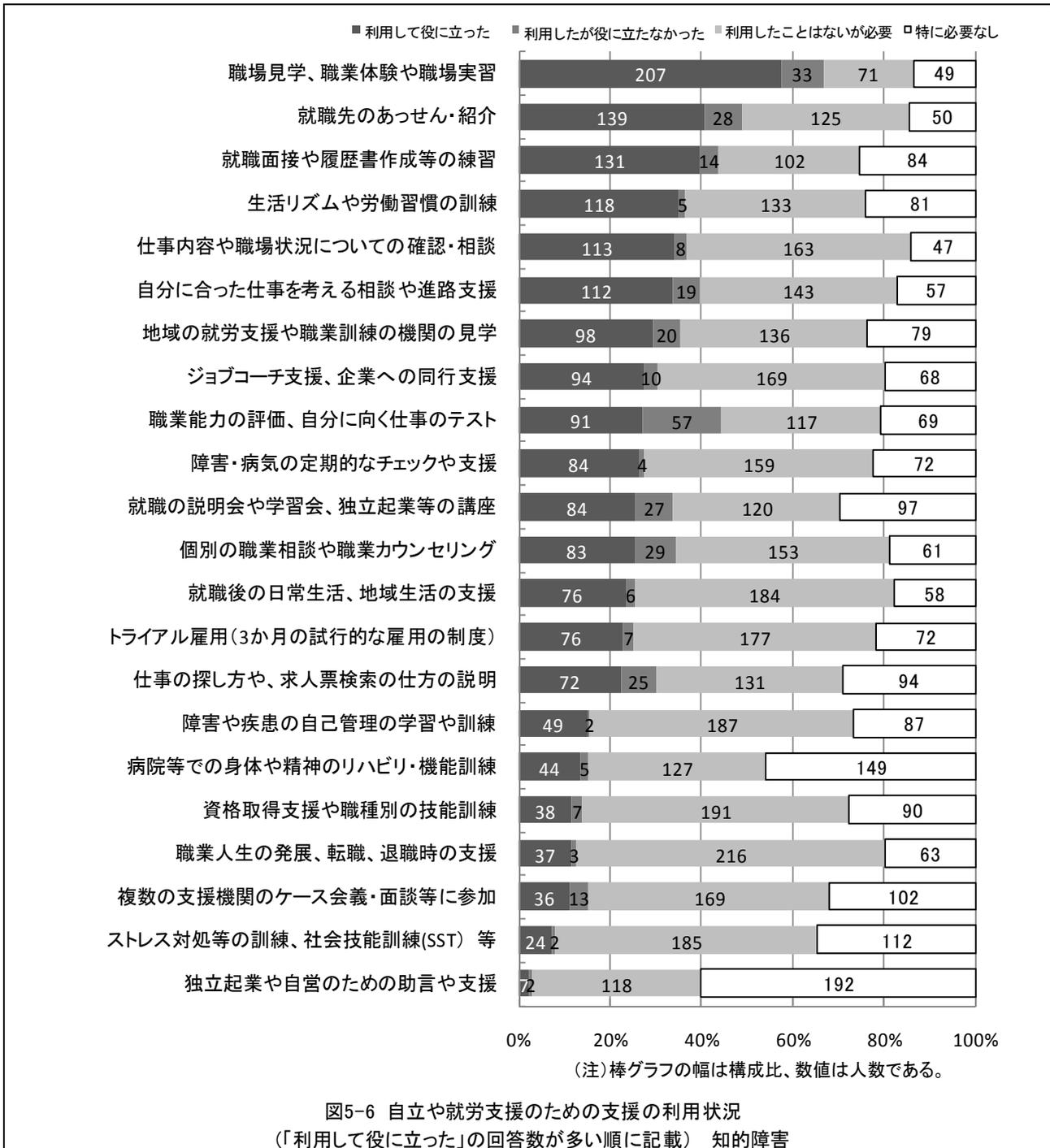


(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が最も多かったものは、「職場見学、職業体験や職場実習」207人(57.5%)、「就職先のあっせん・紹介」139人(40.6%)、「就職面接や履歴書作成等の練習」131人(39.6%)などとなっています。



□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」169人（52.1%）、「必要に応じた同僚等の作業補助」149人（50.9%）、「通院への配慮」146人（50.9%）、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」144人（51.8%）などとなっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」146人（53.9%）、{病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針}137人（53.7%）、「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」136人（53.9%）となっています。

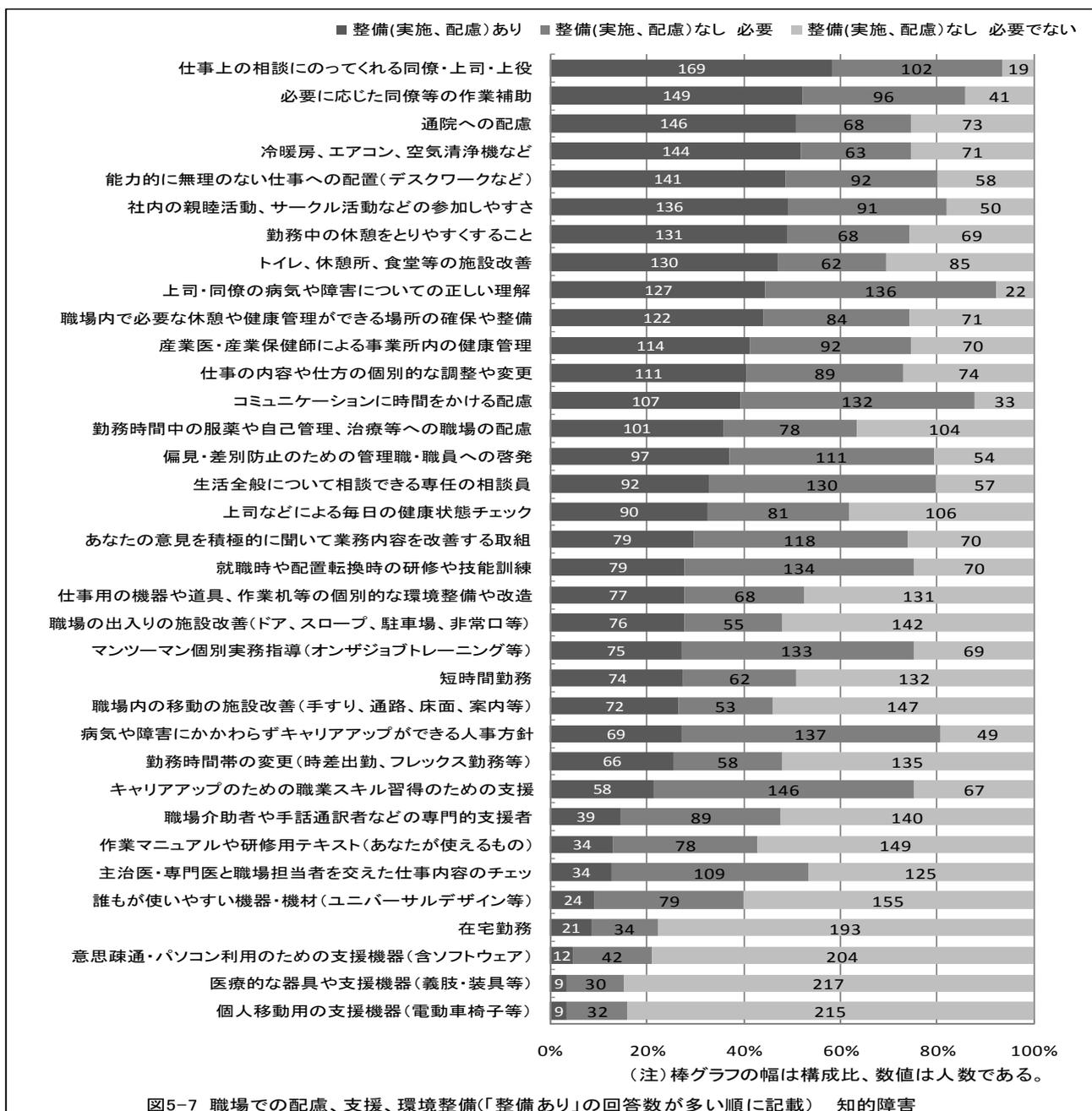


図5-7 職場での配慮、支援、環境整備(「整備あり」の回答数が多い順に記載) 知的障害

(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

知的障害のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「トライアル雇用」や「資格取得支援や職種別の技能訓練」、就職後には「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」や「マンツーマン個別実務指導（オンザジョブトレーニングなど）」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「職場見学、職業体験や職場実習」(現状の取組率:66.7%)</p>	
<p>「トライアル雇用」(現状の取組率:23.1%)</p>	
<p>「資格取得支援や職種別の技能訓練」(現状の取組率:12.0%)</p>	

ロ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:44.9%) (一体的な取組:「コミュニケーションに時間をかける配慮(39.6%)」「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援(21.9%)」)</p>	<p>職業的課題: 異議をすること, 乗り物を操作して動かすこと(自動車, フォークリフトなど), 問題解決や判断を行うこと, 精神的ストレスに適切に対処すること, 職場内で, 会話や議論をすること, 同僚, 上司, お客さんなどに対して自分の意思を伝えること, コミュニケーション機器(電話, FAX, 電子メール等)を使うこと, 適切な報酬を得ること, 同僚, 上司, お客さんなどの話や文書の内容を理解すること, 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること, 書籍, 本, 説明書等を読むこと, 仕事上の身分, 仕事内容が安定して継続すること, 文章を書くこと, 仕事上で人と対すること, 危険のある事態や状況に適切に対処すること, 仕事に必要な技能を習得すること, 仕事で要求されている責任に十分に込めること, 物を数えたり, 計算すること, 仕事中に注意を集中すること, 仕事中に過度に休憩して効率を下げないようにすること, 職務として決められた課題を達成すること, フルタイム(約8時間)の労働を行うこと</p>
<p>「マンツーマン個別実務指導(オンザジョブトレーニングなど)」(現状の取組率:27.7%)</p>	<p>職業的課題: 異議をすること, 書籍, 本, 説明書等を読むこと, 仕事で要求されている責任に十分に込めること, 食事や休息, 服薬, 自己治療など健康管理をすること, 仕事中に注意を集中すること, 仕事上の身分, 仕事内容が安定して継続すること, 職務として決められた課題を達成すること, 適切な身なりや服装をすること, 交通機関を利用すること(バス, 電車, 有線車, タクシーなど), 通勤すること, 仕事中に過度に休憩して効率を下げないようにすること</p>
<p>「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」(現状の取組率:21.9%) (一体的な取組:「障害や疾患の自己管理の学習や訓練(15.3%)」「就職時や配置転換時の研修や技能訓練(28.7%)」「障害や疾患の自己管理の学習や訓練(16.0%)」「就職後の日常生活、地域生活の支援(23.6%)」「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針(27.3%)」)</p>	<p>職業的課題: 同僚, 上司, お客さんなどに対して自分の意思を伝えること, 問題解決や判断を行うこと, 職場内で, 会話や議論をすること, 文章を書くこと, コミュニケーション機器(電話, FAX, 電子メール等)を使うこと, 書籍, 本, 説明書等を読むこと, 危険のある事態や状況に適切に対処すること, 勤務時間外の生活(住居, 買い物など)を行うこと, 仕事上で人と対すること, 仕事上の身分, 仕事内容が安定して継続すること, フルタイム(約8時間)の労働を行うこと, 交通機関を利用すること(バス, 電車, 有線車, タクシーなど)</p>
<p>「ジョブコーチ支援、企業への同行支援」(現状の取組率:27.8%) (一体的な取組:「資格取得支援や職種別の技能訓練(12.0%)」「就職後の日常生活、地域生活の支援(23.6%)」)</p>	<p>職業的課題: 異議をすること, 必要な配慮や支援等についての職場への説明</p>

(5) 活躍している仕事の例

この欄の掲載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・介護職員（男 34 歳）・あんま、マッサージ（男 37 歳）・事務（男 21 歳）・パソコン入力（男 32 歳）
- ・電話応対、伝票作成（女 20 歳）・保険関連の事務（男 22 歳）
- ・最賃除外申請による雇用となっています オシボリたたみなど（女 41 歳）
- ・清掃（仕事場、会社の独身寮、公園など）（多数）
- ・食堂の洗浄（男 24 歳）・パートさんが肉のパック詰めをするための段取り（男 40 歳）
- ・食品会社での包装、シール貼り、下手間・事務仕事の補助（女 35 歳）・軽作業、清掃（男 36 歳）
- ・白色トイレの選別は障害者雇用で週 30 時間、鋳造関係・製造関係などはなぜか普通で 40 時間だった（男 34 歳）
- ・クリーンサービス、ハーネス、箱折り（男 34 歳）
- ・プラスチックの鉢の製造、バリ取り作業、数量ごとにたばねる（男 30 歳）
- ・工場内装置点検、工場から出る廃棄ガラスの廃棄（男 36 歳）
- ・水産加工業冷蔵庫に物を入れる、加工品を作る、製氷、出荷（男 33 歳）
- ・企業への鉢（植木）の運搬助手街路の植木手入れ、花植（男 36 歳）
- ・現在は農作業、鉢植えを作る作業（過去 3 回転職して仕事は変った（4 回目）（男 31 歳）
- ・金属の加工（男 39 歳）
- ・缶、ビン、ペットボトルの仕分作業、トレーの仕分、その他、会社は福祉工均 A 型のリサイクル工均
- ・段ボール販売のところで荷物のまとめや運搬（男 37 歳）
- ・洋服の出荷（男 24 歳）・トーフの製造（男 37 歳）・リサイクル品のせん別（男 19 歳）
- ・生産ラインから離れたところで、組立ラインへの部品供給（軽いものに限定）の仕事をしていたシ
- ・木材加工機へ材料を入れて流す作業（男 45 歳）・製造業（組立工）（男 22 歳）
- ・プラスチック工場ですりどいの部品を作っている部所でコンポ作業をしています（ダンボールの重さ 10 k 位）（女 34 歳）
- ・クリーニング会社での、洗い場、仕分け、さばき、洗濯脱水機の操作、枕カバー投入、枕カバー取り（男 26 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・パソコン入力、接客、清掃、事務補助、クリーニング、用具の洗浄、後かたづけ、商品の陳列、整理、軽作業など（勤務場所：ホームセンター、スーパー、コンビニエンスストア、福祉施設、旅館、弁当店、園芸店、食品会社、洗い場、デパート、食堂等）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・障害の特性から、細かい作業、集中力の持続、コミュニケーション、知的遅れ、計算、むずかしい話の内容理解、感情の表現が苦手。（明るい。根気よく作業ができる。ていねいに教えていただければ分かる。日常生活に問題はない。あいさつや最小限の会話はできる。）

ロ 就職前の取組

- ・人間関係のことで、相性があわないと、なかなかむずかしかった。あった場、人と出会うまで、チャレンジしたり、がまんしたり、すっぱり方向をかえたり、いろいろした。あせらず、あきらめず、学校の先生ほかがつかないでいってくれた。
- ・障がいがあっても、療育、教育がしっかり卒後の生活に向かって、行なわれれば、どの様な形態でも仕事はできると思う。本人のやる気を持続させる。生活の楽しみや、人間関係をつくる事が大切。教育者は、生きる力をつけるための教育をするべきで責任もあるはず。数年間の子守り的な事で終りにせず、卒後もフォローし、社会に対しても理解と協力の啓発をするべき。保護者に、手当などのお金をバラまくのではなく、しっかりと子供の成長のためにつかえる制度や機関を整備するべき。可能性は無限。

ハ 就職後の取組

- ・仕事はできるが意志表示やことばで伝えることは上手にできないのでなかなか理解して頂けない。11年間の就労は職場によき支援者がいたから。ぜひ、ジョブコーチ等ではなく、会社の中に支援者を育ててほしい。
- ・店内でお客様に声をかけられた場合、受け答えができなかった。その後、近くにいる店員を呼ぶよう改善された。
- ・障害の特性を知ってもらうため、家族の支援を必要とした。現在も時々、家族の支援を得て、職場の人とのコミュニケーションをはかっている。
- ・毎年、障害者の家族の為に職場見学会が開かれ、安全面や、健康面、その他自由に希望を言い、配慮してもらえる。
- ・できないことを責めるのではなく、どの部分につまずいているのか、何をどう変えたら理解できるのかという視点で、あいまいな部分をルール化してもらって、仕事を覚えることができました。
- ・言葉での指示は理解しにくいいため、具体的に作業を見せてもらう、又は、写真や絵などを見る方が分かりやすい。長い話になると、短期記憶が苦手なため理解できないことがあるので、1つずつ指示してもらいたい。
- ・勤めている会社が障がい者にすごく理解があり、各職場に指導員さんを配慮して下さっているので問題がおきてもすぐに対処してもらえる。会社が月1回働く障がい者を集めて学習会を開いて仕事への意欲・マナー・自己啓発等をやっているなので働く姿勢意欲が向上したように思う。

6 統合失調症

アンケート調査票の障害・疾患についての問で、「統合失調症」を選択した方 149 人の方の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

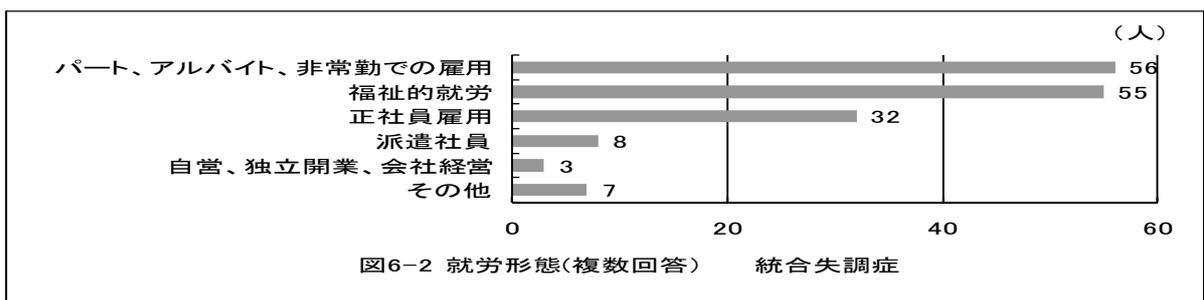
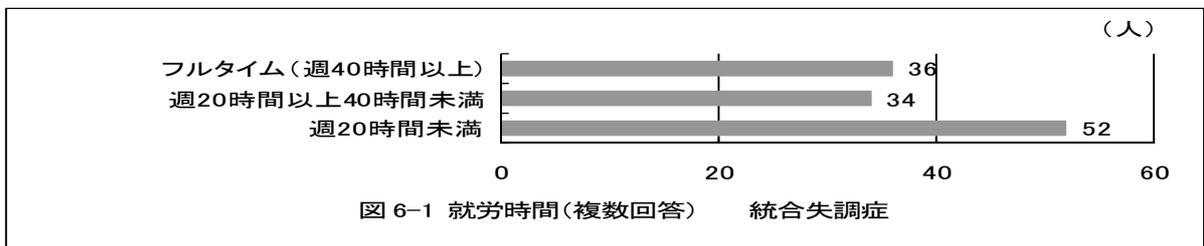
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性 104 人 (74.3%)、女性 36 人 (25.7%) で男性が女性の 2.9 倍です。
- ②平均年齢は 42.8 歳 (標準偏差 10.7 歳)。
- ③居住地は都市圏 (具体的な都市名は P9 に記載) 51 人 (36.2%)、それ以外 90 人 (63.8%) で都市圏以外が 1.8 倍です。
- ④障害者手帳は有が 134 人 (身体障害者手帳：14 人 [1 級 1 人, 2 級 9 人, 3 級 1 人, 4 級 2 人]、療育手帳等：6 人 [重度 1 人, 中度 3 人, 軽度 1 人]、精神障害者保健福祉手帳：121 人 [1 級 17 人, 2 級 87 人, 3 級 10 人]) であり、手帳有の回答者のうち 90.3% が精神障害者保健福祉手帳を所持しており、同手帳所持者のうち 80.2% が中軽度です。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」65 人 (49.2%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」43 人 (32.6%) であり、合わせると 81.8% が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間 (複数回答) は「フルタイム (週 40 時間以上)」36 人 (就労経験者の 33.3%)、「週 20 時間以上 40 時間未満」34 人 (31.5%)、「週 20 時間未満」52 人 (48.1%) と「週 20 時間未満」が多い状況です。
- ③同様に就労形態 (複数回答) は多い順に、「パート、アルバイト、非常勤での雇用」56 人 (51.9%)、「福祉的就労 (就労移行/継続、作業所、デイケア等)」55 人 (50.9%)、「正社員雇用」32 人 (29.6%) 「派遣社員」8 人、「自営、独立開業、会社経営」3 人、「その他」7 人 となっています。



(2) 職業についての課題

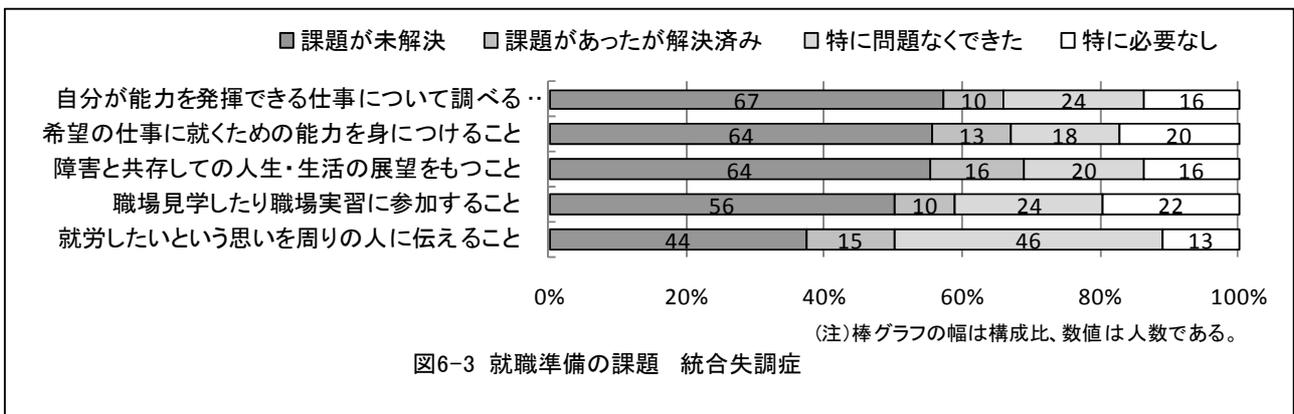
イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

(イ) 就職準備の課題

「課題が未解決」の回答についてみると「就労したいという思いを周りの人に伝えること」が44人(37.3%)であるが、その他の項目はいずれも半数以上となっています。

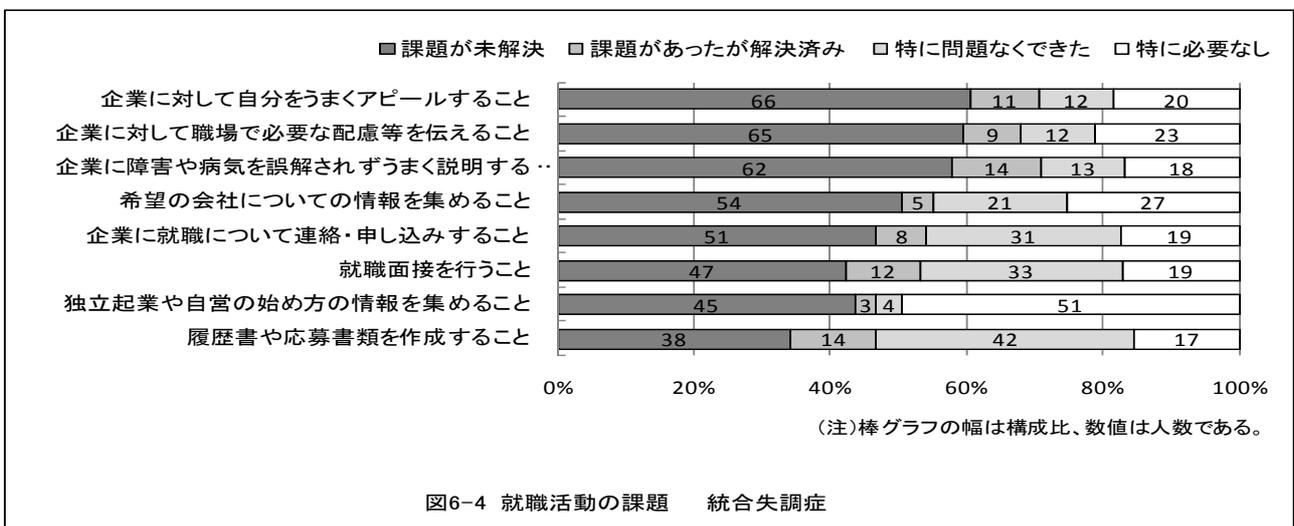
なお、「就労したいという思いを周りの人に伝えること」については「特に問題なくできた」の回答が46人(39.0%)となっています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題が未解決」の回答が多かったものは、「企業に対して自分をうまくアピールすること」66人(60.6%)、「企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること」65人(59.6%)、「企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること」62人(57.9%)」などとなっています。

なお、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると、「履歴書や応募書類を作成すること」や「就職面接を行うこと」などの項目について、半数を超えています。



□ 職場での課題

職業での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること」55人(55.0%)、「精神的ストレスに適切に対処すること」54人(55.1%)、「問題解決や判断を行うこと」46人(46.5%)、「適切な報酬を得ること」46人(46.5%)などとなっています。

一方、「問題あり 解決済み」の回答が多かった項目は、「決められた通院を行うこと」27人(26.5%)、「食事や休養、服薬、自己治療など健康管理をすること」22人(21.8%)、「清潔な身なりや服装をすること」20人(19.8%)などとなっています。

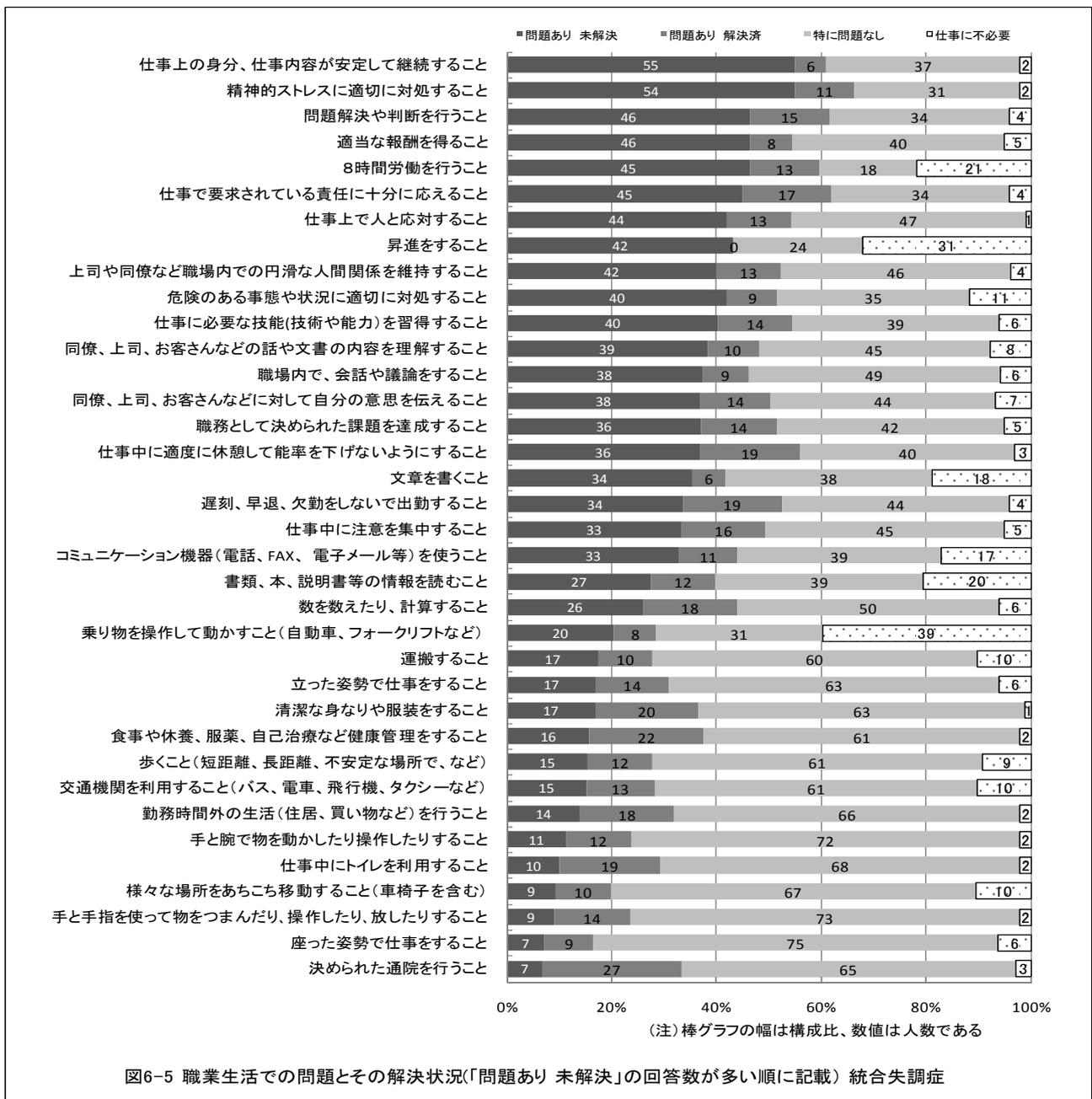


図6-5 職業生活での問題とその解決状況(「問題あり 未解決」の回答数が多い順に記載) 統合失調症

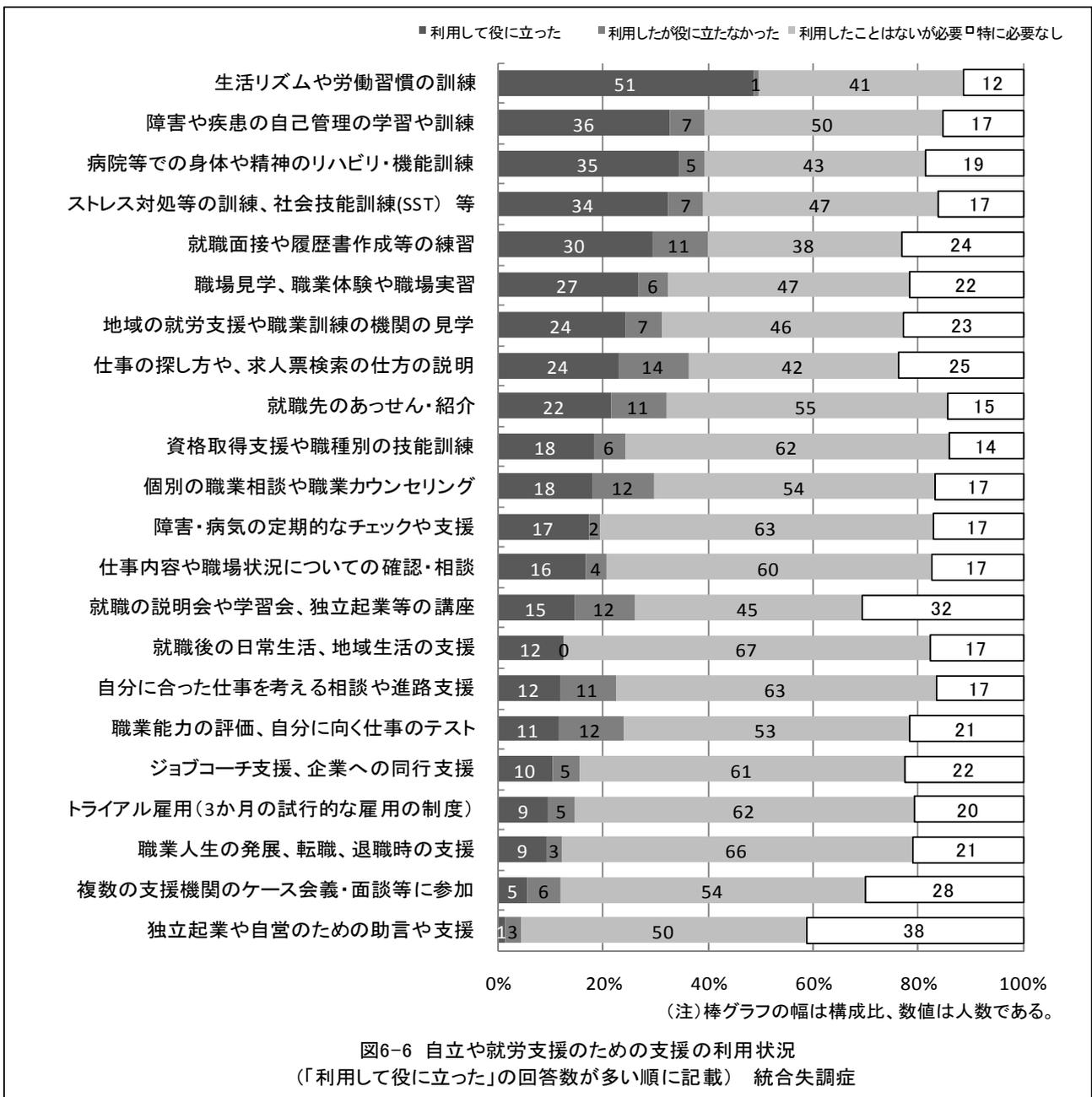
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が多かったものは、「生活リズムや労働習慣の訓練」51人(48.6%)、「障害や疾患の自己管理の学習や訓練」36人(32.7%)、「病院等での身体や精神のリハビリ・機能訓練」35人(34.3%)などとなっています。

なお、多くの項目で「利用したが役に立たなかった」の回答が1割以下、「利用したことはないが必要」との回答が5～6割、「特に必要なし」との回答が1～2割を占めています。

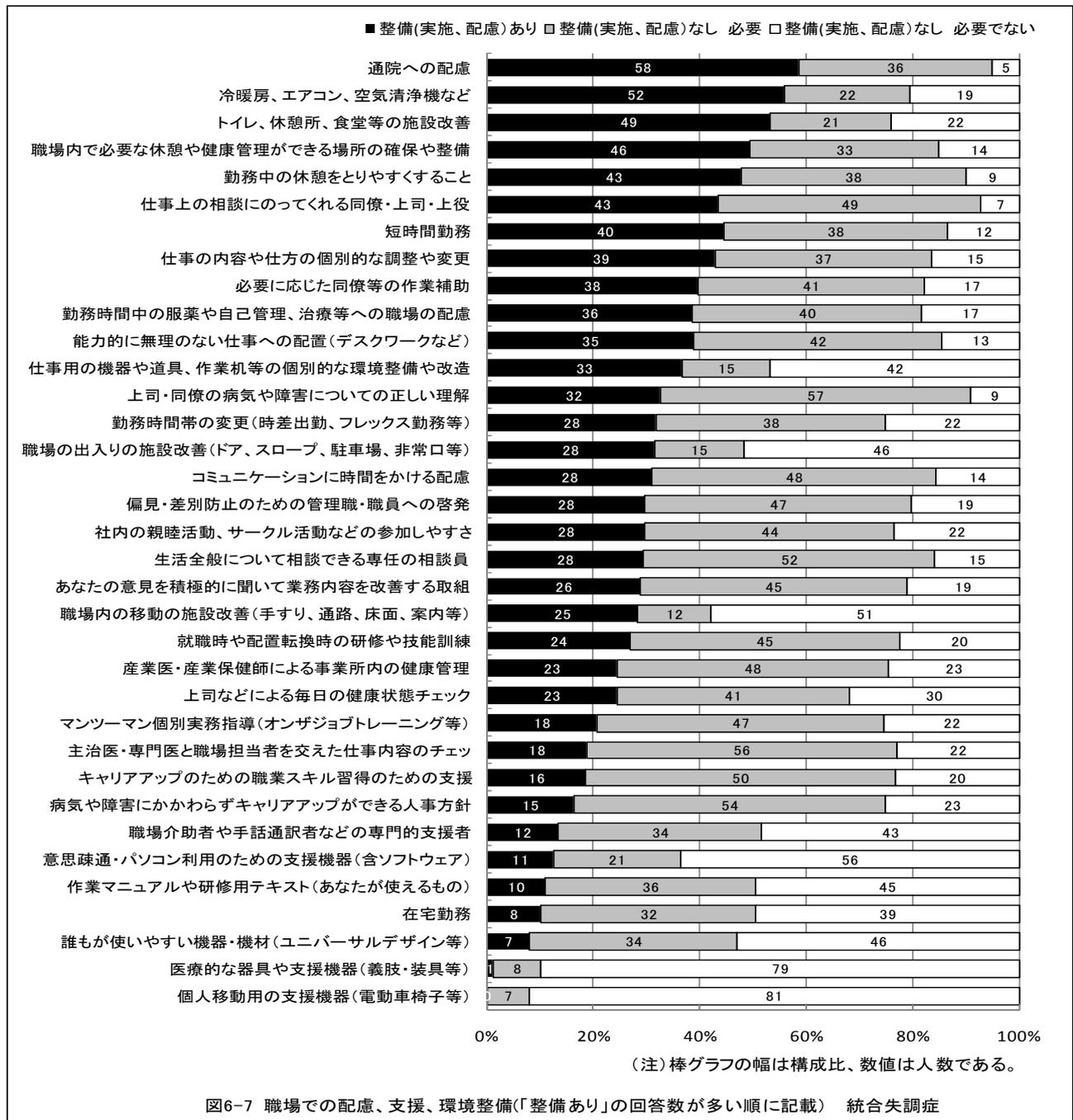


□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「通院への配慮」58人（58.6%）、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」52人（55.9%）、「トイレ、休憩所、食堂等の施設改善」49人（53.3%）などとなっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」57人（58.2%）、「主治医・専門医と職場担当者を交えた仕事内容のチェック」56人（58.3%）となっています。



(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

統合失調症のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「資格取得支援や職種別の技能訓練」や「職業能力の評価／自分に向く仕事のテスト」、就職後には「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」や「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「生活リズムや労働習慣の訓練」(現状の取組率:49.5%) (一体的な取組:「生活リズムや労働習慣の訓練※(48.6%)」「就職面接や履歴書作成等の練習※(29.8%)」「資格取得支援や職種別の技能訓練(24.5%)」)</p>	
<p>「資格取得支援や職種別の技能訓練」(現状の取組率:24.5%) (一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(22.1%)」「就職面接や履歴書作成等の練習(29.8%)」「個別の職業相談や職業カウンセリング(18.6%)」「トライアル雇用(15.3%)」)</p>	
<p>「職業能力の評価／自分に向く仕事のテスト」(現状の取組率:24.2%) (一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(22.1%)」「障害や病気の定期的なチェックや支援(17.8%)」「個別の職業相談や職業カウンセリング(18.6%)」「就職面接や履歴書作成等の練習(29.8%)」)</p>	
<p>「トライアル雇用」(現状の取組率:15.3%) (一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(22.1%)」「ジョブコーチ支援、企業への同行支援(16.0%)」「資格取得支援や職種別の技能訓練(18.6%)」)</p>	
<p>「就職後の日常生活、地域生活の支援」(現状の取組率:13.3%)</p>	

ロ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「通院への配慮」(現状の取組率:58.4%) (一体的な取組:「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(33.0%)」)</p>	
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:33.0%) (一体的な取組:「通院への配慮(58.4%)」「必要に応じた同僚等の作業補助(39.8%)」「短時間勤務(44.6%)」)</p>	
<p>「キャリアアップのための職業スキル習得のための支援」(現状の取組率:19.3%)</p>	
<p>「個別の職業相談や職業カウンセリング」(現状の取組率:18.6%)</p>	
<p>「地域の就労支援や職業訓練の機関の見学」(現状の取組率:24.5%)</p>	
<p>「必要に応じた同僚等の作業補助」(現状の取組率:39.8%) (一体的な取組:「冷暖房、エアコン(55.8%)」)</p>	
<p>「職場介助者や手話通訳者などの専門的支援者」(現状の取組率:14.3%)</p>	

(5) 活躍している仕事の例

この欄の掲載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・23歳～36歳まで教員、45歳から作業所スタッフ（男 49歳）
- ・事務（データチェック、データ入力、雑用、経理）（37歳）・販売員（女 43歳）
- ・車による貿易書類のデリバリー、電話応対、パソコン入力（男 32歳）
- ・軽作業、営業（男 37歳）・道路工事、自動車整備（男 61歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・接客業（男 39歳）・食品販売、クローズでしている。（女 38歳）
- ・温泉清掃、洗車（男 40歳）
- ・外国人のりょうのゴミ出し、りょうの清掃、りょうの部屋のリフォーム（男 34歳）
- ・食器あらい（男 35歳）
- ・軽作業、農作業、店内業務（男 38歳）・軽作業、営業（男 37歳）
- ・溶接工、新聞配達など（男 57歳）
- ・ケーキ袋（女 39歳）
- ・箱作り、発送じゅんぴ（男 45歳）
- ・スーパーの集積所で、コンテナの運搬・移動、肉体労働、2h（男 29歳）

【自営、独立開業、会社経営】

- ・鍼灸・マッサージ業（個人事業主）（男 60歳）

【福祉的就労】

- ・在宅フリーランス 英日、日英産業翻訳（男 37歳）
- ・事務（データチェック、データ入力、雑用、経理）（37歳）
- ・食器あらい（男 35歳）・事業所でマンションや病院のそうじをしている（男 36歳）
- ・スポンジの袋詰め（男 42歳）・木工・内職・パン製造（男 25歳）
- ・清掃、菓子製造、発送代行など（女 44歳）
- ・清掃、菓子製造、事務補助、発送代行の部門に分かれている。（男 23歳）
- ・カステラの箱折り、ミソカップのシール貼り、ケーキの箱作り、等々（女 23歳）
- ・弁当作りしこみ（男 56歳）・ホテル（男 48歳）・軽作業、弁当作り（男 39歳）
- ・机に向かって、商品を袋に入れたり、ケーブルを作ったりする軽作業（男 47歳）
- ・バザーなどで、販売する、小物やお菓子を作っている（主に、小物作りで、障害者用の小物作りキットを使って作らせてもらっている）（男 41歳）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・人とかわりにくく、手先の不器用さ、がんこ、状況判断が低い。生活習慣の不備、衣服の身だしなみの悪さ、片づけができない、病気をもっていること、職歴がよくない、仕事が遅い、一度に2つのことができない、すぐ飽きるなどから就職困難、採用されない。
- ・通院を認めてくれない。入院すれば解雇された。
- ・医師に病気を隠して仕事をしなさいと言われ仕事をしたが長続きはしなかった（1ヶ月続かなかった）。
- ・就職に向けての第一歩になかなか踏み出せず、後に延ばしていた。
- ・ストレスや体力向上の課題がある。足がふらふらし、のどが渴いた。

ロ 就職前の取組

- ・就職や復職をするにあたって仕事の経験がなかった。
- ・自分を生かせる就労とは・・・あちこち働いて手さぐりでみつけた。かつ、自分の能力を伸ばすことのできる就労環境での努力が現在の課題。
- ・主にパソコン技術の向上のため委託訓練に申し込み中。
- ・体調の波（不安定）があっても続けられる仕事を探すのに苦労した。
- ・障害をオープンにしていくか、クローズにしていくか。
- ・集中できる時間が短すぎて自分にあった職種がみつけだせなかった。
- ・勤務時間も、調整ではなくそういう短時間の時間で求めている会社に応募し就職した。
- ・障害があっても自分にあったかんたんな作業であれば、出来ると思うのであきらめないで下さい。
- ・自分を生かせる就労とは・・・あちこち働いて手探りで見つけた

ハ 就職後の取組

- ・薬を飲みながら休まないで働くこと。
- ・精神障がい者は、体調や気持ちに波があり、長時間労働はできにくいですが、その特性に配慮した仕事であれば、仕事もできる可能性が高いと思う。仕事をした際の、職場の人の理解やフォロー体制が整備されれば、仕事ができる障がい者も多くなると思う。
- ・通院日の確保（の支援を受けている）・仕事の休みの日を自分で決めることができた。
- ・病気に対する理解と対応。上司や同僚とのコミュニケーションがとれる雰囲気。（支援を受けている）
- ・毎日の体調にあわせての、作業内容、ムリのない作業時間、ストレスやプレッシャーがかからないように配慮して頂き、会話を本人が楽しんで作業所に通えるように常に気を付けて頂いていて、とてもありがたく感謝している。
- ・具体的には偏見を恐れて、詳しい説明はできなかった。勤務の厳しさを母親が心配して、会社に伝えた。理解されずに仕事がなくなった。

7 発達障害

アンケート調査票の障害・疾患についての問で、「発達障害」の欄中、「広汎性発達障害」、「自閉症」、「アスペルガー障害」、「学習障害」、「読字障害」、「注意欠陥多動性障害」、「トゥレット症候群」、「その他」のいずれか一つ以上に回答があった 332 人の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

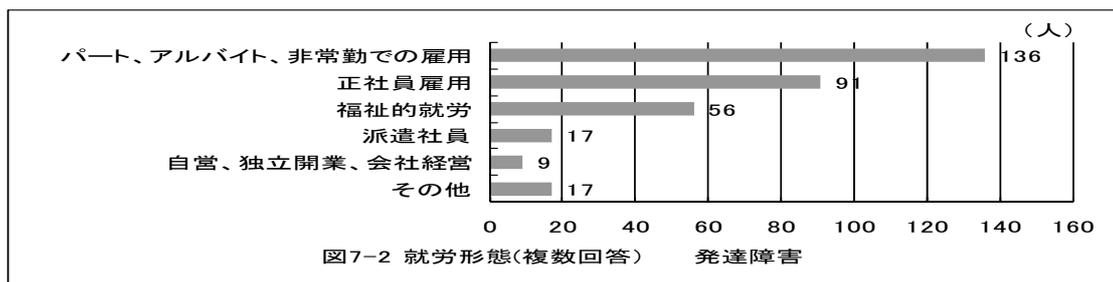
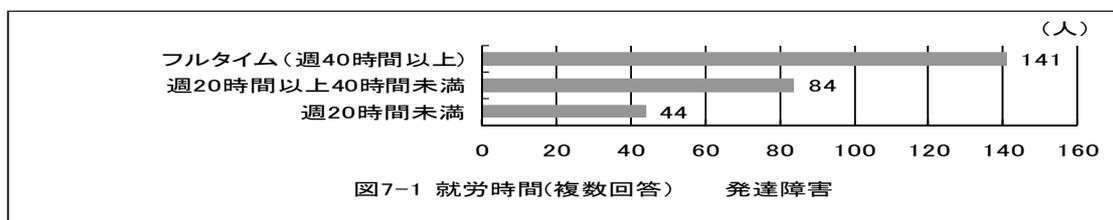
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性 229 人 (71.6%)、女性 91 人 (28.4%) で男性が女性の 2.5 倍です。
- ②平均年齢は 29.1 歳 (標準偏差 10.1 歳)。
- ③居住地は 都市圏 (具体的な都市名は P9 に記載) 137 人 (44.3%)、それ以外 172 人 (55.7%) で都市圏以外が 1.3 倍です。
- ④障害者手帳は有 (いずれか一つ以上) が 246 人 (身体障害者手帳 : 36 人 [1 級 9 人, 2 級 13 人, 3 級 1 人, 4 級 7 人, 5 級 2 人, 6 級 3 人]、療育手帳等 183 人 [重度 49 人、中度 54 人、軽度 73 人]、精神障害者保健福祉手帳 : 53 人 [1 級 5 人、2 級 35 人、3 級 13 人]) であり、全体 332 人のうち障害者手帳有と回答した方は 74.1%、いずれも無と回答した方は 70 人で 21.1%です。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」205 人 (67.9%)、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」49 人 (16.2%) であり、合わせると 254 人 (84.1%) が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間 (複数回答) は「フルタイム (週 40 時間以上)」141 人 (就労経験者の 55.5%)、「週 20 時間以上で 40 時間未満」84 人 (33.1%)、「週 20 時間未満」44 人 (33.1%) とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態 (複数回答) は多い順に「パート、アルバイト、非常勤での雇用」136 人 (53.5%)、「正社員雇用」91 人 (35.8%)、「福祉的就労」56 人 (22.0%)、「派遣社員」17 人、「自営、独立開業、会社経営」9 人、「その他」17 人 となっています。



(2) 職業についての課題

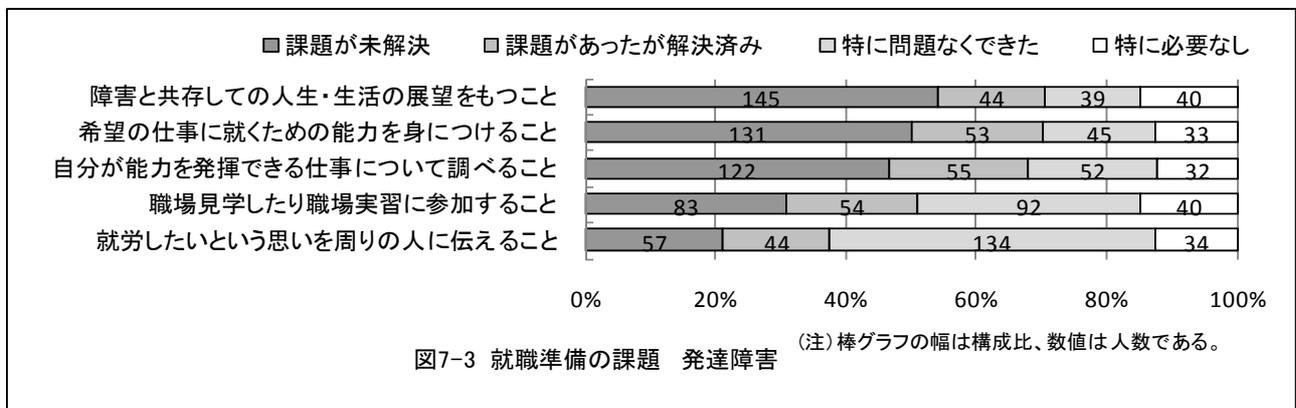
イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

(イ) 就職準備の課題

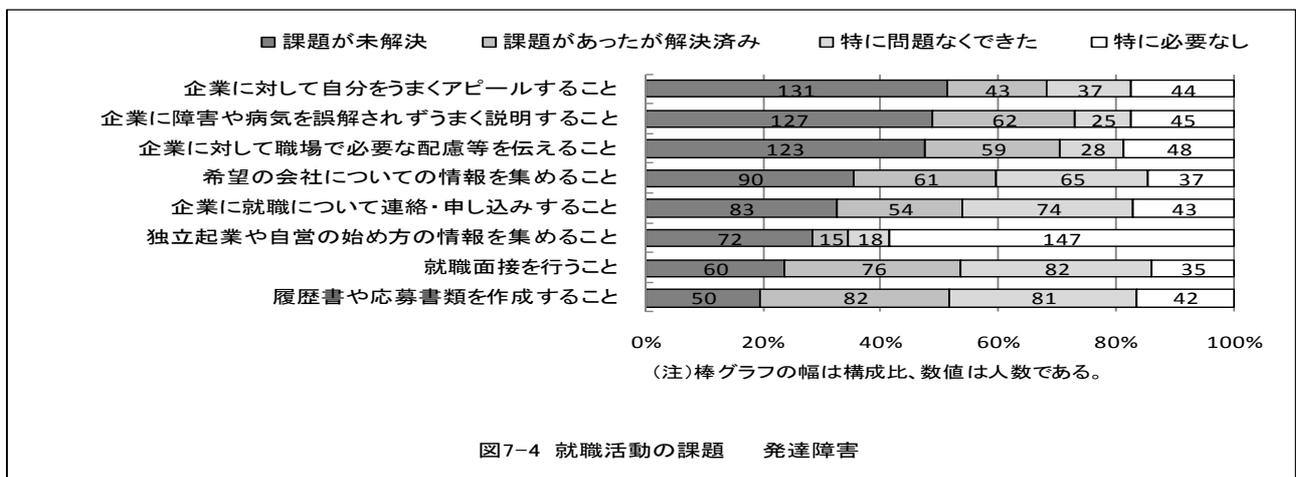
「課題が未解決」とする回答が多い項目は、「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」145人(54.1%)、「希望の仕事に就くための能力を身につけること」131人(50.0%)、「自分が能力を発揮できる仕事について調べること」122人(46.7%)となっています。

一方、「職場見学したり職場実習に参加すること」及び「就労したいという思いを周りの人に伝えること」は「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると6割を超えています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題が未解決」の回答が多かったものは、「企業に対して自分をうまくアピールすること」131人(51.4%)、「企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること」121人(49.0%)、「企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること」123人(47.7%)であり、他の項目よりやや多くなっています。他の項目は「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると6割を超えています。



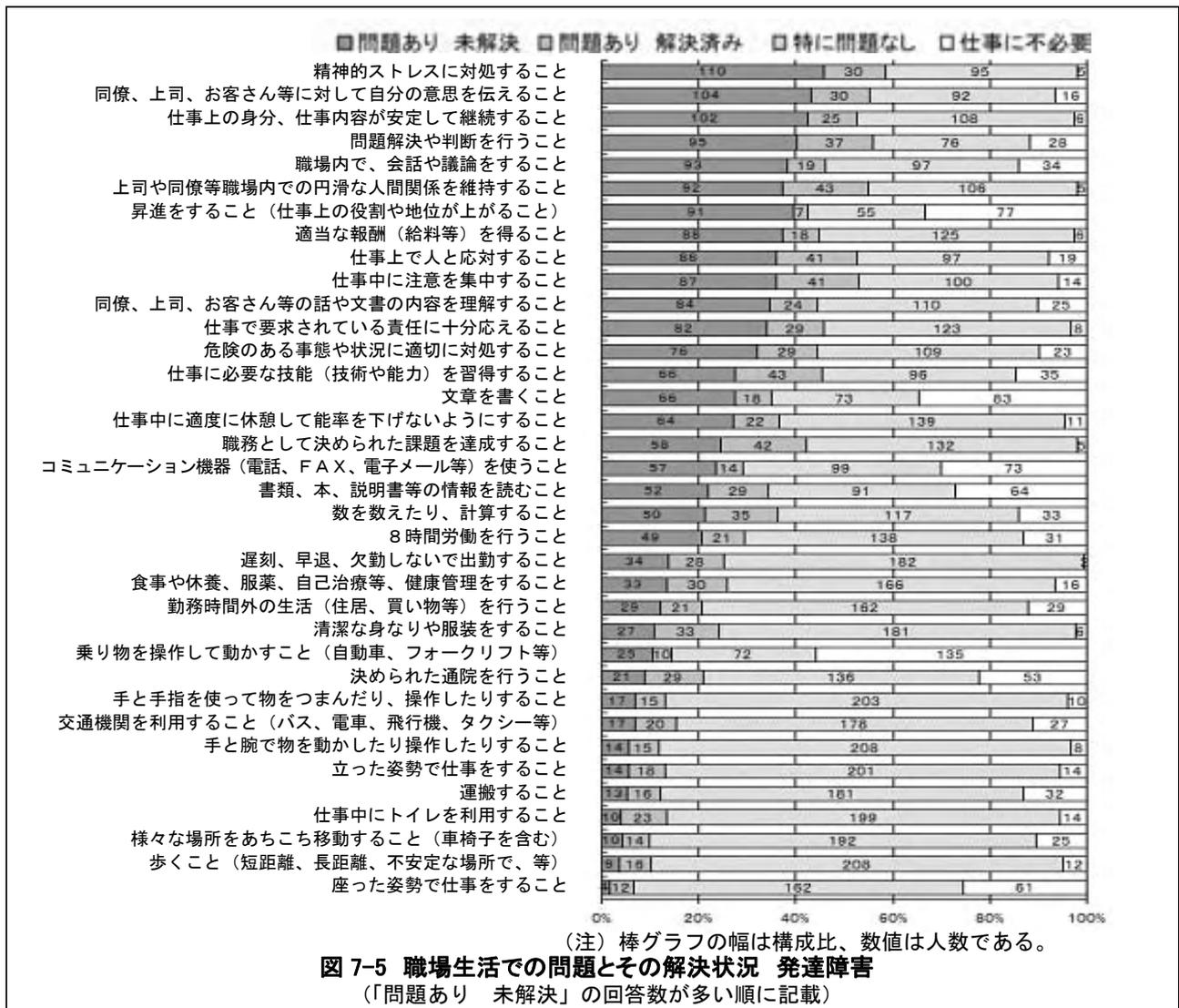
□ 職場での課題

職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「精神的ストレスに適切に対処すること」110人(46.0%)、「同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること」104人(43.0%)、「仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること」102人(42.5%)などとなっています。

一方、「問題あり 解決済み」の回答が多かった項目は、「仕事に必要な技能(技術や能力)を習得すること」43人(17.7%)、「上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること」43人(17.5%)、「職務として決められた課題を達成すること」42人(17.9%)などとなっています。

また、課題については、「特に問題なし」とする回答者も相当数程度ある項目もあります。「特に問題なし」を選択した人数が多い項目は、「手と腕で物を動かしたり操作したりすること」208人(84.9%)「歩くこと(短距離、長距離、不安定な場所で、など)」208人(84.9%)など体を使ったり、移動したりする項目などとなっています。



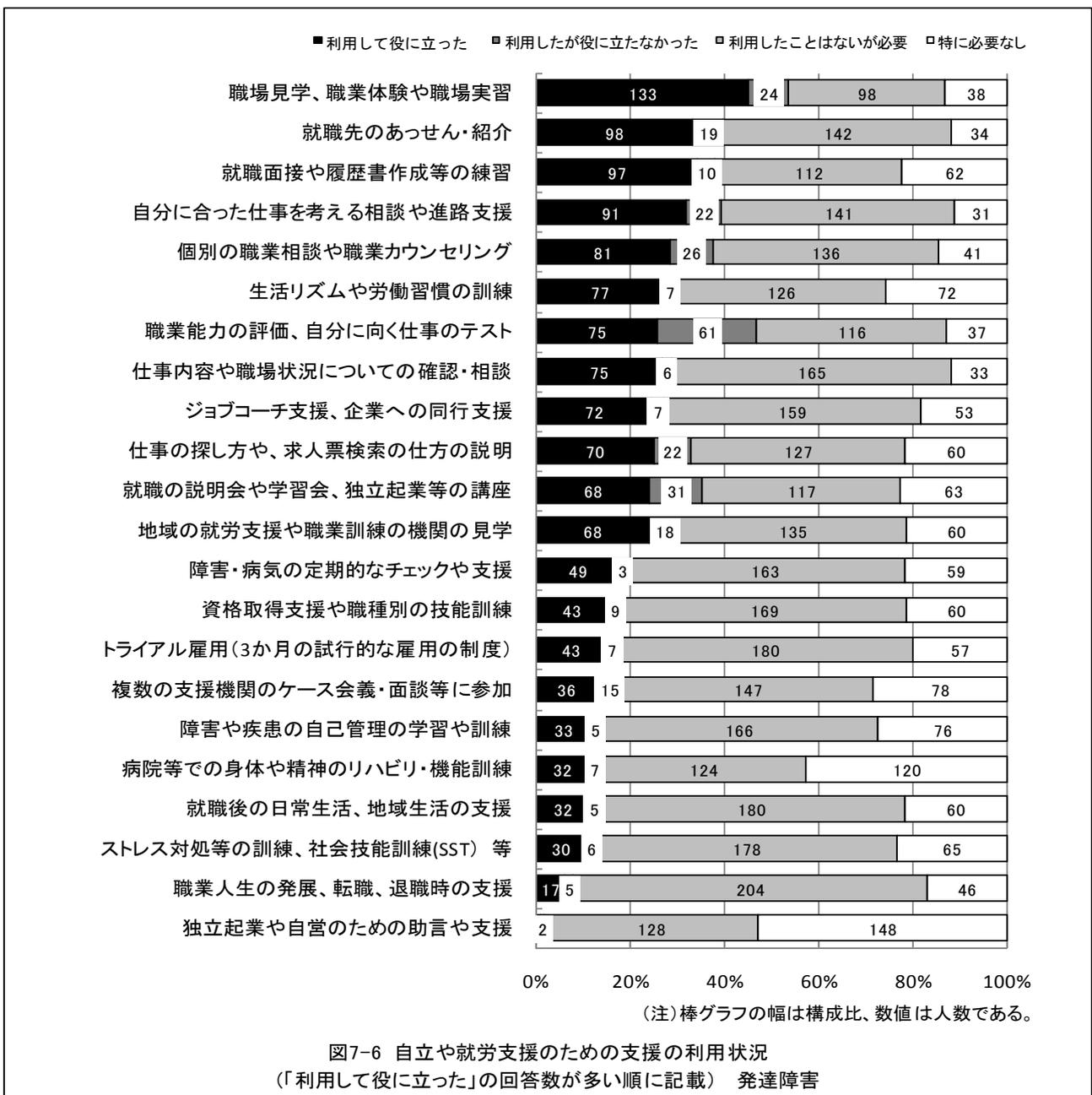
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が多かったものは、「職場見学、職業体験や職場実習」133人（45.4%）が特に多く、「就職先のあっせん・紹介」98人（33.4%）「就職面接や履歴書作成等の練習」97人（34.5%）などとなっています。

なお、多くの項目で、「利用したことはないが必要」との回答が4～6割程度、「特に必要なし」との回答が1～3割程度を占めています。

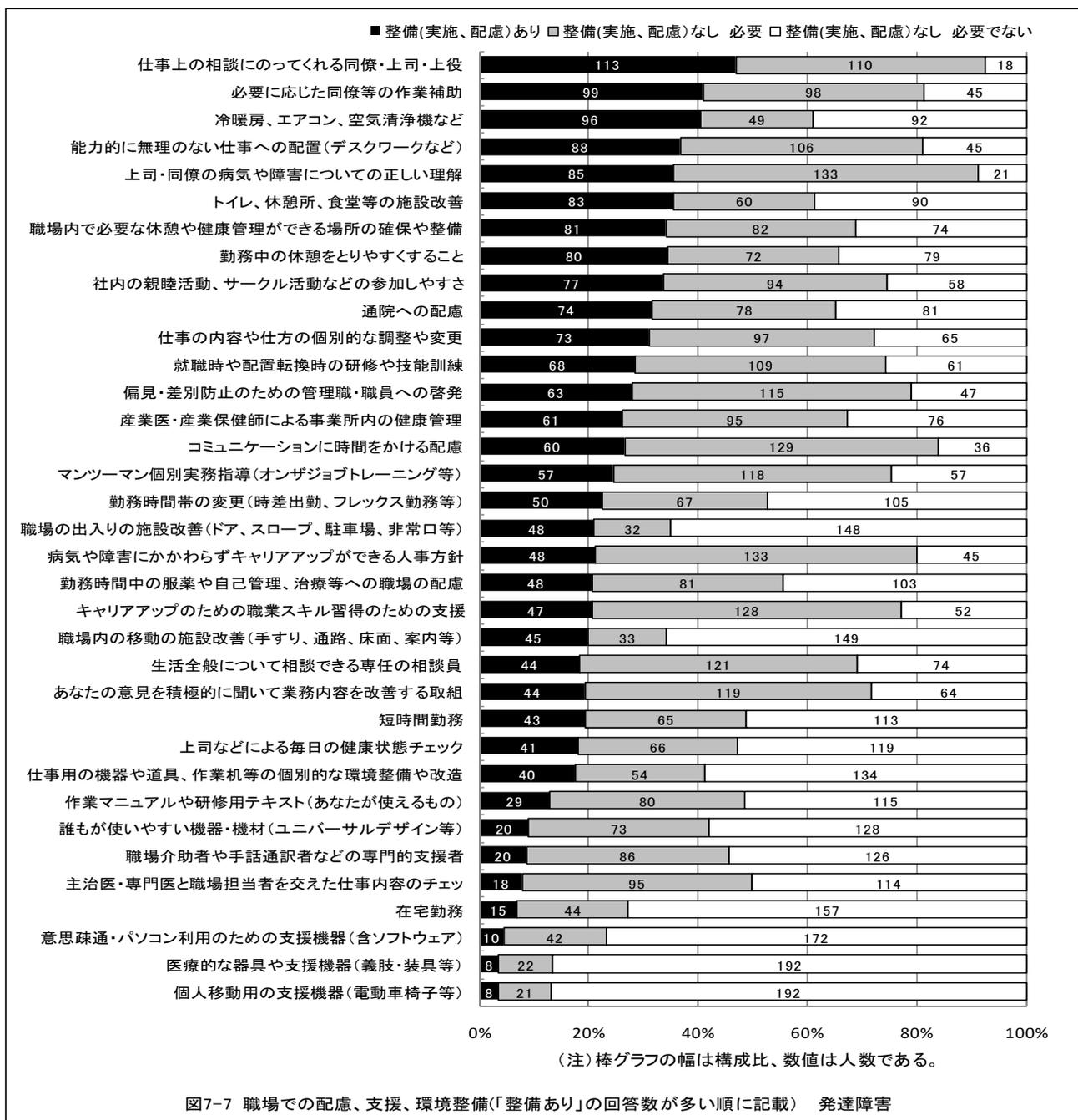


□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」113人（46.9%）、「必要に応じた同僚等の作業補助」99人（40.9%）「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」96人（40.5%）などとなっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」133人（58.8%）、「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」133人（55.6%）、「コミュニケーションに時間をかける配慮」129人（57.3%）などとなっています。



(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

発達障害のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「資格取得支援や職種別の技能訓練*」や「就職後の日常生活、地域生活の支援*」、就職後には「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」や「就職時や配置転換時の研修や技能訓練」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。

グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「就職先のあっせん・紹介※」(現状の取組率:33.7%) (一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(40.1%)」)</p>	
<p>「資格取得支援や職種別の技能訓練」(現状の取組率:15.5%) (一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(33.7%)」「個別の職業相談や職業カウンセリング(28.7%)」「本人に合った仕事を考える相談や進路支援(32.1%)」「就職面接や履歴書作成等の練習(34.8%)」)</p>	
<p>「就職後の日常生活、地域生活の支援」(現状の取組率:11.8%)</p>	
<p>「トライアル雇用」(現状の取組率:15.3%) (一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(33.7%)」)</p>	

<p>「複数の支援機関のケース会議・面談等に参加」（現状の取組率:13.3%）</p>	
---	--

ロ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」（現状の取組率:21.6%） （一体的な取組:「産業医・産業保健師による事業所内の健康管理(26.6%)」「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役(47.3%)」「コミュニケーションに時間をかける配慮(27.0%)」「職場内で必要な休憩や健康管理ができる場所の確保や整備(34.5%)」「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(36.3%)」)</p>	
<p>「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」（現状の取組率:47.3%） （一体的な取組:「職場内で必要な休憩や健康管理ができる場所の確保や整備(34.5%)」「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(36.3%)」)</p>	
<p>「就職時や配置転換時の研修や技能訓練」（現状の取組率:29.1%）</p>	

<p>「職場内で必要な休憩や健康管理ができる場所の確保や整備」（現状の取組率:34.5%） （一体的な取組:「冷暖房、エアコン、空気清浄機など(40.9%)」）</p>	<p>危険のある事態や状況に適切に対応すること 仕事中に注意を集中すること 勤務時間外の生活(休息、買い物など)を行うこと 仕事中に過度に休憩して効率を下げないようにすること 清潔な身なりや服装をすること 決められた通勤を行うこと</p>
<p>「産業医・産業保健師による事業所内の健康管理」（現状の取組率:26.6%） （一体的な取組:「上司などによる毎日の健康状態チェック(18.5%)」 「仕事上の相談ののってくれる同僚・上司・上役(47.3%)」）</p>	<p>同僚、上司、お客さんなどの話や文書の内容を理解すること 同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること 精神的ストレスに適切に対応すること 仕事中に注意を集中すること 仕事で要求されている責任に十分に定めること 仕事中に過度に休憩して効率を下げないようにすること</p>
<p>「資格取得支援や職種別の技能訓練」（現状の取組率:18.7%）</p>	<p>文章を書くこと コミュニケーション機器(電話、FAX、電子メール等)を使うこと 数を数えたり、計算すること</p>
<p>「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」（現状の取組率:40.9%）</p>	<p>遅刻、早退、欠勤をしないで出勤すること 勤務時間外の生活(休息、買い物など)を行うこと</p>
<p>「上司などによる毎日の健康状態チェック」（現状の取組率:18.5%）</p>	<p>精神的ストレスに適切に対応すること 問題解決や判断を行うこと 書籍、本、説明書等を読むこと 仕事中に過度に休憩して効率を下げないようにすること</p>
<p>「仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造」（現状の取組率:17.9%）</p>	<p>職場内で、会話や議論をすること 精神的ストレスに適切に対応すること 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること 仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること 適切な転職をすること</p>

(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・プログラマー（女 23 歳）・情報通信関連、研究職（男 41 歳）・アパレルの企画、デザイン、縫製仕様の確認、サンプルの修正（女 29 歳）
- ・事務職で、主に書類作、電話応対、パソコン等のデスクワーク（女 27 歳）・老人施設で事務全般（女 24 歳）・関係子会社の売掛管理、社員経費精算（男 22 歳）・事務、パソコン作業、外回り、書類作成等（男 23 歳）
- ・パチンコ店員（正社員）（男 28 歳）・会社内でのメール便（男 19 歳）
- ・食品製造業、製品の選別、包装（女 19 歳）・製造業、ダンボール製造、ダンボール梱包（男 23 歳）
- ・鉄工所、文具倉庫、運送業（男 44 歳）・運送会社の荷分け作業（男 18 歳）
- ・自動車等の部品のプレス（男 22 歳）・工場で船のエンジンの部品製作（男 27 歳）
- ・コピー・コップなどの洗い物、シュレッダーかけ、パソコン入力（女 22 歳）
- ・空港にて、機内の清掃、座席への雑誌などのセット（男 23 歳）・施設内の清掃（男 20 歳）・清掃業（男 24 歳）・企業への鉢（植木）の運搬助手街路の植木手入れ、花植（男 36 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・事務作業等（複数）・ファストフードの店員（男 21 歳）・コンビニエンスストア（男 20 歳）
- ・ビデオレンタルショップ店員（男 23 歳）・他接客業（複数）
- ・鉄材の切断、加工（鉄工所）、スーパーでのレジ、接客、品出し・公民館での事務（男 25 歳）
- ・飲食店での調理補助（サラダ等の盛り付け、焼き物）店外の清掃、草抜き（男 19 歳）
- ・建材用タイルの製造ラインでタイルの箱づめ、梱包など（男 27 歳）
- ・製品（のぼり旗）をたたんでビニール袋に入れる（女 30 歳）
- ・パンの製造工程（女 42 歳）・フライチャイズ店での調理（男 22 歳）・食堂、食器洗浄（男 29 歳、男 23 歳）
- ・値札付け、値札作成、検品等（男 29 歳）・新聞、夕刊の配達（女 23 歳）
- ・現在自動車工場に送る部品の仕分け（男 29 歳）・製造業、簡単な組立・検査（男 23 歳）
- ・単純な倉庫出荷作業、フォークリフト作業（男 28 歳）・高齢者デイサービス、朝夕の送迎、入浴介助、食事介助、機能訓練補助、レクリエーション（女 39 歳）・土木、倉庫内作業、工場、ヘルパー（男 30 歳）・介護の仕事（男 33 歳）・施設の用務員（男 34 歳）・配達（男 39 歳）
- ・ショッピングセンターの農産部門で野菜の蘇生作業、袋詰め、トラックで届いた荷物の荷受作業、作業場の掃除、ゴミ捨て等（男 31 歳）・清掃（複数）

【自営、独立開業、会社経営】・大工（男 21 歳）

【福祉的就労】

- ・パソコン操作（女 33 歳）・軽作業、農作業、店内業務（男 38 歳）
- ・バザーなどで、販売する、小物やお菓子作り（男 41 歳）

- ・農園での苗の植えつけ、雑草引き、その他作業（男 22 歳）・老人介護

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・自分の気持ちを言葉にしたり、話しかけられ答えることなどが苦手。職場でのコミュニケーションや人間関係に不安がある場合がある。

ロ 就職前の取組

- ・育ちの中で、学校・家でのお手伝い等をなるべく早くさせるよう事を心がけていた。また、高校の友人がとても良いサポーターになってくれ、本人も意識的ではないが、上手にたよっていた。初めてのバイトも友人にさそわれ、友人がジョブコーチの役をしてくれていた様だ。
- ・職業訓練校の指導員と生活・就業支援センターのワーカーとで、自閉症理解や面接、トライアル雇用中のジョブコーチによる支援により課題は解決できた。
- ・障害者雇用で切り換えるため、3年半たずさわっていた仕事をやめた。実習と3ヶ月間のトライアル雇用を経て正式に仕事が決まった。
- ・特別支援学校の職場実習でスーパーでの就労が決まった。
- ・障害者職業センターで就職先を紹介してもらい、職場でジョブコーチと一緒に1週間働いた後、採用が決まった。
- ・就職については職業能力開発校の先生方に本当に細かく指導、支援していただいた。

ハ 就職後の取組

- ・職場で悩みを相談できる人、場所があるとよい。上司や指導員に、おだやかな対応をしてもらうとよい。ドキドキしてわからなくなることがなくなる。
- ・ジョブコーチのように、自分が安心して継続的に指導して頂けたり、失敗を理解して受けとめて頂ける上司が一人、近いところにいてもらえるとよい。
- ・能力を高く見られ仕事の量が増え、一応こなせたが本人の中で一杯一杯になってしまいやめた。が、その後も電話をいただき誘われたが、本人は戻れなかった。
- ・統括マネージャーが自ら私の主治医の元におもむき、話を聞いて下さった。それによりできる、できないを私と本と主治医の言葉で確認、仕事上で負担になることを外して下さっている。周囲の理解もありがたい。
- ・作業に関する指示や報告は同じ人とやりとりすることでうまくいっている。
- ・病気についての知識を持ってほしい。手の不器用なところがあり、1つの仕事が出来なかつたり、時間がかかたりすることがあるが、長い目で見てほしい。
- ・作業指示を簡潔に1つ1つ出してほしい。一度に2つ以上の言葉の処理、行動するという同時発信がうまくいかない場合があるが、一つ一つ納得し、理解すると、力を発揮できる。

8 高次脳機能障害（脳外傷による）

アンケート調査票の障害・疾患についての問で、「高次脳機能障害」を選択した方であって、当事者団体会員である方の合計 204 人の方の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

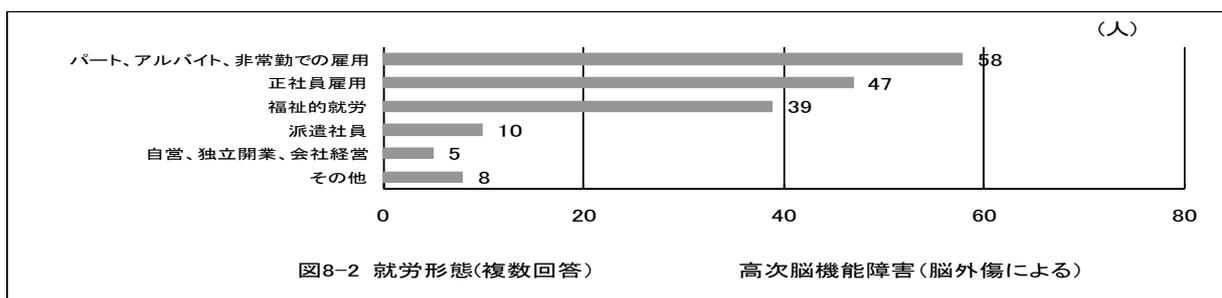
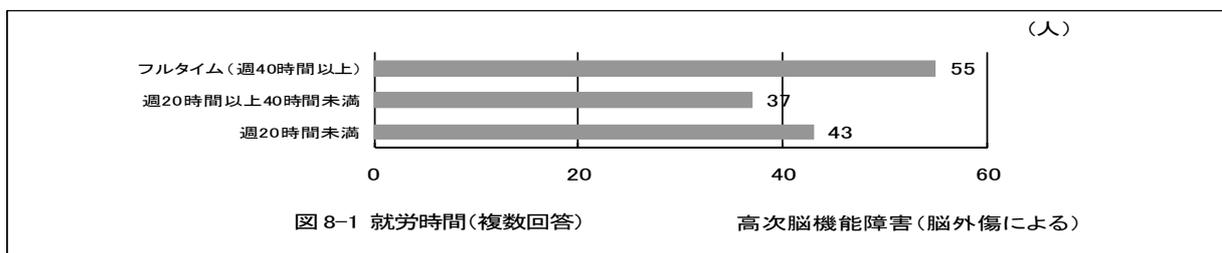
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性 143 人（72.2%）、女性 55 人（27.8%）で男性が女性の 2.6 倍です。
- ②平均年齢は 39.7 歳（標準偏差 11.1 歳）。
- ③居住地は都市圏（具体的な都市名は P9 に記載）63 人（31.8%）、それ以外 135（68.2%）人で都市圏以外が 2 倍以上です。
- ④障害者手帳は有が 194 人（身体障害者手帳：110 人[1 級 24 人, 2 級 31 人, 3 級 11 人, 4 級 7 人, 5 級 23 人, 6 級 12 人]、療育手帳等：16 人[重 3 人, 中 4 人, 軽 5 人]、精神障害者保健福祉手帳：125 人[1 級 27 人, 2 級 69 人, 3 級 28 人]）であり、ほとんどの方が手帳を所持しており、身体障害者手帳と精神障害者保健福祉手帳が多い状況です。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」78 人（44.3%）、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」40 人（22.7%）であり、合わせると 67.0%が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間（複数回答）は「フルタイム（週 40 時間以上）」55 人（就労経験者の 46.6%）、「週 20 時間以上 40 時間未満」37 人（31.4%）、「週 20 時間未満」43 人（36.4%）とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態（複数回答）は多い順に、「パート、アルバイト、非常勤での雇用」58 人（49.2%）、「正社員雇用」47 人（39.8%）、「福祉的就労（就労移行/継続、作業所、デイケア等）」39 人（33.1%）、「派遣社員」10 人、「自営、独立開業、会社経営」5 人、「その他」8 人 となっています。



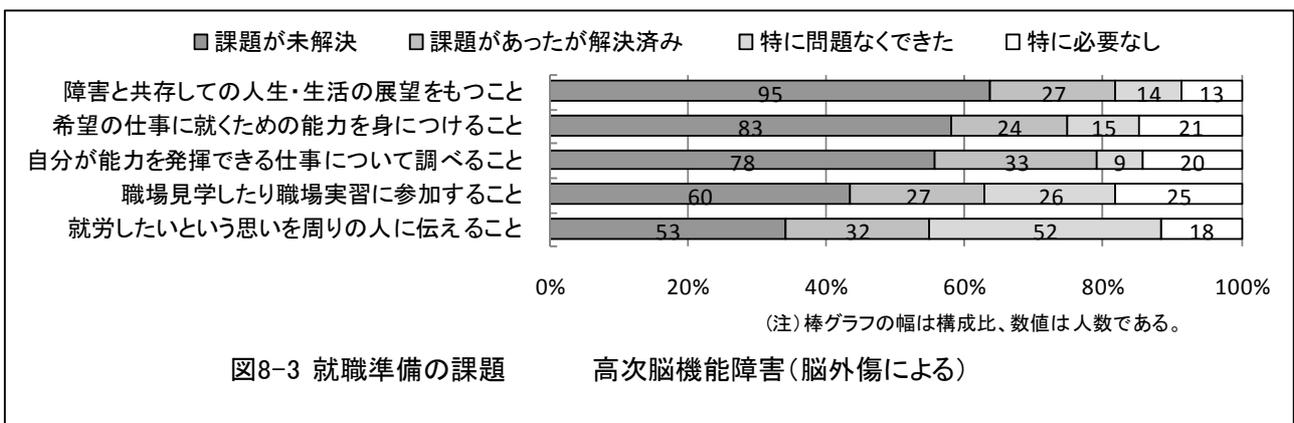
(2) 職業についての課題

イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

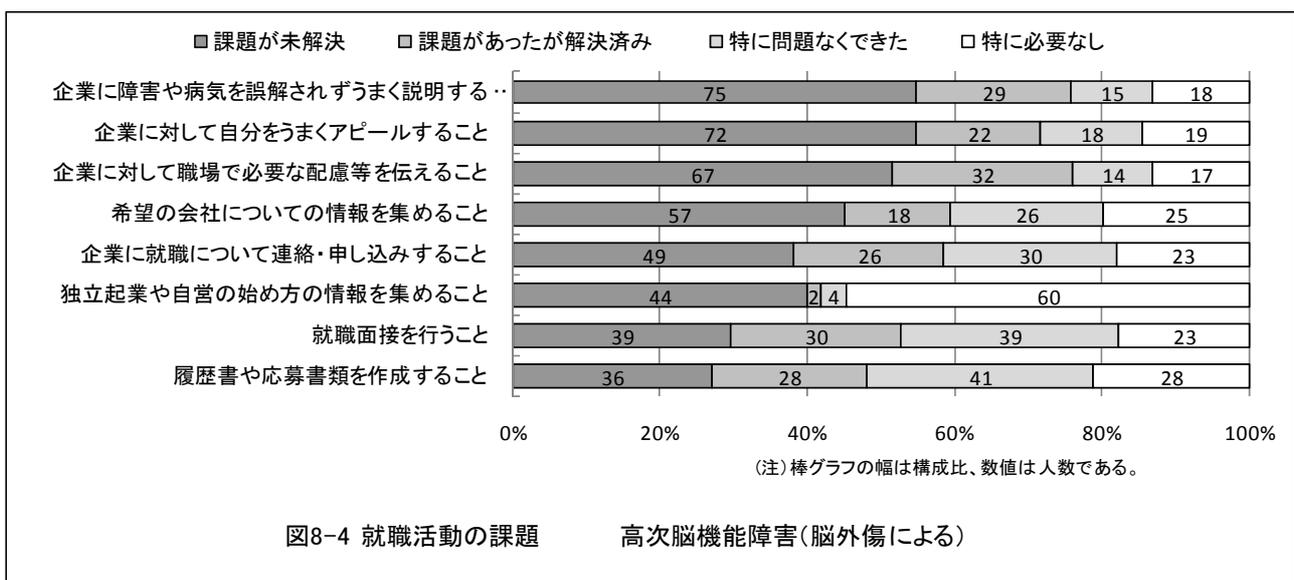
(イ) 就職準備の課題

「課題が未解決」の回答が多かったものは、「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」95人（この課題についての回答者数の（以下同じ）63.8%）、「希望の仕事に就くための能力を身につけること」83人（58.0%）及び「自分が能力を発揮できる仕事について調べること」78人（55.7%）であり、いずれも過半数となっています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題が未解決」の回答が多かったものは、「企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること」75人（54.7%）、「企業に対して自分をうまくアピールすること」72人（55.0%）、「企業に対して職場で必要な配慮等を伝えること」67人（51.5%）であり、いずれも過半数となっています。



□ 職場での課題

職場での課題について、就労経験者に対してたずねています。各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「精神的ストレスに適切に対処すること」61人(55.0%)、「問題解決や判断を行うこと」55人(51.4%)、「職場内で、会話や議論をすること」53人(49.1%)などとなっています。また、「問題あり 解決済み」の回答が多かったものは、「仕事集中に注意を集中すること」22人、「職務として決められた課題を達成すること」21人(%)、「仕事集中に適度に休憩して能率を下げないようにすること」20人(%)などとなっています。

一方、「手と手指を使って物をつまんだり、操作したり、放したりすること」78人(71.6%)、「座った姿勢で仕事をする事」77人(70.6%)、「手と腕で物を動かしたり操作したりすること」75人(70.7%)、「交通機関を利用すること(バス、電車、飛行機、タクシーなど)」72人(65.5%)、「立った姿勢で仕事をする事」71人(66.4%)など体を使ったり、移動したりすることはほとんどの項目で6~7割が「特に問題なし」の回答となっています。

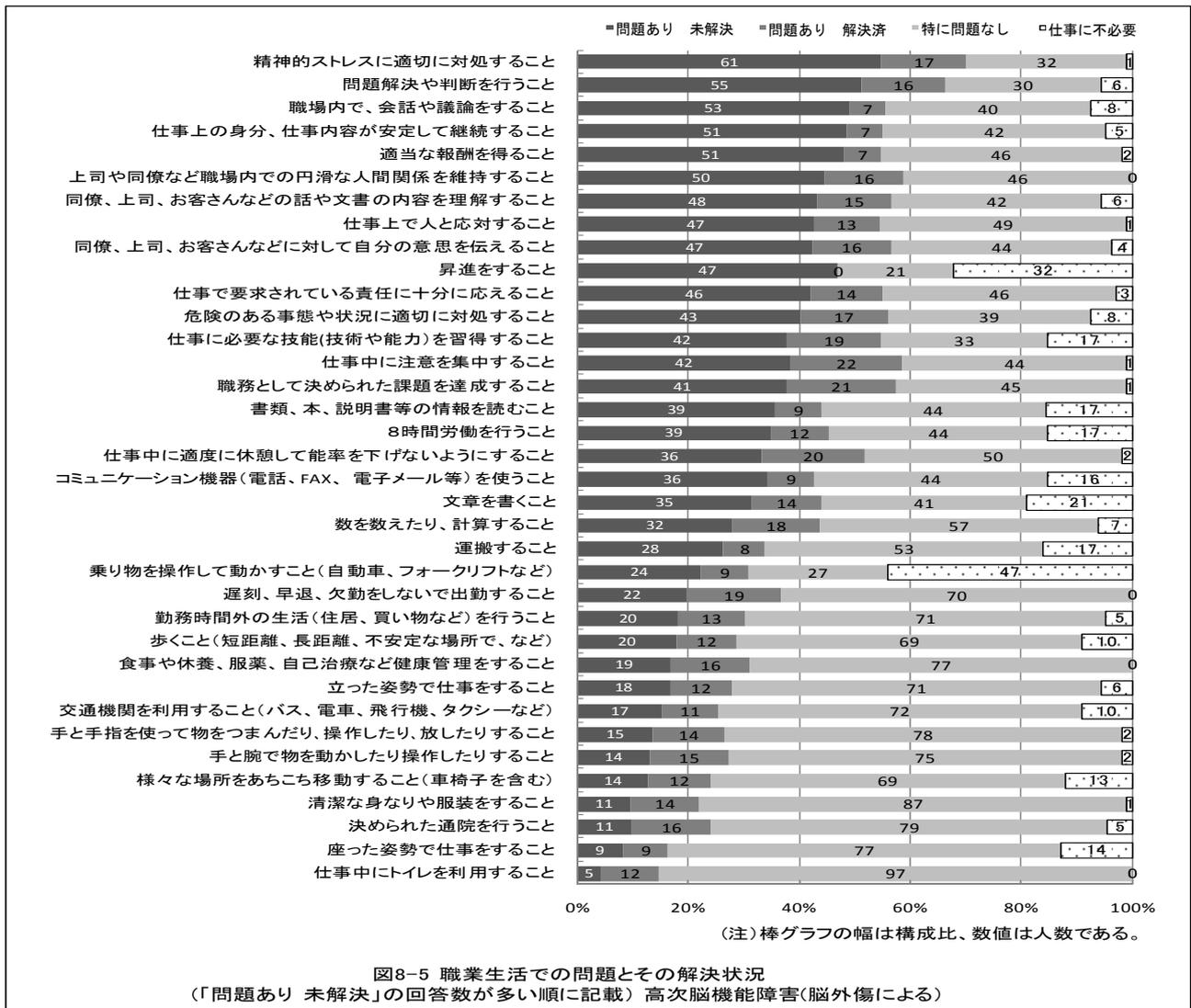


図8-5 職業生活での問題とその解決状況
(「問題あり 未解決」の回答数が多い順に記載) 高次脳機能障害(脳外傷による)

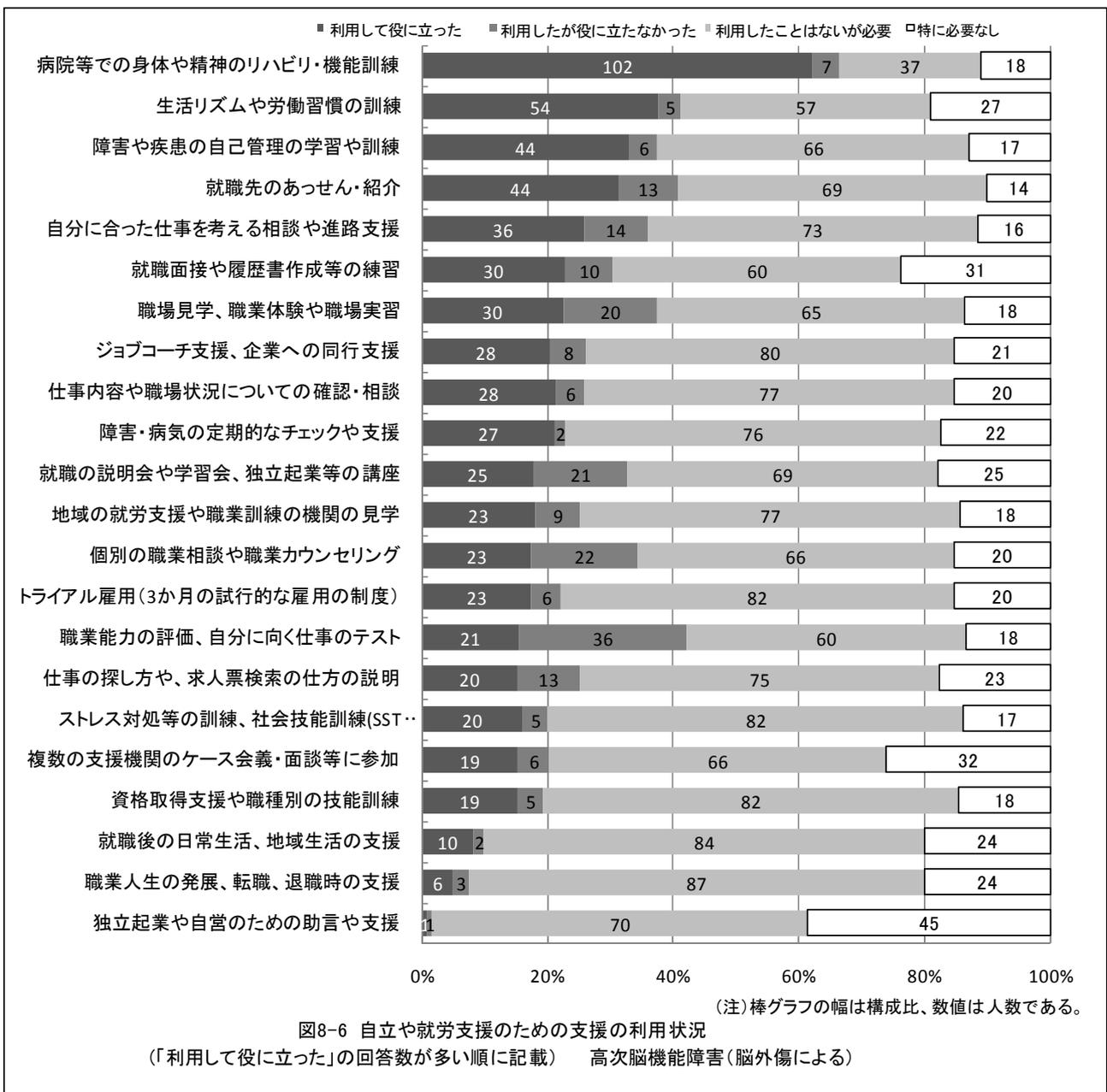
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が最も多かったものは、「病院等での身体や精神のリハビリ・機能訓練」102人(62.2%)です。続いて「生活リズムや労働習慣の訓練」54人(37.8%)、「障害や疾患の自己管理の学習や訓練」44人(33.1%)、「就職先のあっせん・紹介」44人(31.4%)などとなっています。その他の支援は2割前後のものが多くなっています。

なお、多くの項目で「利用したことはないが必要」との回答が5～6割、「特に必要なし」との回答が1～2割を占めています。

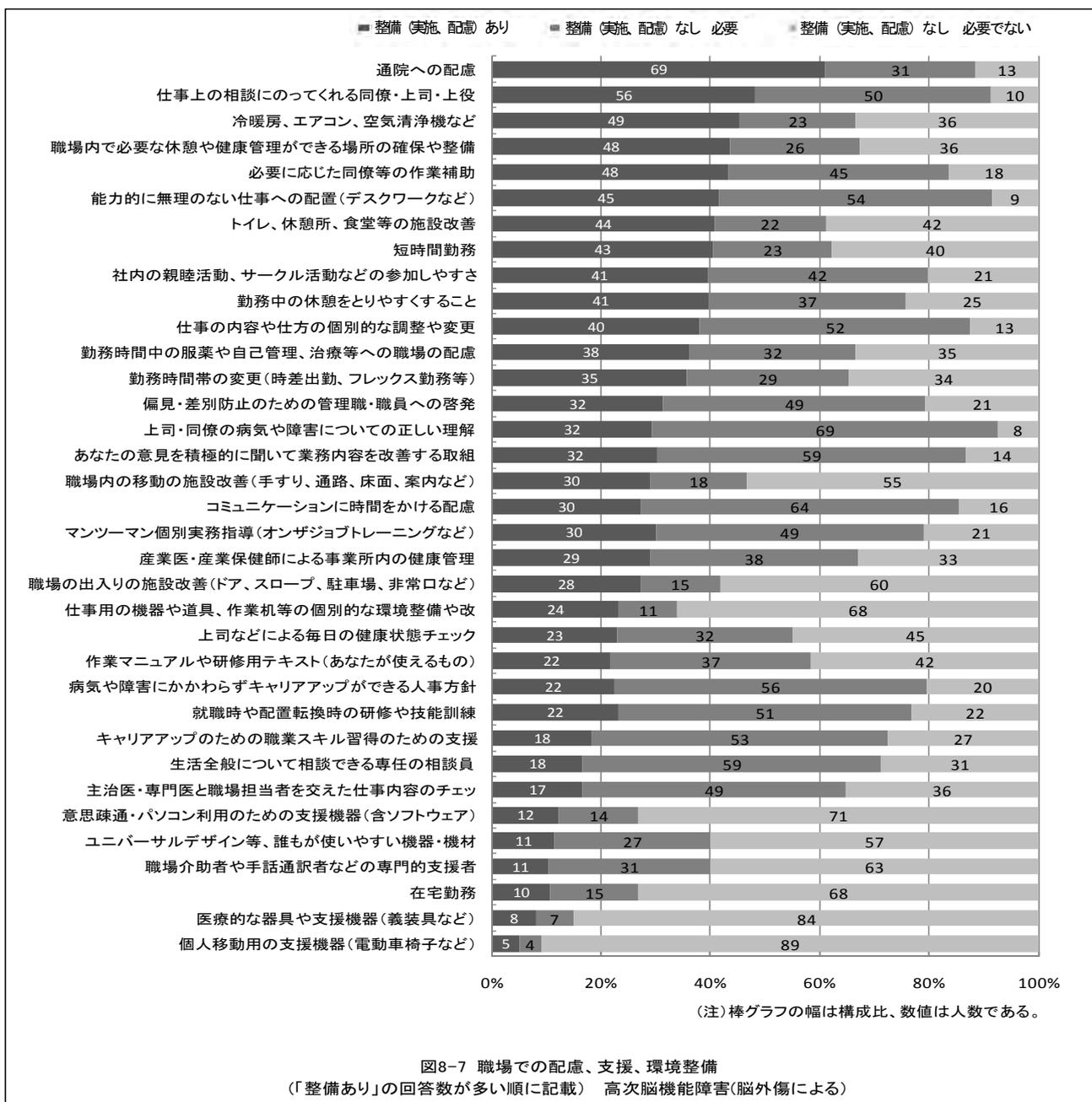


□ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「通院への配慮」69人（61.1%）、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」56人（48.3%）、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」49人（45.8%）、「職場内で必要な休憩や健康管理ができる場所の確保や整備」48人（43.6%）などとなっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」69人（63.3%）、「コミュニケーションに時間をかける配慮」64人（58.2%）、「あなたの意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組」59人（56.2%）などとなっています。



(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

脳外傷による高次脳機能障害のある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「トライアル雇用*」や「資格取得支援や職種別の技能訓練*」、就職後には「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」や「就職先のあっせん・紹介*」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「トライアル雇用」 （現状の取組率:18.0%） （一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(31.7%)」「職場見学、職業体験や職場実習(23.0%)」「ジョブコーチ支援、企業への同行支援(26.6%)」</p>	<p>希望の仕事に就くための能力を身につけること 企業に対して自分をうまくアピールすること 企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること 障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと 企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること 本人が能力を発揮できる仕事について語ること 希望の会社についての情報を集めること 企業に就職について連絡・申し込みすること 実際の職場の見学や職場実習・体験をすること 履歴書や応募書類を作成すること 就職面接を受けること</p>
<p>「ハローワークの専門援助窓口への就労相談」(現状の取組率:64.2%) （一体的な取組:「就職先のあっせん・紹介(40.8%)」「就職先のあっせん・紹介※(31.7%)」</p>	<p>障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと 希望の仕事に就くための能力を身につけること 企業に対して自分をうまくアピールすること 企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること 企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること 希望の会社についての情報を集めること 実際の職場の見学や職場実習・体験をすること 企業に就職について連絡・申し込みすること 就職面接を受けること 履歴書や応募書類を作成すること</p>
<p>「本人に合った仕事を考える相談や進路支援」(現状の取組率:36.7%) （一体的な取組:「個別の職業相談や職業カウンセリング(34.6%)」「職場見学、職業体験や職場実習(37.8%)」「障害や疾患の自己管理の学習や訓練※(33.3%)」「障害や疾患の自己管理の学習や訓練(37.8%)」「就労移行支援事業者への就労相談(33.3%)」</p>	<p>本人が能力を発揮できる仕事について語ること 就労したいという思いを周りの人に伝えること</p>
<p>「資格取得支援や職種別の技能訓練」(現状の取組率:15.9%) （一体的な取組:「本人に合った仕事を考える相談や進路支援(36.7%)」「職場見学、職業体験や職場実習(23.0%)」「地域の就労支援や職業訓練の機関の見学(25.6%)」「障害や疾患の自己管理の学習や訓練(33.3%)」</p>	<p>就労したいという思いを周りの人に伝えること</p>

□ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「通院への配慮」(現状の取組率:61.9%)</p>	
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:30.3%)</p>	
<p>「就職先のあっせん・紹介」(現状の取組率:31.7%) (一体的な取組:「個別の職業相談や職業カウンセリング(18.0%)」「本人に合った仕事を考える相談や進路支援(26.6%)」)</p>	
<p>「職業能力の評価/自分に向く仕事のテスト」(現状の取組率:16.1%)</p>	
<p>「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」(現状の取組率:23.5%)</p>	
<p>「能力的に無理のない仕事への配置」(現状の取組率:42.2%)</p>	

(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・介護福祉士として、重度身体障害を持つ方の日中生活支援（23歳）
- ・訪問介護員（男34歳）・総務の補助（物品の補充等）（男34歳）
- ・福祉業務の事務、電話番、書類の提出（外部の）（男57歳）
- ・少年鑑別所で少年の支援をすること（男57歳）
- ・経理（売掛債権の回収）（男29歳）
- ・機械加工ラインへの新機種導入・改造、海外移管支援等、技術系業務から一転し、機械加工できなくなり、雑用業務、転々と応援業務となる（男53歳）
- ・プラスチックの鉢の製造、バリ取り作業、数量ごとにたばねる（男30歳）
- ・魚類の袋詰め、野菜の箱詰め、電気部品の扱い、ペーカリー（女28歳）
- ・軌道作業（男39歳）
- ・歩く仕事だったが足を悪くしたのでパソコンをしていたが終わってから又歩く仕事になったが変えてもらい机に座ってしている（女44歳）
- ・障害者福祉センターから市内中心部への送迎バスに乗り降りする障害者の人達の介護（男37歳）
- ・雑務全般（ゴミすてやFAX回収、郵便出し等）（男42歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・老人介護職をしています 体力、健康面で問題なく行えています（男37歳）
- ・PCをつかった作業、プログラマー（男36歳）
- ・準社員 会社に届いた宅配品を各部署に届けたり、パソコンで簡単な事務処理（出張旅費の計算）他（女61歳）
- ・契約社員 データ入力、その他雑用（女38歳）
- ・貸会議場会場設営、社員宿泊施設の清掃（男44歳）
- ・食堂、リハビリ助手、看護助手、作業所（ダンボール、畑作業など）（女26歳）
- ・午前中3時間の仕事、温泉での雑用、浴室の清掃、石けんの補充、カガミ清掃（男38歳）
- ・品物の出し入れ3時間だけ（AM6:00～AM9:00）（男42歳）
- ・工場従業員（男33歳）
- ・空パレットの整理、小包の整理（男34歳）
- ・倉庫内作業、荷物の仕分け（男29歳）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・記憶、字を書く、読む、見る、計算、言葉を話す、自分の意思を正確に伝える、意欲の維持、集中力の維持などが十分できない。疲れやすさ、ふらつき、左手左足まひ、走れない、俊敏な動きができない、複雑なこと、同時に複数のことができない、段取りができない。これらのため、人とのトラブル、仕事のミス、切れる、人間関係がうまくできない、就職困難。
- ・後遺症が種々に及ぶため、対人関係他種々な困難がともない足ぶみ状態。前にふみ出せない。
- ・障害を受けてから、一般の人と同じ様に仕事することができない自分に苦しんでいる。
- ・医師に軽い仕事はできるでしょうと会社復帰するが、日常生活すらリズムにのれず、対人関係悪く、仕事にならなかった。
- ・道順がわからず一人での外出・運転ができない。今まで使っていた農機具の操作ができない。電話の応対、FAXができないため、経営者としての仕事ができなかった。

ロ 就職前の取組

- ・現在自分がどの程度の仕事ができるか未知数。自分自身が何ができて何ができないかまだきちんとつかめていない。
- ・初めは自分が障害者とは認められずにいたけれど、今は訓練をしているといろいろな課題がたくさんでてきているので認め、自己認識をしている。自分の苦手なところや得意なことが理解できないと職場の人に説明ができないので、永く働きたいのであれば自己認識をして相手に理解してもらえるように努力をすることだと思う。
- ・ハローワーク、障害者職業センターの支援があり、すすめられるまま仕事に就きジョブコーチの支援あり今もパートで働いている。
- ・相手が、障害理解できるよう、本とか、資料を使って、納得してもらい、トライアル雇用期間中が3ヵ月あり色々な面でフォローしてくれている段階。
- ・企業が障害と理解してくれず、複数の企業でトライアル雇用まで行ったが解雇された。

ハ 就職後の取組

- ・高次脳機能障害のため対人関係がむずかしく、又仕事にも混乱したりとその度にジョブコーチ支援をいただき大変助かった。

9 難病（全身性エリテマトーデス）

アンケート調査票の障害・疾患についての問で、難病、慢性疾患の疾患名記述欄に「SLE（全身性エリテマトーデス）」と記述した360人の方の回答を集計しています。

なお、(1)から(3)までの集計、分析には無回答は除いています。

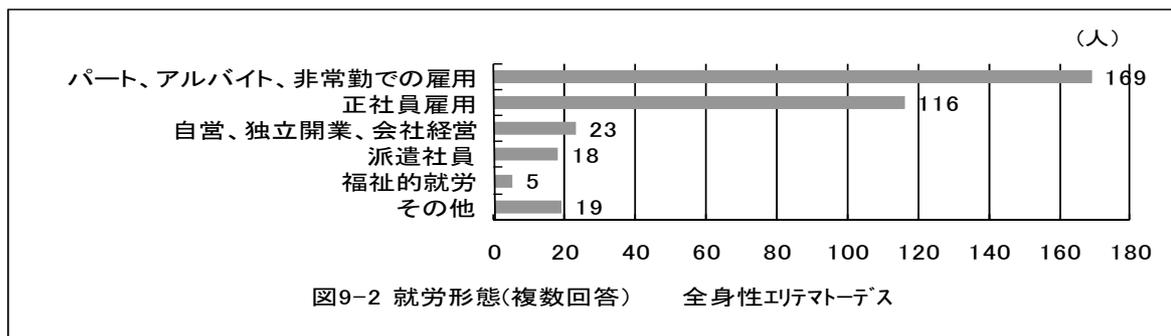
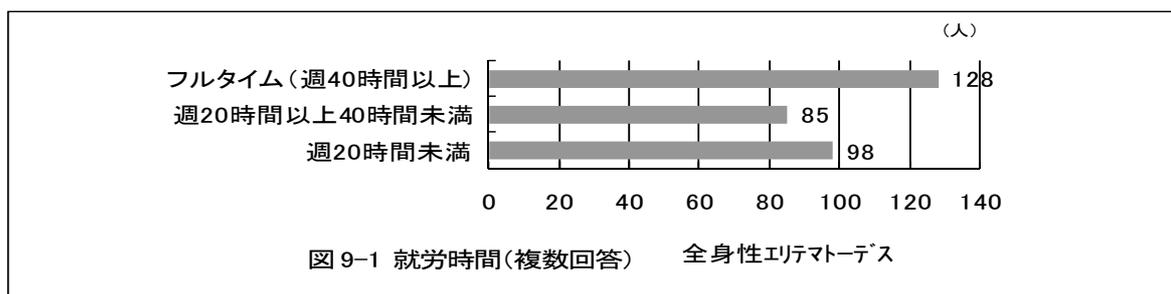
(1) 基礎データ

イ 男女別、平均年齢、居住地、障害者手帳所持の状況

- ①男女別では、男性24人（6.8%）、女性331人（93.2%）で女性が非常に多くなっています。
- ②平均年齢は43.7歳（標準偏差10.2歳）
- ③居住地は都市圏（具体的な都市名はP9に記載）146人（41.6%）、それ以外205人（58.4%）で都市圏以外が1.4倍です。
- ④障害者手帳は有が86人（身体障害者手帳：76人[1級20人,2級9人,3級21人,4級19人,5級1人,6級6人]、療育手帳等：3人[軽度2人]、精神障害者保健福祉手帳：8人[2級5人,3級3人]）であり、障害者手帳有の回答者は全回答者360人のうち23.9%となっています。

ロ 就労状況

- ①「現在、収入のある仕事に就いている」161人（48.6%）、「現在は仕事での収入はないが、過去に収入のある仕事に就いていたことがある」117人（35.3%）であり、合わせると84.0%が就労経験があると回答しています。
- ②就労経験者の就労時間（複数回答）は「フルタイム（週40時間以上）」128人（43.0%）、「週20時間以上40時間未満」85人（28.5%）、「週20時間未満」98人（32.9%）とフルタイムが多い状況です。
- ③同様に就労形態（複数回答）は多い順に、[パート、アルバイト、非常勤での雇用]169人（56.7%）、「正社員雇用」116人（38.9%）、「自営、独立開業、会社経営」23人（6.6%）、「派遣社員」18人（5.1%）、「福祉的就労」5人、「その他」19人となっています。



(2) 職業についての課題

職業についての課題について、就労経験者に対してたずねています。

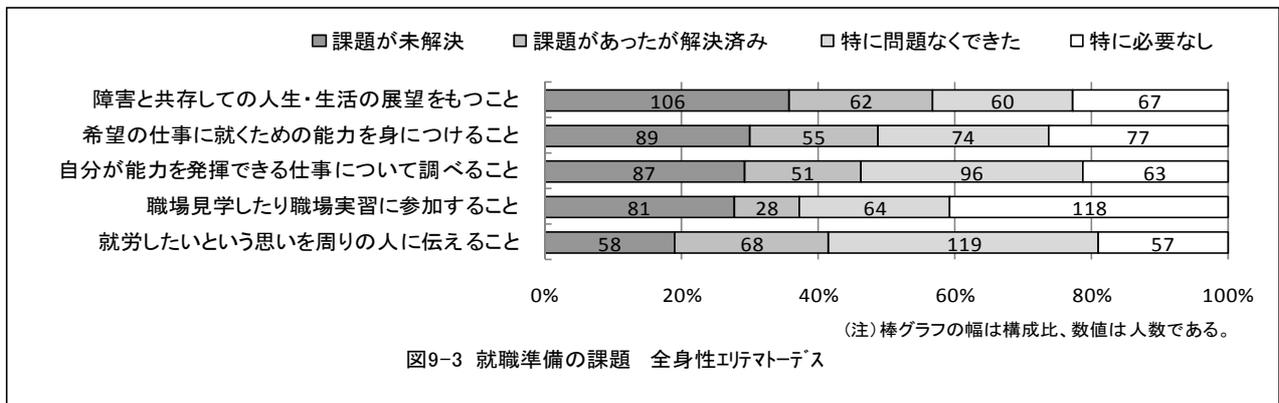
イ 就職前の課題

各課題について、「特に問題なくできた」、「課題があったが解決済み」、「課題が未解決」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

(イ) 就職準備の課題

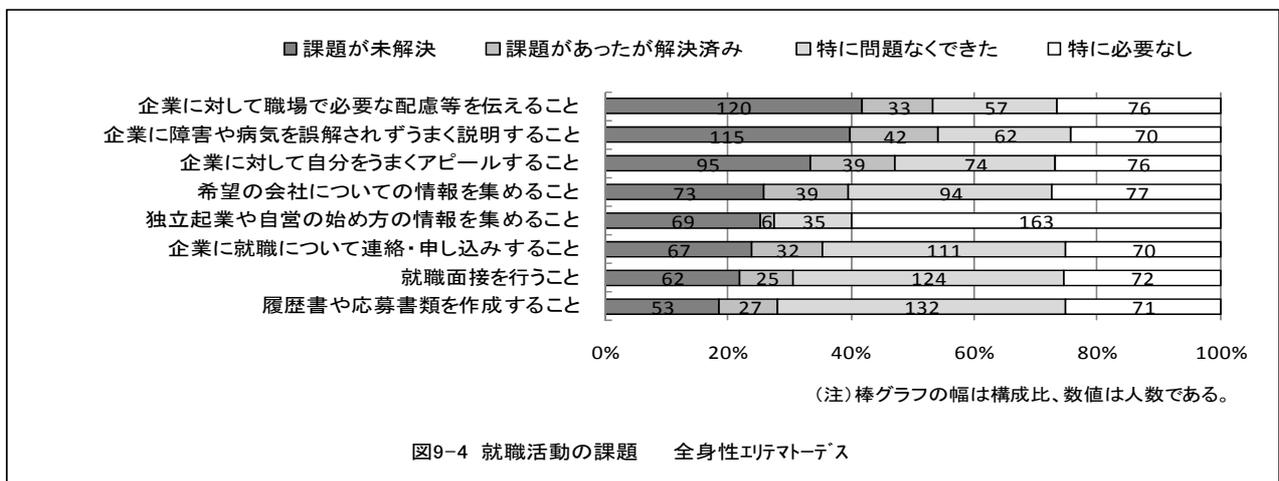
「課題が未解決」とする回答が、「障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと」106人(35.9%)が最も多く、「希望の仕事に就くための能力を身につけること」89人(30.2%)、「自分が能力を発揮できる仕事について調べること」87人(29.3%)及び「職場見学したり職場実習に参加すること」81人(27.8%)が3割程度となっています。

なお、「職場見学したり職場実習に参加すること」は118人(40.5%)が「特に必要なし」と、「就労したいという思いを周りの人に伝えること」は119(39.4%)が「特に問題なくできた」と回答しています。



(ロ) 就職活動の課題

「課題があったが解決済み」、「特に問題なくできた」、「特に必要なし」の回答を合わせると6~8割を占めていますが、「課題が未解決」の回答が多かったものは、「企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること」120人(42.0%)、「企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること」115人(39.8%)、「企業に対して自分をうまくアピールすること」95人(33.5%)となっています。



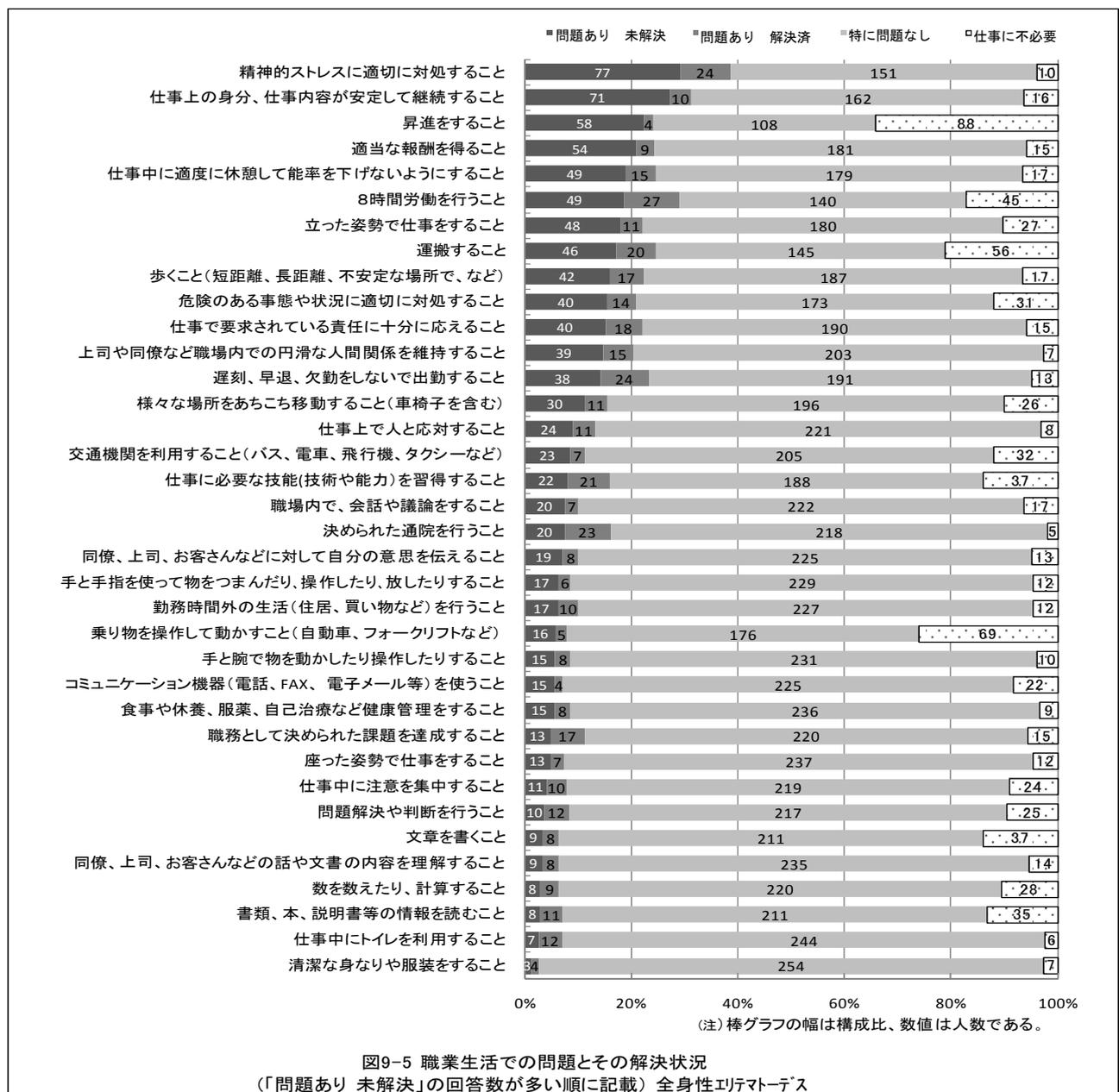
□ 職場での課題

各課題について、「問題あり 解決済み」、「問題あり 未解決」、「特に問題なし」、「仕事に不必要」の選択肢により集計しています。

各課題は36項目を質問項目として設定していますが、「問題あり 未解決」の回答数が多かったものを見ると、「精神的ストレスに適切に対処すること」77人(29.4%)、「仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること」71人(27.4%)、「昇進をすること」58人(22.5%)などとなっています。

また、「問題あり 解決済み」の回答が多かったのは、「8時間労働を行うこと」27人(10.3%)、「精神的ストレスに適切に対処すること」24人(9.2%)、「遅刻、早退、欠勤をしないで出勤すること」24人(9.0%)、「決められた通院を行うこと」23人(8.6%)となっています。

一方、これらの課題については、「特に問題なし」とする回答者も相当数程度ある項目もあり、この回答の割合が7割以上の項目が26項目あります。



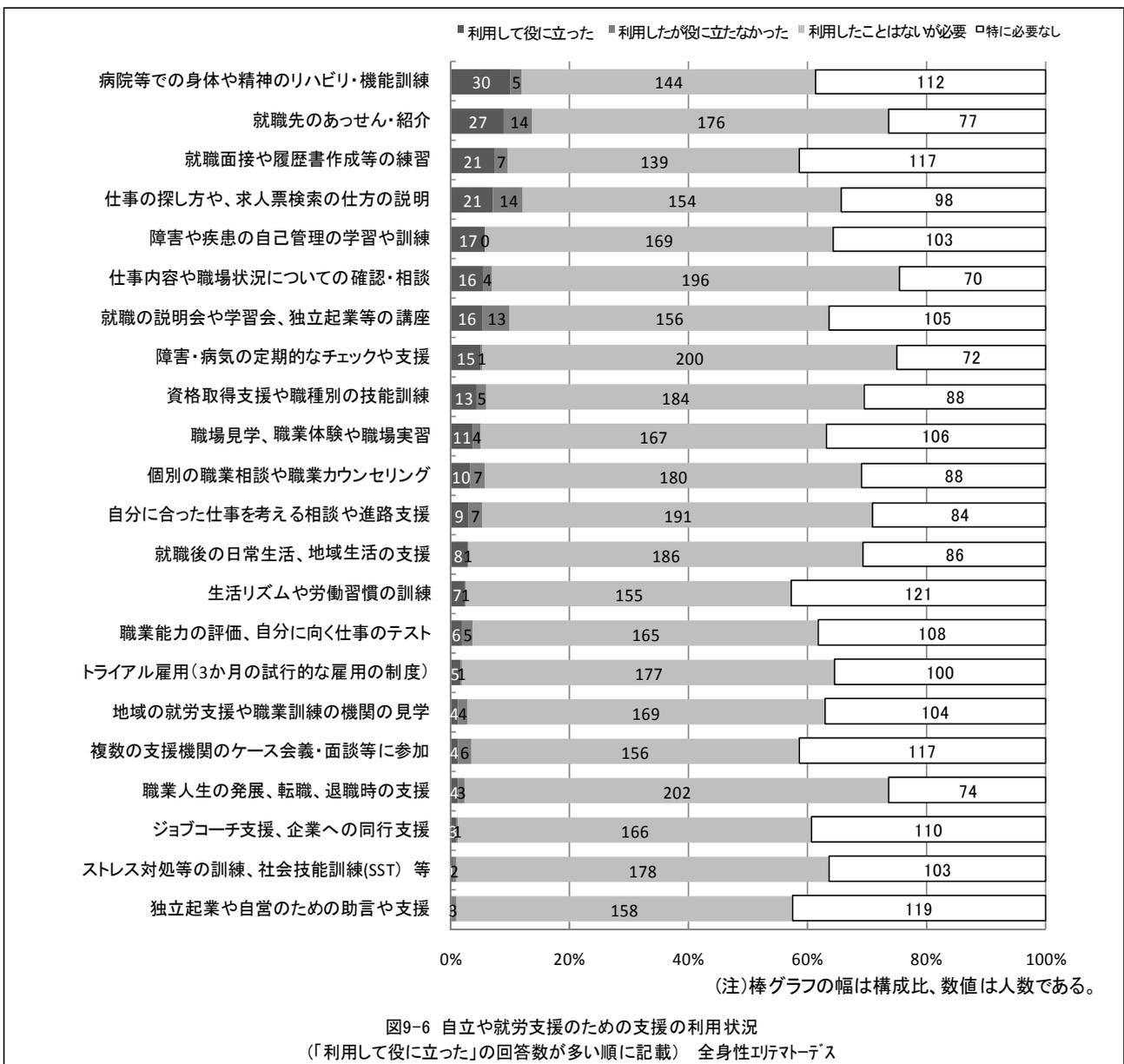
(3) 関係機関の支援の利用状況、職場での取組

イ 自立や就労のための関係機関の支援の利用状況

自立や就労のための関係機関の支援の利用状況について、「利用して役に立った」、「利用したが役に立たなかった」、「利用したことはないが必要」、「特に必要なし」の選択肢により集計しています。

その結果、「利用して役に立った」の回答が多かったものは、「病院等での身体や精神のリハビリ・機能訓練」30人(10.3%)、「就職先のあっせん・紹介」27人(9.2%)、「就職面接や履歴書作成等の練習」21人(7.4%)、「仕事の探し方や、求人票検索の仕方の説明」21人(7.3%)、などとなっています。全22項目中、5%以下の項目が14項目となっています。

なお、多くの項目で「利用したことはないが必要」との回答が5～7割、「特に必要なし」との回答が3～2割を占めています。

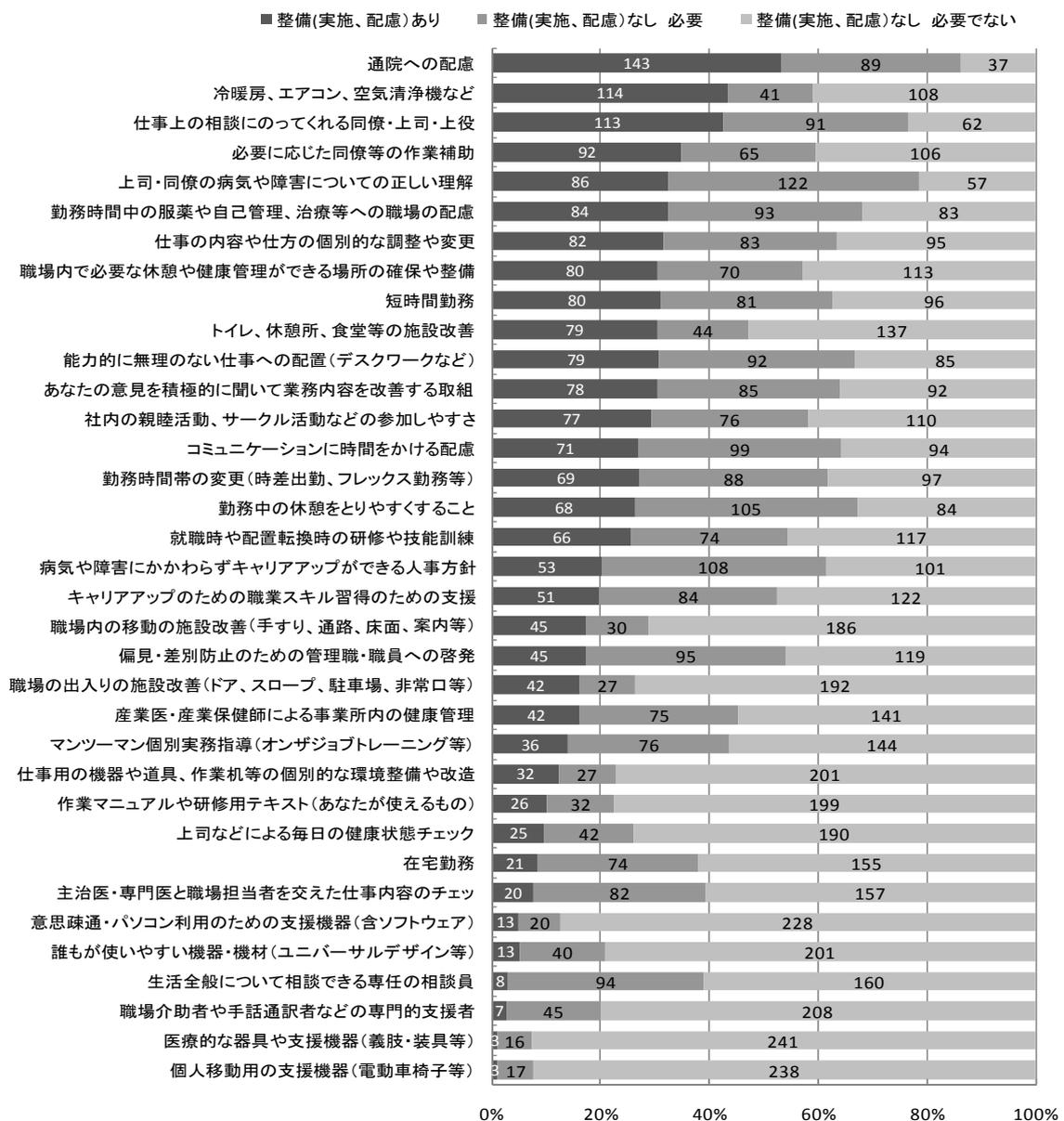


ロ 職場での取組

職場での個々の取組について、「整備（実施、配慮）あり」、「整備（実施、配慮）なし 必要」、「整備（実施、配慮）なし必要でない」の選択肢により集計しています。

取組みは35項目を質問項目として設定していますが、「整備（実施、配慮）あり」の回答数が多かったものをみると、「通院への配慮」143人（53.2%）、「冷暖房、エアコン、空気清浄機など」114人（43.3%）、「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役」113人（42.5%）などとなっています。

一方、「整備（実施、配慮）なし 必要」の回答が多かったものは、「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」122人（46.0%）、「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」108人（41.2%）、「勤務中の休憩をとりやすくすること」105人（40.9%）などとなっています。



(注)棒グラフの幅は構成比、数値は人数である。

図9-7 職場での配慮、支援、環境整備(「整備あり」の回答数が多い順に記載) 全身性EITマトリクス

(4) 課題と取組の関係の分析（課題解決の効果が大きいと考えられる取組）

この欄の記載の考え方、数値はP9をごらんください。

全身性エリテマトーデスのある人では、職業的課題に改善に対して効果的な取組として代表的なものには、就職前には「主治医、専門医等*への就労相談」や「家族や親戚、知人、友人*への就労相談」、就労状況には「就職先のあっせん・紹介*」や「仕事の探し方や、求人票検索の仕方の説明」、就職後には「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」や「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」、等があります。

(注) 下の表の見方

左の欄の「効果的な取組」がある場合に、右の欄に記載した課題が改善される状況を棒グラフに示したものです。

グラフの目盛は課題がある人のうち課題が改善されている人の割合であり、灰色部分が現状の取組状況による改善状況を、白色部分が取組がある場合の改善状況を示しています。

イ 「就職前の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「主治医、専門医等※への就労相談」 （現状の取組率:15.8%）</p>	<p>このグラフは、12種類の職業的課題について、現状（灰色）と「主治医、専門医等※への就労相談」がある場合（白色）の改善率を比較しています。横軸は0から100%の割合を示しています。課題は以下の通りです：</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業に対して職場に必要な配慮等を伝えること 企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること 企業に対して自分をうまくアピールすること 障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと 実際の職場の見学や職場実習・体験をすること 希望の仕事に就くための能力を身につけること 本人が能力を発揮できる仕事について話せること 希望の会社についての情報を集めること 企業に就職について連絡・申し込みをすること 就職面接を受けること 履歴書や応募書類を作成すること 就労したいという思いを周りの人に伝えること
<p>「家族や親戚、知人、友人※への就労相談」 （現状の取組率:42.5%）</p>	<p>このグラフは、1種類の職業的課題について、現状（灰色）と「家族や親戚、知人、友人※への就労相談」がある場合（白色）の改善率を比較しています。横軸は0から100%の割合を示しています。課題は以下の通りです：</p> <ul style="list-style-type: none"> 独立起業や自営の始め方の情報を集めること

□ 「就職後の課題」に効果的な取組

効果的な取組	この取組の有無で異なる職業的課題
<p>「通院への配慮」(現状の取組率:53.1%) (一体的な取組:「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解(32.5%)」「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役(42.5%)」)</p>	<p>精神的ストレスに適切に対処すること 仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること フルタイム(約8時間)の労働を行うこと 適当な報酬を得ること 通勤すること 仕事中に適度に休憩して効率を下げないようにすること 立った姿勢で仕事をする 危険のある事態や状況に適切に対処すること 歩くこと(短距離、長距離、不安定な場所等、など) 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること 様々な場所をあらゆる移動すること(車椅子を含む)</p>
<p>「病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針」(現状の取組率:20.5%)</p>	<p>異議をすること 精神的ストレスに適切に対処すること 仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること 必要な配慮や支援等についての職場への説明 通勤すること フルタイム(約8時間)の労働を行うこと 適当な報酬を得ること 立った姿勢で仕事をする 仕事中に適度に休憩して効率を下げないようにすること 病気や障害についての職場への説明 歩くこと(短距離、長距離、不安定な場所等、など) 仕事で要求されている責任に十分にのみえること 遅刻、早退、欠勤をしないで出勤すること 交通機関を利用すること(バス、電車、飛行機、タクシーなど)</p>
<p>「上司・同僚の病気や障害についての正しい理解」(現状の取組率:32.5%) (一体的な取組:「仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役(42.5%)」「能力的に無理のない仕事への配置(31.3%)」「通院への配慮(53.1%)」)</p>	<p>危険のある事態や状況に適切に対処すること 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること 様々な場所をあらゆる移動すること(車椅子を含む) 仕事上で人と応対すること 仕事中に適度に休憩して効率を下げないようにすること</p>
<p>「在宅勤務」(現状の取組率:9.1%)</p>	<p>精神的ストレスに適切に対処すること 仕事中に適度に休憩して効率を下げないようにすること 上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること</p>
<p>「マンツーマン個別実務指導(オンザジョブトレーニングなど)」(現状の取組率:14.3%)</p>	<p>仕事に必要な技能を習得すること</p>
<p>「偏見・差別防止のための管理職・職員への啓発」(現状の取組率:17.6%)</p>	<p>異議をすること 立った姿勢で仕事をする 決められた通勤を行うこと</p>

(5) 活躍している仕事の例

この欄の記載の考え方はP11をごらんください。

【正社員雇用】

- ・ケアマネージャー（女 48 歳）・現在ヘルパーとして月 2 回の夜勤有（会社より夜勤 2 回ぐらいの間合せにて主治医と相談の上了承し、正社員。）（男 43 歳）・介護職→施設相談員（女 29 歳）・ヘルパー（男 32 歳）・福祉の仕事なので、介護（高齢者）です。介護全体・送迎・入浴・排泄など。（女 23 歳）
- ・介護支援専門員、NS、管理者（女 47 歳）・社会福祉施設栄養士（調理全般、事務（帳簿）全般）（女 48 歳）・生活支援員（日常生活の支援や相談受付。行政手続代行。）（男 32 歳）
- ・保育士（女 37 歳、女 39 歳）・薬剤師（女 32 歳、女 26 歳、女）
- ・歯科医院勤務（女 29 歳）・理学療法士（女 42 歳）・病院勤務、臨床検査技師（主に心電図・脳波検査）（女 54 歳）・病院、医療関係（女 27 歳、女 50 歳）・看護師（女 37 歳、女 47 歳、女 62 歳、女 33 歳）
- ・CD等、音楽ソフトの企画・立案・制作・宣伝作業（男 41 歳）
- ・大学教員、病院のソーシャルワーカー（MSW）（女 30 歳）
- ・養護教諭（保健室の先生）（女 38 歳）・教育公務員（男 35 歳）・小学校教員（女 33 歳、女 33 歳）
- ・総務事務（給与計算、庶務的工作（掃除、美化）、来客対応、人事採用他）（女 31 歳）
- ・一般事務、経理事務、パソコン等事務的職業多数）
- ・ダンプ運転手（男 35 歳）

【パート、アルバイト、非常勤での雇用】

- ・保育士、事務（女 37 歳）、保育園補助（女 53 歳）・看護師（女 40 歳、女 49 歳、女 33 歳、女 42 歳）・看護助手（男 28 歳）・臨床検査技師（女 41 歳）・薬剤師業務（調剤・投薬）（女 歳）
- ・介護ヘルパー（女 41 歳、女 46 歳）・介護職（女 57 歳）
- ・障害児のみの学童保育にて子供達と一緒に過ごす。（男 30 歳）
- ・紙卸業の会社で、紙の梱包の仕事をしています。25kg以上の荷も有、結構重労働です。（女 43 歳）
- ・実験助手（動物実験、生化学実験、検体整理etc・・・）（女 29 歳）
- ・ピアノ講師、ベビーシッター（女 42 歳）・歯科衛生士、パート（PM）（女 45 歳）
- ・学習塾講師（小、中学生）（女 43 歳）・中学校でADHDの子供の支援（女 25 歳）
- ・病院の介護員をしています。介護の仕事。（女 31 歳）・ピアカウンセラー（女 34 歳）
- ・図書館のカウンター業務（女 36 歳）
- ・一般事務、経理事務、パソコン等事務的職業（多数）
- ・接客、サービス業、店員(多数)・清掃（複数）
- ・調理補助（女 55 歳）・知的障害授産施設でのパンづくり、配達等。（女 52 歳）
- ・市内の地域活動ホームという福祉施設の支援員として勤務中。（女 49 歳）

(6) 本人等の声

イ 職業について困っていること（課題）

- ・疲労しやすい、体調不安定、関節痛、日光過敏のため屋外は長時間出られない等のため就職困難。
- ・外見から障害が理解されない。
- ・企業に通院のための休みの配慮、病気の理解を望む。
- ・障害者手帳がないので、いろいろな所でみとめてもらえなかった。

ロ 就職前の取組

- ・主治医、家族には相談するべきだと思う。
- ・学校の就職指導の先生に病状を話し、可能な就職先を選んでもらえた。
- ・会社に説明するにしても、自分にできることとできないことが、自分でもはっきりとはわからない（たとえば、日光に当たれないといっても、一切ダメなわけではないし、通院も月1回～2ヶ月に1回程度とはいえ、悪くなればたくさん休むことになるし、疲れやすいといっても〇時間以上～できないと具体的に示せるものではない）ため、うまく伝えるのが難しい。自分では能力の限りチャレンジしたい気持ちがあり、“できないかもしれない”ことを列挙してやる気がないと思われたくないし、結局さいしょはあいまいになってしまった。
- ・就労についての知識を気軽に教えてくれ、サポートしてくれたのでジョブカフェを勧めたい。
- ・ハローワークが無料で行なっている就職面接や履歴書作成の練習は、かなり役に立つと思う。
- ・現在の病状と経済的な必要を具体的に書き出し、通院や体力的な面から考えると、やはり近所でのパート、又はアルバイト。求人チラシのみの職探しは、なかなか大変だった。

ハ 就職後の取組

- ・病気に対する正しい理解だけはほしい。元気でも難病なので、自己管理に気を配り、精神的にはりつめて仕事をしているので、精神的な支えがほしい。
- ・体調不良等で年休をとることもあるがそのことで能力を正しく評価してもらえないのが残念に思う。
- ・恵まれた職場で仕事をしているため（自分のスキルを生かせる仕事）、日々感謝の毎日。周りの理解を得るため、病気の事は隠さない方がよいと思う。
- ・定期的に通院しなくてはいけない為、その都度休みを頂けなければならない。周りのひとからの理解をえるのが難しい。
- ・毎月、通院のために、1～2度お休みをもらっている。
- ・現在パート勤務。1日6時間で、半日勤務でも大丈夫。月に1回通院も行かせてもらっている。また、土・日休み以外に週1回休みをいただいている。
- ・光線過敏のため、日射しが強い日の送迎は代わってもらっていた。

IV 參考資料

IV 参考資料

1 職業についての課題 全 69 個

1) 自己効力感 (仕事をしていく自信をもつこと) 7個	1	障害や病気があっても、やりたいことは実行できる
	2	仕事をとおして、社会に役立つことができる
	3	仕事内容によっては、企業ニーズに応えられる
	4	自分の障害や病気の管理が適切にできる
	5	世の中のいろんな支援制度やサービスを有効に活用できる
	6	自分の希望について周囲を説得して意思を通すことができる
	7	職場や地域の整備を前提として、職業人として十分やっていくことができる
2) 職業準備 (就職や就職活動を始める前の準備をすること) 5個	8	就労したいという思いを周りの人に伝えること
	9	自分が能力を発揮できる仕事について調べること
	10	実際の職場を見学したり職場実習に参加すること
	11	希望の仕事に就くための能力を身につけること
	12	障害と共存しての人生・生活の展望をもつこと
3) 就職活動 8個	13	希望の会社についての情報を集めること
	14	企業に就職について連絡・申し込みすること
	15	履歴書や応募書類を作成すること
	16	就職面接を受けること
	17	企業に障害や病気を誤解されずうまく説明すること
	18	企業に対して職場で必要な配慮等を伝えること
	19	企業に対して自分をうまくアピールすること
	20	独立起業や自営の始め方の情報を集めること
4) 就業状況 6個	21	現在収入のある就労
	22	雇用就労
	23	一般就労
	24	フルタイム労働
	25	週20時間以上の労働
	26	何らかの就労
5) 職場適応 38個	27	職場へ病気や障害について説明すること
	28	職場へ必要な環境整備、配慮、支援等について説明すること
	29	仕事に必要な技能を習得すること
	30	仕事集中に注意を集中すること
	31	書類、本、説明書等の情報を読むこと
	32	文章を書くこと
	33	数を数えたり、計算すること
	34	問題解決や判断を行うこと
	35	職務として決められた課題を達成すること
	36	遅刻、早退、欠勤をしないで出勤すること
	37	8時間労働を行うこと
	38	仕事で要求されています責任に十分に答えること
	39	仕事に過度に休憩して能率を下げないようにすること
	40	精神的ストレスに適切に対処すること
	41	危険のある事態や状況に適切に対処すること
	42	仕事上で人と応対すること
	43	上司や同僚など職場内での円滑な人間関係を維持すること
	44	同僚、上司、お客さんなどの話や文書の内容を理解すること
	45	同僚、上司、お客さんなどに対して自分の意思を伝えること
	46	職場内で、会話や議論をすること
	47	コミュニケーション機器 (電話、FAX、電子メール等) を使うこと
	48	仕事中にトイレを利用すること
	49	清潔な身なりや服装をすること
	50	食事や休養、服薬、自己治療など健康管理をすること
	51	決められた通院を行うこと
	52	勤務時間外の生活 (住居、買い物など) を行うこと
	53	座った姿勢で仕事をすること
	54	立った姿勢で仕事をすること
	55	運搬すること
	56	手と手指を使って物をつまんだり、操作したり、放したりすること
	57	手と腕で物を動かしたり操作したりすること
	58	歩くこと (短距離、長距離、不安定な場所で、など)
	59	様々な場所をあちこち移動すること (車椅子を含む)
	60	交通機関を利用すること (バス、電車、飛行機、タクシーなど)
	61	乗り物を操作して動かすこと (自動車、フォークリフトなど)
	62	仕事上の身分、仕事内容が安定して継続すること
	63	昇進をすること
	64	適当な報酬を得ること
6) 満足できる職業生活であるか 2個	65	希望と合い満足できる職業生活であること
	66	能力やスキルに見合っただけ適切な処遇 (賃金、職位等) であること
7) 満足できる生活であるか 3個	67	地域で安心して生活できること
	68	生活に十分な収入であること
	69	全般的に満足できる生活であること

2 職場、地域、本人の取組 全 134 個

3) 支援者・機関と 4) 就労支援内容では、同一の取組であって「*」を付していないものと付しているものが 41 対あり、「*」印のついていない取組は「相談(利用)した」と回答したもの、「*」印のついている取組はこのうち「相談(利用)して役に立った」と回答したものです。

1) 障害認定 6個	1	身体障害者手帳保有	
	2	療育手帳等保有	
	3	精神障害者保健福祉手帳保有	
	4	その他の障害判定等あり	
	5	障害認定有*	
2) 雇用支援制度 2個	6	雇用率制度での雇用	
	7	特別子会社での就業	
3) 支援者・機関 39個	8	就労移行支援事業者（に相談した）	
	9	就労移行支援事業者*（に相談して役に立った）	
	10	就労継続支援事業者	
	11	就労継続支援事業者*	
	12	指定相談支援事業者	
	13	指定相談支援事業者*	
	14	授産施設等	
	15	授産施設等*	
	16	主治医、専門医等	
	17	主治医、専門医等*	
	18	保健師等	
	19	保健師等*	
	20	産業医・産業保健師	
	21	産業医・産業保健師*	
	22	ソーシャルワーカー等	
	23	ソーシャルワーカー等*	
	24	障害別の支援（相談）センター	
	25	障害別の支援（相談）センター*	
	26	特別支援学校の先生等	
	27	特別支援学校の先生等*	
	28	ハローワークの専門援助窓口	
	29	ハローワークの専門援助窓口*	
	30	ハローワークの一般求職窓口	
	31	ハローワークの一般求職窓口*	
	32	障害者職業センター	
	33	障害者職業センター*	
	34	障害者就業・生活支援センター	
	35	障害者就業・生活支援センター*	
	36	職業訓練校等の職業訓練施設	
	37	職業訓練校等の職業訓練施設*	
	38	市町村等の自治体相談窓口	
	39	市町村等の自治体相談窓口*	
	40	同じ障害・疾患のある人や団体	
	41	同じ障害・疾患のある人や団体*	
	42	家族や知人、友人	
	43	家族や知人、友人*	
	44	その他の相談先	
	45	その他の相談先*	
	4) 就労支援内容 44個	46	就職や独立起業等の講座や学習会（を利用した）
		47	就職や独立起業等の講座や学習会*（を利用して役に立った）
		48	仕事の探し方や、求人票検索の仕方の説明
		49	仕事の探し方や、求人票検索の仕方の説明*
		50	就職面接や履歴書作成等の練習
		51	就職面接や履歴書作成等の練習*
		52	職場見学、職業体験や職場実習
53		職場見学、職業体験や職場実習*	
54		地域の就労支援や職業訓練の機関の見学	
55		地域の就労支援や職業訓練の機関の見学*	
56		職業能力の評価	
57		職業能力の評価*	
58		個別の職業相談や職業カウンセリング	
59		個別の職業相談や職業カウンセリング*	
60		自分に合った仕事のためのキャリア・進路支援	
61		自分に合った仕事のためのキャリア・進路支援*	
62		複数の支援機関のケース会議・面談等に参加	
63	複数の支援機関のケース会議・面談等に参加*		
64	生活リズムや一般的労働習慣の訓練		
65	生活リズムや一般的労働習慣の訓練*		
66	資格取得支援や職種別の技能訓練		
67	資格取得支援や職種別の技能訓練*		

(表の続き)

(続き) 4) 就労支援内容 44個	68	病院等での身体や精神のリハビリテーション
	69	病院等での身体や精神のリハビリテーション*
	70	ストレス対処等の訓練、社会技能訓練 (SST) 等
	71	ストレス対処等の訓練、社会技能訓練 (SST) 等*
	72	障害や疾患の自己管理の学習や訓練
	73	障害や疾患の自己管理の学習や訓練*
	74	就職先のあっせん・紹介
	75	就職先のあっせん・紹介*
	76	ジョブコーチ支援、企業への同行支援
	77	ジョブコーチ支援、企業への同行支援*
	78	トライアル雇用
	79	トライアル雇用*
	80	独立起業や自営のための助言や支援
	81	独立起業や自営のための助言や支援*
	82	仕事内容や職場状況についての確認・相談
	83	仕事内容や職場状況についての確認・相談*
	84	就職後の日常生活、地域生活の支援
	85	就職後の日常生活、地域生活の支援*
	86	障害や病気の定期的なチェックや支援
	87	障害や病気の定期的なチェックや支援*
88	キャリアアップや転職、退職時の支援	
89	キャリアアップや転職、退職時の支援*	
5) 職場内支援 35個	90	医療的な器具や支援機器 (義肢器具など)
	91	個人移動用の支援機器 (電動車椅子など)
	92	意思疎通・パソコン利用のための支援機器 (含ソフトウェア)
	93	作業マニュアルや研修用テキスト (本人が使えるもの)
	94	ユニバーサルデザイン等、誰もが使いやすい機器・機材
	95	仕事用の機器や道具、作業机等の個別的な環境整備や改造
	96	職場の出入りの施設改善 (ドア、スロープ、駐車場、非常口など)
	97	職場内の移動の施設改善 (手すり、通路、床面、案内など)
	98	冷暖房、エアコン、空気清浄機など
	99	トイレ、休憩所、食堂等の施設改善
	100	職場内で必要な休憩や健康管理ができる場所の確保や整備
	101	偏見・差別防止のための管理職・職員への啓発
	102	病気や障害にかかわらずキャリアアップができる人事方針
	103	上司・同僚の病気や障害についての正しい理解
	104	コミュニケーションに時間をかける配慮
	105	社内の異動活動、サークル活動などの参加しやすさ
	106	就職時や配置転換時の研修や技能訓練
	107	キャリアアップのための職業スキル習得のための支援
	108	マンツーマン個別業務指導 (オンザジョブトレーニングなど)
	109	必要に応じた同僚等の作業補助
	110	仕事上の相談にのってくれる同僚・上司・上役
	111	職場介助者や手話通訳者などの専門的支援者
	112	生活全般について相談できる専任の相談員
	113	産業医・産業保健師による事業所内の健康管理
	114	上司などによる毎日の健康状態チェック
	115	主治医・専門医と職場担当者を交えた仕事内容のチェック
	116	勤務時間中の服薬や自己管理、治療等への職場の配慮
	117	通院への配慮
	118	仕事の内容や仕方の個別的な調整や変更
	119	本人の意見を積極的に聞いて業務内容を改善する取組
	120	能力的に無理のない仕事への配慮 (ゲスタワークなど)
	121	在宅勤務
	122	短時間勤務
	123	勤務中の休憩をとりやすくすること
	124	勤務時間帯の変更 (時差出勤、フレックス勤務等)
6) 就労希望理由 6個	125	「生きがいを得る」就労動機
	126	「社会の一員になる」就労動機
	127	「仲間や友人を得る」就労動機
	128	「経済的に自立する」就労動機
	129	「当たり前の生活をする」就労動機
	130	「家族や他人に認められる」就労動機
7) 対応能力 4個	131	「チャンスがあれば、新しいことに積極的に挑戦する」性向
	132	「決断力があって、判断は正しいことが多い」性向
	133	「将来いいことが起こるはずだという期待感がある」性向
	134	「悪い出来事も長い目で見ればプラスになると信じています」性向

3 課題と取組の分析についての計算例

職業についての課題は 69 個、取組は 134 個設定しており、各障害・疾患についてすべての組合せ（69 個の課題×134 個の取組=9,246 通り）について検討することになります。計算例を次の障害・疾患、職業についての課題、取組の例で示します。

- ・障害・疾患：統合失調症
- ・職業についての課題：「病気や障害についての説明」
- ・取組：「在宅勤務」

(1) 調査結果から作成される集計表

表 1 取組「在宅勤務」の有無と課題「病気や障害についての説明」の解決・未解決のクロス集計

(人)

		職業的課題				
		「病気や障害についての説明」				
		解決	未解決	不必要・無回答	計	
取組	「在宅勤務」	取組あり	7	0	0	7
		取組なし	32	28	1	61
		不必要・無回答	12	5	42	59
		計	51	33	43	127

表 1 の網かけ部分について、職業についての課題の状況と取組の関係性の統計的な検定（フィッシャーの正確確率）を行ったところ次の 2 点がいえます。

- ①網かけ部分の 4 つの場合に差があるといえる。
- ②「在宅勤務の取組あり」場合の方が「在宅勤務の取組なし」の場合よりも「解決」が多いといえる。

(2) 取組と課題の「現状」、「取組なしの場合」、「取組ありの場合」の課題の状況

1) 現状

- ①職業についての課題「病気や障害についての説明」の「解決」の割合

表 1 より

$$\frac{\text{「課題解決」}}{\text{「課題解決」} + \text{「課題未解決」}} = \frac{51}{51 + 33} = 60.7\%$$

②「在宅勤務」の取組ありの割合

表1より

$$\frac{\text{「在宅勤務」取組あり}}{\text{「在宅勤務」取組あり} + \text{「在宅勤務」取組なし}} = 7 / (7+61) = 10.3\%$$

2)取組なしの場合

現状で「解決」の人の割合 (=60.7%) と比較できるように、取組について「不必要・無回答」部分のデータを含めて計算します。

①職業についての課題「病気や障害についての説明」の「解決」の割合

取組の有無によって課題解決状況が変化する領域 (=表1の網かけの部分) の

総計 $67=7+0+32+28$

この部分全体の「解決」の割合を「取組なし」の場合の比率 (=32:28) にする。

$$\text{解決} \quad 35.7 = 67 \times 32 / (32+28)$$

$$\text{未解決} \quad 31.3 = 67 \times 28 / (32+28)$$

これに、取組についての回答が「不必要・無回答」を加える(注参照)。

(人)			
	解決	未解決	計
取組なし	35.7	31.3	67
不必要・無回答	12	5	17
計	47.7	36.3	84

したがって、取組がない場合の「解決」の割合は

$$56.8\% = 47.7/84$$

3)取組ありの場合

2)と同様に、

①職業についての課題「病気や障害についての説明」の「解決」の割合

取組の有無によって課題解決状況が変化する領域 (=表1の網かけの部分) の総計

$$67=7+0+32+28$$

この部分全体の「解決」の割合を「取組あり」の場合の比率 (=7:0) *にします。

$$\text{解決} \quad 67 = 67 \times 7 / (7+0)$$

$$\text{未解決} \quad 0 = 67 \times 0 / (7+0)$$

これに、取組についての回答が「不必要・無回答」を加える(注参照)。

(人)

	解決	未解決	計
取組あり	67	0	67
不必要・無回答	12	5	17
計	79	5	84

したがって、取組ありの場合、当該職業についての課題の「解決」の割合は

$$94.0\% = 79/84$$

*統計的推測としては8:1とする方が正しい（確率分布がベータ関数で $B(8, 1)$ となるため）

4)取組の有無による差—改善幅—

$$37.2\% = 94.0\% - 56.8\%$$

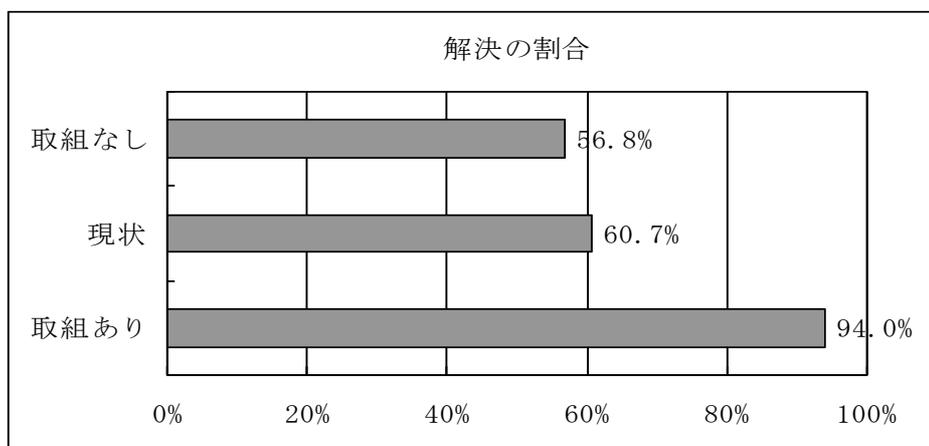
(3)まとめ

職業についての課題：「病気や障害についての説明」の解決の割合は、取組「在宅勤務」によって変化します。

現状は取組率が10.3%ですが、取組ありの場合すなわち100%になった場合と、取組なしの場合すなわち0%になった場合では、表2のとおりとなります。

表2 取組率と解決の状況

	取組率	解決
取組あり	100.0%	94.0%
現状	10.3%	60.7%
取組なし	0.0%	56.8%



(注) 取組の「ある場合」、「ない場合」の課題解決の割合を求める場合に取組の「無回答」と「不要」を加える理由

「現状」の課題解決の割合は取組状況とは関係ないため、取組の「無回答」と「不要」を含んだ計算です。一方、取組の有無別の問題解決の割合は、課題状況と取組状況のクロス表となるため取組の「無回答」と「不要」が除かれ、「現状」の割合を計算したものと母数が異なります。取組が「現状」、「ある場合」、「ない場合」の課題解決の割合を比較できるようにするため、取組の「無回答」と「不要」部分を中立的な数値（取組の有無による問題状況への影響がない数値）として加え調整しています。

ホームページについて

本冊子のほか、障害者職業総合センターの研究成果物については、一部を除いて、下記のホームページからPDFファイル等によりダウンロードできます。

【障害者職業総合センター研究部門ホームページ】

<http://www.nivr.jeed.go.jp/research/research.html>

著作権等について

視覚障害その他の理由で活字のままこの本を利用できない方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等を作成することを認めます。

その際は下記までご連絡下さい。

なお、視覚障害者の方等で本冊子のテキストファイル（文章のみ）を希望されるときも、ご連絡ください。

【連絡先】

障害者職業総合センター研究企画部企画調整室

電話 043-297-9067

FAX 043-297-9057

調査研究報告書 No. 100 の別冊資料 1

「就労支援に携わる方々のご参考のために－「障害・疾患のある人の自立と就業ニーズに応える職場と地域の取組状況に関する調査」解説資料－」

編集・発行	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター 〒261-0014 千葉市美浜区若葉 3-1-3 電話 043-297-9067 FAX 043-297-9057
発行日	2011年3月
印刷・製本	株式会社こくぼ



NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

ISSN 1340-5527

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。